

2026 年度

# 教 育 要 項

(シラバス)

第 4 学年



岩手医科大学医学部

## 目 次

### **医学部第4学年**

教育要項（シラバス）の利用の仕方	1
医学部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
医学部における教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	3
医学部における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	5
医学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）	7
学生心得	9
岩手医科大学医学部学生 行動規範	16
岩手医科大学医学部卒業時コンピテンシー	20
医学部コンピテンス達成ロードマップ・マトリックス	33
医学部履修系統図	34
医学部カリキュラムマップ	39
大学における単位の考え方と授業外学修について	40
年間行事表	41
カリキュラムカレンダー	42
授業科目のコマ数・時間数	43
授業時間割	44
矢巾キャンパス平面図	47
講座・分野名の省略記載について	53

### **履修科目**

医事法学	55
医療プロフェッショナリズムIV	60
法医学	65
地域総合診療医学	73
老年医学	78
整形外科学	82
リハビリテーション医学	88
形成外科学	92
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	98
眼科学	104
皮膚科学	108
泌尿器科学	113
神経精神科学	119
放射線医学	126
麻酔学	133
救急医学	138
臨床遺伝学	143
臨床腫瘍学	147

臨床病理学	151
災害医学	156
感染症学	162
統合医学演習	168
症候学	172
基本的臨床技能実習	178

## **自由科目**

海外英語演習	180
地域医療課題解決演習	182

## **諸規則**

岩手医科大学学則	186
岩手医科大学における各学部の人材養成及び 教育研究上の目的と使命に関する規程	204
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程	206
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程	210
岩手医科大学医学部試験規程	212
成績評価に関する異議申し立て制度について	216
第4学年進級試験・進級判定基準	217
第4学年共用試験 CBT および共用試験 OSCE に関する取扱規程	218
追・再試験願・再試験仮受験願	219
岩手医科大学における人体標本取扱指針	222
岩手医科大学生命倫理規範	223
G P A 制度について	224
C A P 制度について	225
学生の教育成果物の利用について	226
本学医学部学生の大学院授業科目の先行履修に関する取扱い	227
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領	228

## **附图**

医学部医学科教育課程ナンバリング表	230
学生健康診断規程	232
学生健康診断等実施要領	234
オフィスアワー一覧	236

## 教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学医学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における医学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

### 授業計画、授業内容について

科目ごとに学習方針、教育成果(アウトカム)、到達目標(SBOs)、その日の授業内容を掲げています。

教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識・技能・態度が将来どのように利用されるかが分かります。

到達目標 —— 学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

すなわち、学生諸君は各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを示されているわけですから、日々の予習復習の目安にもなると思います。各授業に対する事前学習の時間は最低 30 分は要することになります。

なお、医学部第1～4学年の専門科目の授業ごとの到達目標については、WebClass に掲載していますので、本教育要項と併せて必ず確認するようにしてください。

### 教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自準備・購入してください。

### 成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「医学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

### オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間である。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

### 授業時間について

授業時間は1時限を90分とし、次のとおり授業を行います。

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
8 : 50～10 : 20	10 : 30～12 : 00	13 : 00～14 : 30	14 : 40～16 : 10	16 : 20～17 : 50

## 医学部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる医師として以下のような能力などを身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して、学士（医学）の学位を授与します。

1. 医療倫理：全人的人間性をもち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができること。
2. プロフェッショナリズム：豊かな教養と幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続ける責務と後進育成の使命を自覚すること。
3. 医療安全：安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知恵を身につけ、自己の身体的および精神的健康にも気を配りつつ、医療の質の向上に努めることができること。
4. 医学的知識・医学研究：臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な基礎生命科学、臨床医学、行動科学、社会医学および医学英語の知識と科学的思考方法を有しており、疾患の予防、診断と治療、あるいは研究に活用できること。
5. 診療技術・患者ケア：的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、プライマリケアを実践して記録する、という基本的な課程を「誠の医師」として患者に真摯に向き合っておこなえること。
6. コミュニケーション・チーム医療：「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族および医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができること。
7. 医療の社会性：「厚生済民」の建学の精神に基づき、社会保障制度および法律に関する知識を修得し、国内外の保健医療に貢献する意志を有すること。
8. 地域医療：本学は医療の偏在化を是正するために作られた医育機関であることをわきまえ、地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学、あるいは災害医療に貢献するという将来ビジョンを描き、地域医療で果たすべき責任を自覚していること。

以上の内容は、卒業時に達成していなければならない能力として、卒業時コンピテンシーに盛り込まれています。これらの教育成果を達成することができるように六年一貫で順次性をもったカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第2条に定める期間を在学し、かつ第6条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得することが要件となります。

## 医学部における教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医師として必要な知識・技能・態度を修得したものに、医学士の学位を与えます。そこに至るため、六年一貫の教育カリキュラムが作られています。

1. 実社会における複雑な事象に余裕を持って対応するためには、医学以外の領域にも幅広い知識を有していることが大事です。そのため、初年次からさまざまな教養科目を選択で学びます。法や倫理に関しては、医学専門課程を学びながら4年生で履修できるようにしています。
2. 入学直後から、地域医療あるいは研究の場で活用できる知識・技能と、前向きな姿勢を持てるようにするため、1年生より地域保健介護福祉見学研修、地域医療体験実習、看護・介護体験実習、初年次ゼミナールをおこないます。初年次ゼミナールでは、おもに基礎医学系の研究室で専門的な学問に触れることができます。
3. 社会正義と患者の福祉優先原則のもとに行動し、倫理的態度を自分のものとするため、倫理教育やプロフェッショナルリズム教育を1年生から受けるとともに、医療現場における見学と研修では行動と言動の是非を指導されます。
4. 入試形態の相違によるハンディキャップを解消して、無理なく医学専門課程が履修できるような橋渡し教育を1年生でおこないます。また、習熟度に応じた正規、あるいは課外の授業をおこないます。
5. 1～4年生では、基礎生命科学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を修得し、常に自分を振り返る謙虚な態度をもてるようにするため、レポートやポートフォリオによる学修記録や小テスト、定期試験を実施します。臨床現場に出て診療活動に Student Doctor として参加するだけの知識・技能・態度が身につけているかどうかは、4年生の共用試験（CBT と OSCE）で判断するため、共用試験前に基礎生命科学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識の定着を確認する演習や基本的臨床技能実習を実施します。
6. 医療・医学の進歩に遅れることなく、最新かつ最善の知識と技能を修得し、科学的思考方法を身につけるため、初年次にゼミナールに参加し、医学英語を2・3年生で学び、3年生で各講座・部門にて研究室配属をおこないます。図書館や教養教育センターあるいは学部専門講座の教員が、科学的リテラシーを教育する支援体制を構築しています。
7. 臨床医として、地域医療の現場で働く将来ビジョンを描き、コミュニティーで果たすべき責任を自覚するため、4・5・6年生は大学附属病院と地域医療機関で Student Doctor という立場で、見学型から実際の診療チームに加わる診療参加型の実習へ進むように実習を整備しています。
8. 人間関係を良好に保つことは、医療プロフェッショナルとして必要な資質です。そのため、1年生は全員が寮に入り、グループで生活する場に慣れるような環境を整備しています。初年次ゼミナールや3年生の研究室配属、あるいは各学年で配されているさ

まざまな実習は、少人数によるグループワークが基本になっています。臨床現場での診療参加型実習は、医療従事者、患者、家族などの質問や助言に真摯に耳を傾ける姿勢を身につける場となっています。

9. 医療現場で求められている多職種連携をスムーズにできるようになるため、他の学部の学生と一緒に作業をおこなうプログラムを複数学年に設けています。
10. 学位授与方針に述べている卒業時学修成果を達成できるように、カリキュラムは段階的に順次性をもって構築されております。各課程では、知識・態度・技能の面で所定の目標に到達したかどうかをアセスメント・ポリシーに則って多面的に評価し、学年ごとに進級判定をします。卒業前には、医学知識と問題解決能力を総合的に判定する試験と、技能・態度を評価する臨床実習後客観的臨床能力試験を実施しています。

## 医学部における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、十分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。医学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

医学部では、次のような人材を求めています。

1. 生命倫理を尊重し、医学を修得し実践するための知性と科学的論理性を有している。
2. 広い視野でものごとを捉え、自律的かつ積極的に課題を発見し、解決することができる旺盛な探求心を有している。
3. 病む人・悩める人の体と心を理解し、彼らに向きあう強い意志と情熱を有している。
4. 世界的視野から医学の進歩と発展に貢献するという向上心を有している。
5. さまざまな地域において、医療に誠意をもって貢献しようとする利他精神を有している。
6. 生涯にわたる継続的な学修をするため、自ら学ぶ意欲と積極性を有している。
7. 自己の身体的および精神的健康に気を配る実績を有している。

これらの資質を備えた人材であるか否かを判断するために、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜および歯科医師学士編入学者選抜を行い、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価します。

一般選抜では、学力試験として数学と理科（物理、化学、生物のうち2科目）と英語の筆記試験を行います。大学での学びに必要な基礎的な知識と論理的思考能力を備えているかどうか、また、最新の医学知識の学修や収集、研究成果の発信に必要な英語力を備えているかどうかを評価します。

学校推薦型選抜および総合型選抜では、基礎学力試験と調査書により大学での学びに必要な知識を備えているかどうかを評価します。基礎学力試験として、数学と理科（物理、化学、生物のうちから2科目）と英語の筆記試験を行います。また、前者では志望理由書によって将来医師となるための熱意や自覚を持っているかどうかを評価し、後者では自己推薦書によって本学の建学の精神を理解し地域医療に貢献する医師としての意欲・適性を評価します。

学士編入学者選抜では、既に生命科学の基礎的な知識を有する歯科医師を対象とし、学力試験を行い生命科学の基礎知識や一般教養を評価します。

以上に加え、上記いずれの入試区分においても面接を行い、人格的資質や基本的なコミュ

コミュニケーション能力、地域医療と研究にかける意欲、自己管理能力を評価します。選抜以前の学修態度、課外活動などについては面接の際に調査書に基づいて評価します（学士編入学者選抜を除く）。また、課題を抽出して解決する能力および論理展開能力を評価するために、学士編入学者選抜では小論文を課し、学校推薦型選抜および総合型選抜では Multiple Mini Interview (MMI) を行います。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。一方、大学設立使命に則って、地域医療の維持および促進を考慮した人材育成のための入試区分の枠を設けます。

## 医学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

本学医学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定めて、それに沿ってカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部理念に立脚し、以下の指針に則って、学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

- 講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
- 知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的スキル・行動表と業務現場評価法、および自己進捗度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
- 筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を客観的に査定します。
- 評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて年度ごとに見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
- 医学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの総括評価（進級判定あるいは卒業判定）をおこないます。
- 科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定にもちいる総括評価に加え、形成的評価を適宜おこなうことで、到達目標に至る道程を明らかにします。
- 総括評価の試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験をおこないます。また総括試験を何らかの事情で受験できなかった場合は、追試験をおこなうことがあります（獲得した点数の9割に減じられたのが、最終評価になります）。
- 総括評価では、被評価者が不利益を被らないように客観性と公平性を保証するため、教務委員会と教授会の2段階で、追試験・再試験の結果判定も加えて2回おこないます。
- 総括評価にあたっては、被評価者と評価者に利益相反がないことを確認します。
- 評価結果は被評価者と学費負担者に開示し、疑義があった場合は応じます。
- 科目（講義・演習・実習）を 1/3 以上欠席した学生は、原則として評価対象から外れます（欠点となります）。また、科目履修は出席することが前提ですので、出席することで総括評価に点数が加点されることはありません（いわゆる「出席点」は、ありません）。

- 各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。
- 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
- 被評価者からの照会に応じる体制を整備します（総括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等）。
- 何らかの障がいにより通常の試験を受けることが出来なくなった場合は、学修支援の一環として補助を提供します。

#### 注

- 大学入学者選抜時の評価指針は、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に含めます。
- 「誠の医療人」にふさわしくない行動をとった学生は、他に定める処罰規定によって、罰します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

## 学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第1章第1条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

### 1. 本学学生としての心構え

- (1) 医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。
- (2) 学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。
- (3) 学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。
- (4) 講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

### ○アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第1章第1条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

#### (1) 不適切な態度・行動の繰り返し

- ・ 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- ・ 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- ・ 時間管理ができない
- ・ 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- ・ 患者や同僚などへの無礼
- ・ 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- ・ 学修環境や臨床現場を混乱させる
- ・ 教員へ挑戦的行動をとる
- ・ 教員からの指摘を受け入れない

#### (2) 不正行為

- ・ 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- ・ 講義、実習での出席届の不正
- ・ 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- ・ 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- ・ 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- ・ レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

- (3) 職務上の役割以外の不正行為または詐欺
- ・ 研究でのデータ捏造
  - ・ 金銭的詐欺
  - ・ 経歴詐欺、書類偽造
  - ・ 資格詐称
  - ・ ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
  - ・ 不正行為や健康問題の大学への未申告
  - ・ 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽
- (4) 医療人を目指す者としての不適切な行動
- ・ ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
  - ・ 守秘義務の不履行
  - ・ ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
  - ・ 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
  - ・ 性的、人種的およびその他のハラスメント
  - ・ 不適切な診察や一線を越えた行動
  - ・ 不当な差別
- (5) 攻撃的な暴力や脅し
- ・ 暴行、身体的暴力
  - ・ いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
  - ・ ハラスメント
  - ・ ストーカー行為
- (6) 薬物またはアルコールの誤用や濫用
- ・ 飲酒運転
  - ・ 処方薬の乱用
  - ・ 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
  - ・ 薬物の不適切使用
  - ・ 不適切な過度の飲酒
- (7) その他の不適切行動または犯罪行為
- ・ 違法薬物の所持、取り扱い、提供
  - ・ 窃盗
  - ・ 無賃乗車
  - ・ 金融詐欺
  - ・ 児童ポルノ
  - ・ 児童虐待またはその他の虐待
  - ・ 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

## 2. 伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないように必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

## 3. 学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続きをする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

## 4. ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

## 5. ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

## 6. 授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

## 7. 自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合のみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円 (年間)
有効期限	申請年度内に限り有効 ※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	① 自動車通学許可申請書 ②登録料 ③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、許可された場合のみ発行

## 8. 自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク 1,000 円 自転車 500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	② 登録申請書 ②登録料 ③免許証 (バイクのみ)
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

## 9. 自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

### 【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

## 10. トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は1人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのWEBサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品売り込む	クーリング・オフ 制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

## 11. 注意事項

### (1) 飲酒

20歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

### (2) 拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

### (3) 盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

- 1) 多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。
- 2) ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。
- 3) 自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。
- 4) 学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届けてください。
- 5) 学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を經由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

#### (4) 校舎内、講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

#### (5) 喫煙

20歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってははいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

#### (6) 薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

### 1 2. 受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

#### 【マナー違反】

- (1) 私語 (2) 居眠り (3) 途中入退室 (4) 携帯電話・スマートフォンの私的利用 (5) 食事や飲酒 (6) 受講中の化粧
- (7) 服装の乱れ

### 1 3. 日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

#### 【マナー違反】

##### (1) ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方を考えましょう。

##### (2) タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

(3) 言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

(4) 駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない止め方はやめましょう。

# 岩手医科大学医学部学生 行動規範

## 【序文】

医学部で学ぶすべての学生は、将来、生命と尊厳を守る医療人として社会から高い倫理性・専門性・人間性を求められる存在である。医学部での学びは、知識や技術の習得だけでなく、医師としてのプロフェッショナリズム (Professionalism) を身につけ、生涯にわたり体現する姿勢を育む過程である。プロフェッショナリズムは、誠実さ、謙虚さ、利他的精神、説明責任、倫理的判断、多職種協働、能力向上への不断の努力など、多面的な価値から成り立つ。

本行動規範は、低学年の講義・演習から 早期臨床体験、高学年の臨床実習に至るまで、医学部 6 年間を通じて学生が信頼される医療者へ成長するための指針として策定する。

## 【1. 医療人を志す者としての自覚とプロフェッショナリズム】

- ・ 医師を志す者としての誇りと責任を持ち、学内外で模範となる行動をとる。
- ・ 「学ばせていただいている」という感謝の気持ちを忘れずに、患者さん・地域住民・医療スタッフへ敬意を払う。
- ・ 誠実さ、謙虚さ、倫理性を重んじ、医療者としてふさわしい人格を日々涵養する。
- ・ 自身の行動が医師全体の信頼に影響することを認識し、公共性のある行動をとる。
- ・ 医療者に不可欠な倫理観と人間性（誠実・謙虚・礼節）を日常生活から養い、「誠の人間」へと成長する。

## 【2. 基本的マナー・態度】

- ・ 礼儀・挨拶を徹底し、丁寧な言葉遣いを心がけ、周囲への敬意を示す。
- ・ 立場や背景の異なる人々を尊重し、多様性と協調性を重んじる。
- ・ 不適切な態度を指摘された場合は謙虚に受け入れ、改善する。

## 【3. 清潔で適切な身だしなみ】

- ・ 髪型・爪・衣服を清潔に整え、髪色は華美な染色を避け自然な色合いを保つなど、周囲に安心感を与える身だしなみを心がける。
- ・ 白衣やスクラブは院内のみで使用し、衛生的に管理する。
- ・ 実習施設・地域活動では、各施設の規定に従い、プロフェッショナルとしての外見を保つ。

## 【4. 講義・演習・実習における学修姿勢】

- ・ 遅刻・欠席を避け、主体的かつ積極的な姿勢で学修に取り組む。
- ・ スマートフォン操作、居眠り、飲食などのマナー違反を行わない。
- ・ 私語・失笑・無断離席など、周囲の学修環境を乱す行為を禁ずる。
- ・ 疑問点は積極的に質問し、学びの深化につなげる。
- ・ 建設的なフィードバックを謙虚に受け入れ、自己改善に活かす。
- ・ 医師として求められる能力(コンピテンス)を高めるため、継続的に学び続ける (Lifelong Learning)。

## 【5. 守秘義務の絶対遵守】

- ・実習・講義で知り得た患者さん、利用者、地域住民およびご検体などの個人情報を第三者に漏らしてはならない。
- ・学生同士の会話であっても、周囲に聞こえる場所で個人情報を話すことを厳に禁ずる (Professional Secret)。
- ・SNS を含むいかなる媒体においても、医療現場を想起させる情報を一切投稿しない。
- ・守秘義務は「卒業後も継続する」。これは医療者の基本倫理である。
- ・誘惑や不正の機会に直面しても、誠実で公平な判断を貫く姿勢を保つ。

## 【6. 情報の適切な取り扱い】

- ・カルテ、画像検査、介護記録などの資料を施設外へ持ち出したり、複写したりしてはならない。
- ・配布資料やレポート等は丁寧に管理し、紛失・破損を起こさない。
- ・電子記録（カルテ等）へのアクセスは、学修目的に必要な範囲に限って行う。
- ・情報セキュリティに対する自覚を持ち、医療機関のルールに従う。

## 【7. 早期臨床体験での姿勢】

- ・初めて医療・介護・地域の現場に触れる者として、謙虚で誠実な姿勢を保つ。
- ・地域住民や医療・介護スタッフの協力に感謝し、学びの機会を大切にする。
- ・私語や失笑を慎み、対象者の背景や価値観を尊重した、思いやりのある態度を身につける。
- ・観察・体験を通じて、医療の社会的役割や医師としての責務を理解する。

## 【8. 高学年臨床実習での責任ある行動】

- ・医師法による Student Doctor である自覚をもって実習に臨む。
- ・実習施設の一員としての自覚を持ち、医療安全と院内感染防止を最優先に行動する。特に、手指消毒を妨げる物品 (iPad 等) を手に持ったまま病棟に入らないなど、基本的感染対策を徹底する。指導医の指示を遵守し、不明な点は必ず確認・報告する。
- ・指導医の指示を遵守し、不明な点は必ず確認・報告する。
- ・診断名や医療内容などを学生単独で患者・家族へ説明してはならない。
- ・患者さんの情報の記録・取り扱いを適切に行い、情報漏洩を防ぐ。
- ・ICU・PICU・HCU・SCU・手術室等の特殊エリアの規則を厳守し、清潔操作を徹底する。
- ・臨床現場での経験を通じ、患者中心の視点と倫理的判断力を育む。

## 【9. 多職種への敬意と協働】

- ・医師のみならず、歯科医師、薬剤師、看護師、検査技師、放射線技師、リハビリ職、管理栄養師・調理師、臨床工学技士、介護職、事務職、物品管理員、清掃員など、すべての職種を尊重する。
- ・各職種の専門性と意見を尊重し、協調性と柔軟性をもってチーム医療の一員として協働する。
- ・他職種の意見に耳を傾け、協調性と柔軟性を持って行動する。
- ・多様な価値観を尊重し、相互の信頼を醸成するコミュニケーションを行う。

#### 【10. 時間管理と責任ある行動】

- ・時間厳守は、患者さんの安全確保とチームからの信頼を支える基盤である。
- ・集合時間を厳守し、遅刻や欠席が避けられない場合は、必ず速やかに指定された公式の連絡先（教務課、実習担当科、教育担当など）へ直接連絡し、必要な手続きを確実に行うこと。友人を介した連絡や、独自の判断で連絡先を選ぶことは認められない。
- ・欠席の際には速やかに連絡し、必要な手続きを確実に行う。
- ・約束を守り、説明責任（Accountability）を果たす態度を大切にする。

#### 【11. 望ましい医学部学生像】

- ・時間管理や学修態度が安定し、主体的に学びに取り組む。
- ・仲間と協力し、建設的な意見交換やフィードバックを活かせる。
- ・穏やかで誠実なコミュニケーションができ、周囲に配慮した言動がとれる。
- ・不正・暴言・ハラスメントなどプロフェッショナリズムに反する行為を行わない。
- ・医療者として求められる倫理観、責任感、利他的姿勢を備えている。

#### 【結語】

医学を学ぶ 6 年間は、知識と技術を習得するだけでなく、医療人としての人格とプロフェッショナルリズムを確立する重要な時期である。

本行動規範を日々の生活・講義・実習の中で体現し、誠実で信頼される医師として社会に貢献することを心より期待する。

## 行動規範の目標

### 1. 医療人を志す者としての自覚とプロフェッショナリズム

誠実さと倫理性を持ち、公共性を自覚し、社会の信頼に応える行動をとる。

### 2. 基本的マナー・態度

丁寧な言葉遣いと協調性で周囲へ敬意を払い、謙虚に学び多様な価値観を尊重する。

### 3. 清潔で適切な身だしなみ

清潔で整った身だしなみを徹底し、患者さんに安心感を与える外見を保つ。

### 4. 講義・演習・実習における学修姿勢

周囲の学修環境を尊重しながら、積極的な学修姿勢で生涯学習の基盤を築く。

### 5. 守秘義務の絶対遵守

患者さんの尊厳とプライバシーを厳格に保護し、生涯にわたる医療倫理の根幹を実践する。

### 6. 情報の適切な取り扱い

医療情報を適切に管理し、紛失・漏洩を防ぐ。

### 7. Early Exposure (低学年実習) での姿勢

初学者として謙虚に学び、感謝と誠実さをもって現場に触れ、思いやりのある態度を身につける。

### 8. 高学年臨床実習での責任ある行動

Student Doctor として医療安全を徹底し、患者さん中心の視点を養いながら、チームの一員として責任ある行動をとる。

### 9. 他職種への敬意と協働

多職種の専門性を尊重し、信頼関係を築き、協働の姿勢でチーム医療に貢献する。

### 10. 時間管理と責任ある行動

時間を厳守し、適切な報告・連絡を通じて患者の安全とチームの信頼を支える。

### 11. 望ましい医学部学生像

主体的に学び、倫理観と責任感をもって医療者としての成長を続ける。

# 岩手医科大学 医学部 卒業時コンピテンシー

「誠の人間を育成する」という本学の理念を達成するために

本学医学部では、ディプロマポリシーに掲げる、

学生が卒業時に習得すべき8つの能力（=コンピテンス）について

具体的な達成目標として次のとおりコンピテンシーを定めている。

## I. 医療倫理

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に全人的人間性を持ち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができる。

## III. 医療安全

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域に安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知識を身につけ、医療の質の向上に努めることができる。

## V. 診療技術・患者ケア

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、誠の医師として患者に接し、的確な診療を実践できる。

## VII. 社会における医療の実践

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に社会保障制度および法律に関する知識を有し、国内外の保健医療に貢献できる。

## II. プロフェッショナリズム

岩手医科大学医学部の学生は、幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続けることができる。

## IV. 医学的知識

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に診療の場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を習得し、疾患の予防、診断、治療に活用できる。


## VI. コミュニケーションとチーム医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができる。

## VIII. 地域医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学を実践できる。


# I. 医療倫理

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
I-1 倫理観		医療倫理・研究倫理の原則を説明できる。	生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考について述べるができる。
I-2 利益相反		利益相反について説明できる。	利益相反となる問題点を列挙できる。
I-3 守秘義務		守秘義務と個人情報保護について説明できる。	




# II. プロフェッショナリズム

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
II-1 謙虚な姿勢と 自己規制	a	医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。	社会的立場をふまえ、常に自らを律し、傲ることなく、謙虚に行動できる。
	b	自身の抱える問題を列挙し、それらの問題に対し自身の能力で対処可能かどうかの判断ができる。	自己解決不可能な問題について、指導者や上級医に助言を求めることができる。
II-2 利他的・ 共感的態度		利他的・共感的な態度について説明できる。	患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できる。
II-3 臨床経験・ 研究成果の発表		与えられたテーマや模擬症例についてグループ内でディスカッションし、その結果をクラス内で発表できる。	経験した症例や研究について指導者と共に解析および考察し、学内でプレゼンテーションできる。
II-4 生涯学習		医学生として必要な最低限の常識を身につけ、継続して学習する姿勢を身につける。	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につける。
II-5 後進の育成		自ら学んだ知識を後輩へ伝えることができる。	自ら学んだ知識や技能を後輩へ伝えることができる。

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的方策を提案できる。	
利益相反を開示できる。	
守秘義務を順守し、個人情報を保護できる。	

advanced	
レベル S	
医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考に基づいた診療・研究ができる。	
利益相反を生じる可能性を認識し適切に対処できる。	
	

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
全人的人間性に基づき、自身を振り返ることにより行動改善ができる。	
他者からの助言・指導を真摯に受け止め、受け入れることができ、後輩に対しては適切な助言ができる。	
患者の苦痛・心情に配慮し、患者および家族に対し、利他的・共感的な態度で行動できる。	
経験した症例や研究について指導医と共に解析および考察し、それらを社会に発信することができる。	
医師として、進歩し続ける医療における最新の知識を収集することができる。	
「誠の人間たる」態度を身につけることの必要性を後輩に説明できる。	

advanced	
レベル S	
	
	
	
経験した症例や研究について指導医の下で自身が主体となり解析および考察し、それらを社会に発信することができる。	
進歩し続ける医療において、最新・最善の医療を提供するために、継続して学習し続けることができる。	
教育・研究・診療を次世代に受け継いで行く使命を認識し、後進の指導・育成を行うことができる。	

# Ⅲ. 医療安全

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
Ⅲ-1 感染対策		感染症と感染対策について説明できる。	指導のもとに、一般的な感染予防策を立案できる。
Ⅲ-2 安全管理	a	インシデント、アクシデントの違いを理解し、説明できる。	インシデント、アクシデント発生時の対応について説明できる。
	b	医療事故調査制度を説明できる。	事例から医療事故のレベルを判断できる。
	c	医療安全規範について説明できる。	医療安全規範に基づき、状況に応じた行動方法を提示できる。
Ⅲ-3 医療の質		診療技能や安全管理について振り返ることの重要性を説明できる。	医療の質

卒業時コンピテンシー

レベル A

感染対策について理解し、予防策を実践できる。

岩手医科大学の医療安全マニュアルを理解し、実践できる。

医療事故を認識し、発生時に必要な対応を列挙できる。

医療安全規範についての知識を持ち、患者・医療スタッフの安全を守るための対応ができる。

自らが実施している診療技能や安全管理について振り返り、改善に努めることができる。

advanced

レベル S

感染対策の重要性を理解し、着実に予防策を実践し、指導することができる。

インシデント、アクシデントレポートを適切にかつ速やかに報告でき、今後の対策に活用することができる。

医療事故発生時の対応を理解し、指導医のもと実践できる。

医療安全規範について深く理解し、地域の医療現場において反映できる。

組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、改善・向上を図ることができる。

# IV. 医学的知識

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
IV-1 基礎医学	a	人体の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる機構を説明できる。	基礎医学の知識を主要な疾患の病因・病態・症候の理解に応用できる。
	b	病気の発症と進展に関わる因子・機構を説明できる。	
	c	ライフサイクル（発達、成長、加齢、死）を説明できる。	
IV-2 社会医学	a	疾病予防、健康増進の重要性、健康行動に関する理論について説明できる。	社会医学に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動・健康増進について立案できる。
	b	保健・医療・福祉・介護の関連法規・制度・組織・専門職について概説できる。	モデル事例を用いた行動立案演習において、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮できる。
IV-3 疫学、統計学		医学に必要な疫学、統計学の基礎を説明できる。	疫学や生物統計学の知識を応用して、実習・実験データを評価することができる。
IV-4 行動科学		精神機能と行動、人間関係、社会との関わりを説明できる。	基礎科学や行動科学に裏付けられた知識から、人の心理と行動について考察できる。
IV-5 医学英語		医学英単語を用いて簡単なコミュニケーションができる。	指導の下に、英字の医学書・論文を読み、内容を概説することができる。
IV-6 臨床医学		高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後を説明できる。	高頻度または重要な疾患について、知識を用いて、臨床推論に基づく適切な診断ができる。
IV-7 リサーチ マインド		疑問点や問題点をピックアップすることができる。	疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集できる。

基礎医学の知識を基盤に、疾患の病因、病態、症候を説明し、診断、治療に活用できる。

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動に参加できる。

医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を意識して行動できる。

生物統計学や疫学に関する基本的知識を用いて、医学情報を説明できる。

人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応ができる。

英語の医療文書や医学論文を読み、その内容を概説できる。

適切に診察を行い、臨床推論に基づく適切な診断ができ、治療方針を提案できる。

疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集し、それを基に論理的・批判的に思考できる。

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を、診断や治療へ応用することができる。

地域のニーズと特性を考慮し、個人・集団を対象とした予防活動を実践できる。

医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮した活動を提案できる。

診療データや研究データを整理・統合し、生物統計学や疫学に関する基本的知識を論文や学会発表の形で発信できる。

人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。

英語を用いて患者とコミュニケーションをとり、症例サマリーなどを適切に英文で記載できる。

高頻度または重要な疾患について、知識や臨床推論を用いて、診断を適切に行い、初期治療ができる。



## V. 診療技術・患者ケア

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
V-1 医療面接		聴取すべき項目について説明できる。	病歴を正確に聴取することができる。
V-2 臨床技能		基本的身体診察や臨床手技について概説できる。	模擬患者やシミュレータに対して基本的身体診察や臨床手技を実践できる。
V-3 問題解決		重要な症候について鑑別すべき疾患を挙げることができる。	与えられた医療情報から異常所見について基礎医学を用いて概説し、鑑別疾患を列挙し、検査計画を立案できる。
V-4 文書作成	a	医療文書、問題志向型診療記録について概説できる。	模擬症例の情報を問題志向型診療記録形式で模擬診療録に記載し、問題リストを作成できる。
	b	診断書、処方箋について概説できる。	模擬書類を用いて診断書、各種処方箋を記載できる。
V-5 プレゼンテーション	a	相手にわかりやすく、簡潔なプレゼンテーションの作成方法を説明できる。	模擬症例について、病態・診断・検査・治療などのプレゼンテーションができる。
	b	病状説明や患者教育の手法について概説できる。	模擬患者に対して、病状説明や患者教育を行うことができる。
V-6 救急医療		緊急を要する疾患や救急医療体制の概要を説明できる。	シミュレーターで、緊急性の高い状況を判断でき、一次救命処置を行うことができる。
V-7 患者への配慮		患者や家族の精神的・身体的苦痛に配慮できる。	日常において、障害を持った人に対して、誠実で適切な支援を行うことができる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

病歴を聴取し、情報を取捨選択し、整理できる。

患者に対して、診断に必要な基本的身体診察や基本的臨床手技を安全に実践できる。

収集した病歴・身体所見より臨床推論ができ、頻度の高い、または、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断を行い、治療計画を立案できる。

問題志向型診療記録形式で電子カルテを正確に記載できる。

診断書・各種処方箋を計画できる。

病歴についての要約を作成し、プレゼンテーションができる。

病状説明や患者教育に参加できる。

緊急を要する疾患・外傷の病態を理解し、医療チームの一員として救急医療の場で介助できる。

患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援を行うことができる。

advanced

レベル S

病歴を要領よく正確に聴取し、診断に役立てることができる。

日常診療に用いる臨床手技を安全に実施できる。

収集した医学情報から鑑別診断を行い、診断・治療に必要な検査計画を立案した上で、指導医のもとで治療を実施できる。

問題志向型診療記録形式で診療録に必要十分な内容を記載できる。

指導医のもとで診断書・各種処方箋を記載できる。


目的に応じた内容で、情報共有に役立つわかり易いプレゼンテーションができる。

指導医のもとで患者、家族の個別性やニーズを考慮して適切な病状説明や患者教育を行うことができる。

救急医療の場で医療チームの一員として、指導医のもと適切な医療を行うことができる。

患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援と助言を行うことができる。

# VI. コミュニケーションとチーム医療

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VI-1	患者医師関係	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を列挙できる。	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景を理解し、問題点を提示することができる。
VI-2	コミュニケーション スキル	a コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を説明することができる。	
		b 病状説明の要点項目を述べるができる。	
VI-3	インフォームド コンセント	インフォームドコンセントの概要を説明できる。	模擬患者に対してインフォームドコンセントを実践することができる。
VI-4	チーム医療	a 歯・薬・看護学部の学生との演習において、適切な関係を築くことができる。	他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で協力して、課題から問題点を抽出し、解決法を提示することができる。
		b 同級生やグループ間で、お互いに協力しながら学びあうことができる。	同級生やグループ間で協力して、課題から問題点を抽出することができる。
		c 他の職種の専門性を理解し、チーム医療の必要性と構成員の役割分担を説明できる。	同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスにおいて、担当患者の要約を作成できる。
		d チーム間における情報交換の重要性について説明できる。	同級生や他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、良好な人間関係を築くことができる。

コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解し、実践できる。

指導医・医療スタッフに対し、患者への説明を想定したわかりやすい病状説明を行うことができる。

インフォームド・コンセントの必要性を理解した上で、参加もしくは一部実践できる。

医師としての誠実さや公正性を示し、患者・家族を含めた医療チームの一員であることを自覚し、診療に参加できる。

上級医、同級生や医療スタッフ間で、抽出された問題点について話し合い、共に学び合うことができる。

多職種で構成されるカンファレンスに参加し、担当患者の要約を報告できる。

医療チーム内で情報交換を行い、情報の共有や説明、伝達ができる。

advanced

レベル S

患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、確たる信頼関係を築くことができる。



病状をわかりやすく説明した上で、指導医のもと患者や家族の意向を尊重した方針の決定ができる。

指導医のもと、患者に適切なインフォームド・コンセントを実施できる。

医師としての誠実さや公正性を備え、患者・家族を含めた円滑なチーム医療を実践できる。

提供する医療の向上のために、医師や医療スタッフ間で、建設的なフィードバックを行い、協力して学び合うことができる。

患者・家族を含めたチーム医療に参加し、積極的な情報交換を行える環境を作り、自ら意見を述べることができる。

医療チームの一員として組織内外の改善案を提案すると共に、チーム内で情報交換を行い、患者やその家族、および医療スタッフからのアドバイスを真摯に受けることができる。

## VII. 社会における医療の実践

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VII-1 社会保障	a	社会保障の理念および制度とそれに携わる職種について説明できる。	社会保障に携わる各専門職と連携した医療を体験し、連携の必要性を説明できる。
	b	医療関連法規を概説し、医師の義務を列挙できる。	
VII-2 国際貢献		医療に関わる国際協力の重要性・仕組みを説明できる。	保健・医療に関する国際的課題を説明できる。
VII-3 保険診療・ 医療経済		各種保険診療と診療報酬制度を説明できる。	各種保険診療と診療報酬制度の問題点を抽出できる。

## VIII. 地域医療

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VIII-1 地域医療		地域包括ケアの概念および地域医療および医師偏在の現況を概説できる。	地域医療を体験し、地域包括ケアにおけるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
VIII-2 健康増進と 予防医学	a	社会と健康・疾病の関係および予防医学の概念を説明できる。	地域医療を体験し、健康に関する地域の特性と医学的な問題点を説明できる。
	b	健康増進に係る各機関の役割を説明できる。	
VIII-3 災害医療		大規模災害での医療の特殊性とそれに関与する組織（DMAT 等）について説明できる。	岩手県の被災地の特性や災害から災害後に必要な医療と公衆衛生を説明できる。

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
<p>● 社会保障制度を理解し、その知識を臨床の場で活用できる。</p>	
<p>● 国際社会の一員として、文化・社会・環境に配慮した医療活動に参画できる。</p>	
<p>● 保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を提示できる。</p>	

advanced	
レベル S	
<p>● 医療・社会問題について関心をもち、対策を立案できる。</p>	
<p>● 医療チームに加え、行政、福祉および介護施設、その他関連機関と連携できる。</p>	
<p>● 国内外で医師として医療・保健・研究等の活動を通じて国際社会に貢献できる。</p>	
<p>● 保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を実践できる。</p>	

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
<p>● 疾病予防・包括ケア・救急医療・在宅医療・慢性期医療の地域における問題点を抽出し、医療チームの一員として参画できる。</p>	
<p>● 地域医療に参画し、予防医学や健康増進を推進できる。</p>	
<p>● 災害の各時期に必要とされる組織および多職種連携を理解した行動ができる。</p>	

advanced	
レベル S	
<p>● 地域の特性を考慮して、地域包括ケアと連携した医療を実践し、指導医のもと、地域コミュニティーの発展に向けて提言ができる。</p>	
<p>● 健康に関する地域の特性と医学的な問題点を把握し、地域のニーズに応じた医療を実践することで地域の予防医学・健康増進の推進に貢献できる。</p>	
<p>● 国内外の大規模災害の実態を理解し、指導医のもと、医療と公衆衛生を実践できる。</p>	

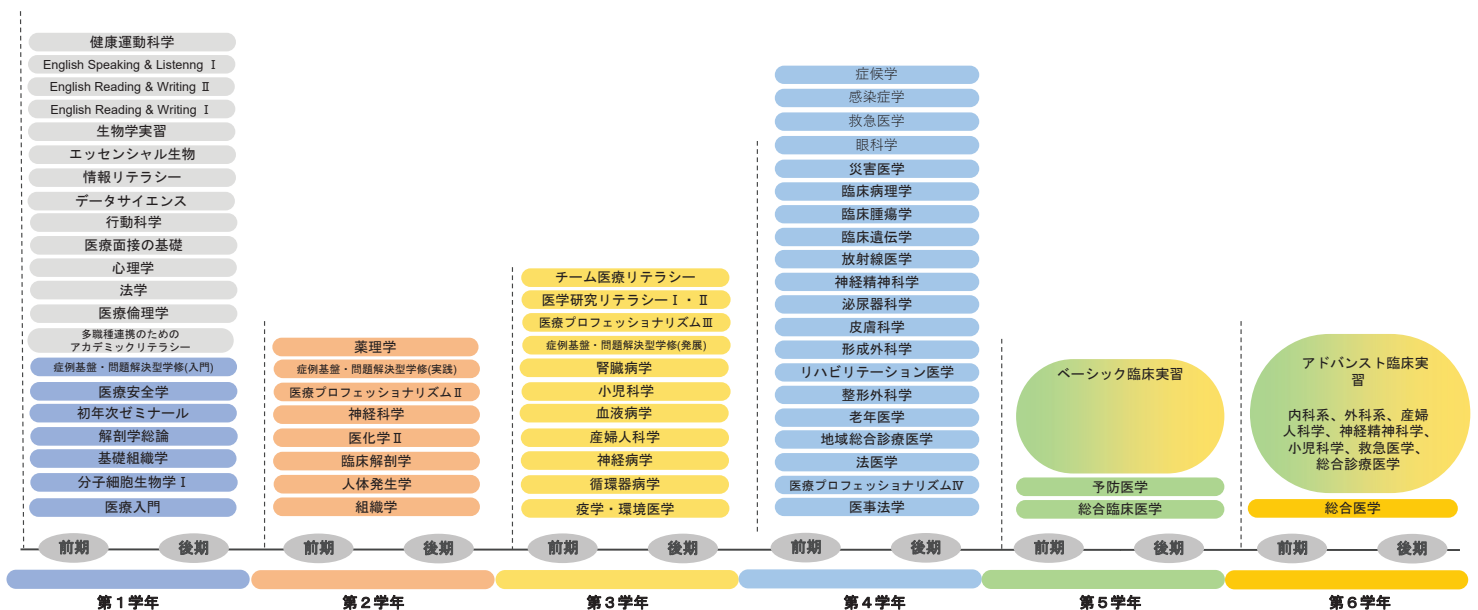


# 令和8年度岩手医科大学 医学部第1～6学年教育要項

## 履修系統図（必修科目のみ掲載）

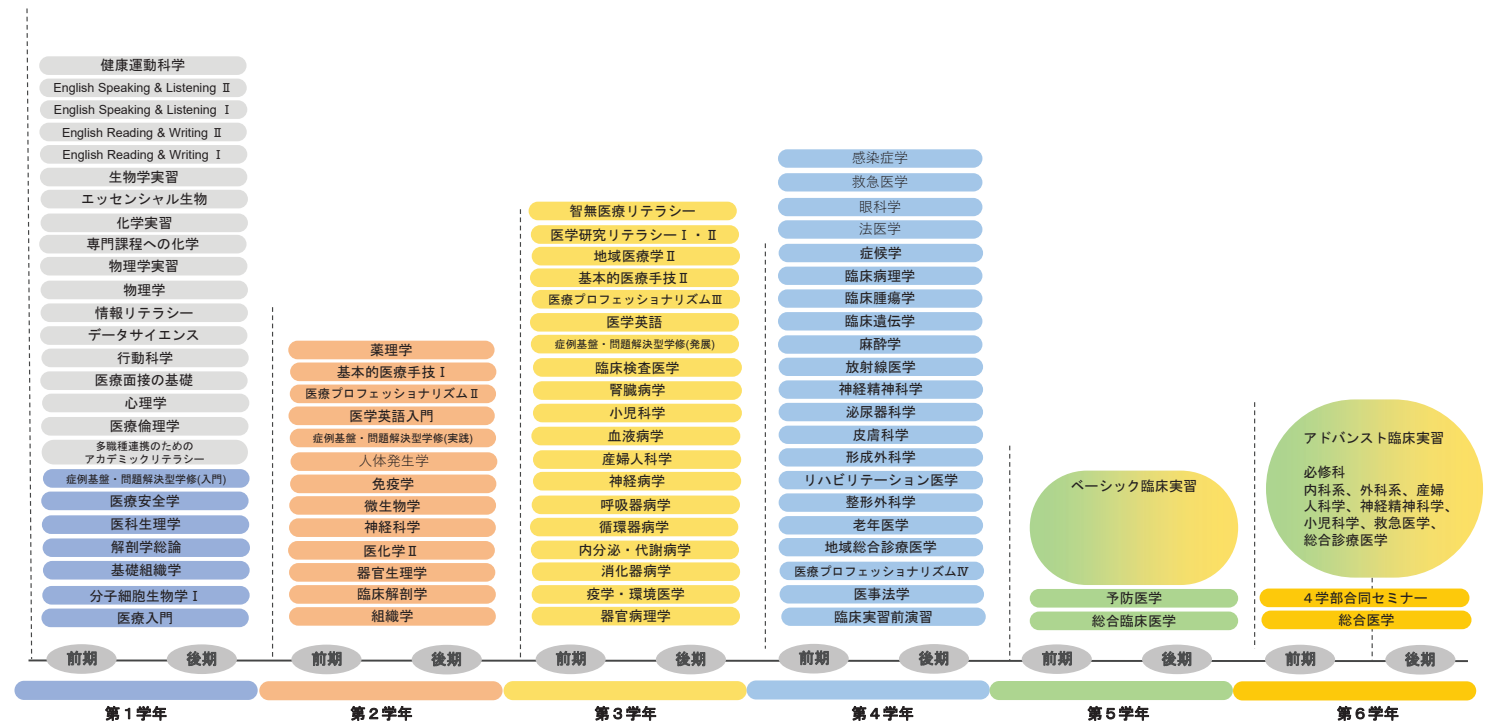
### DP1：医療倫理

全人的人間性をもち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができること。



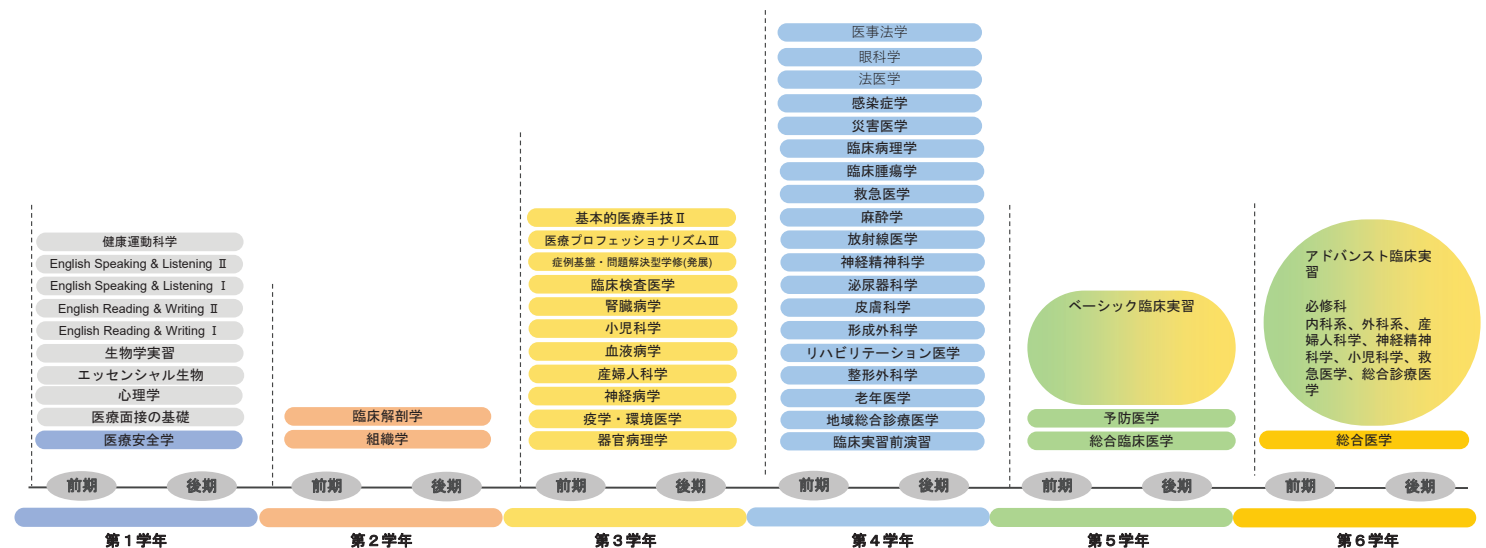
## DP2：プロフェッショナリズム

豊かな教養と幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続ける責務と後進育成の使命を自覚すること。



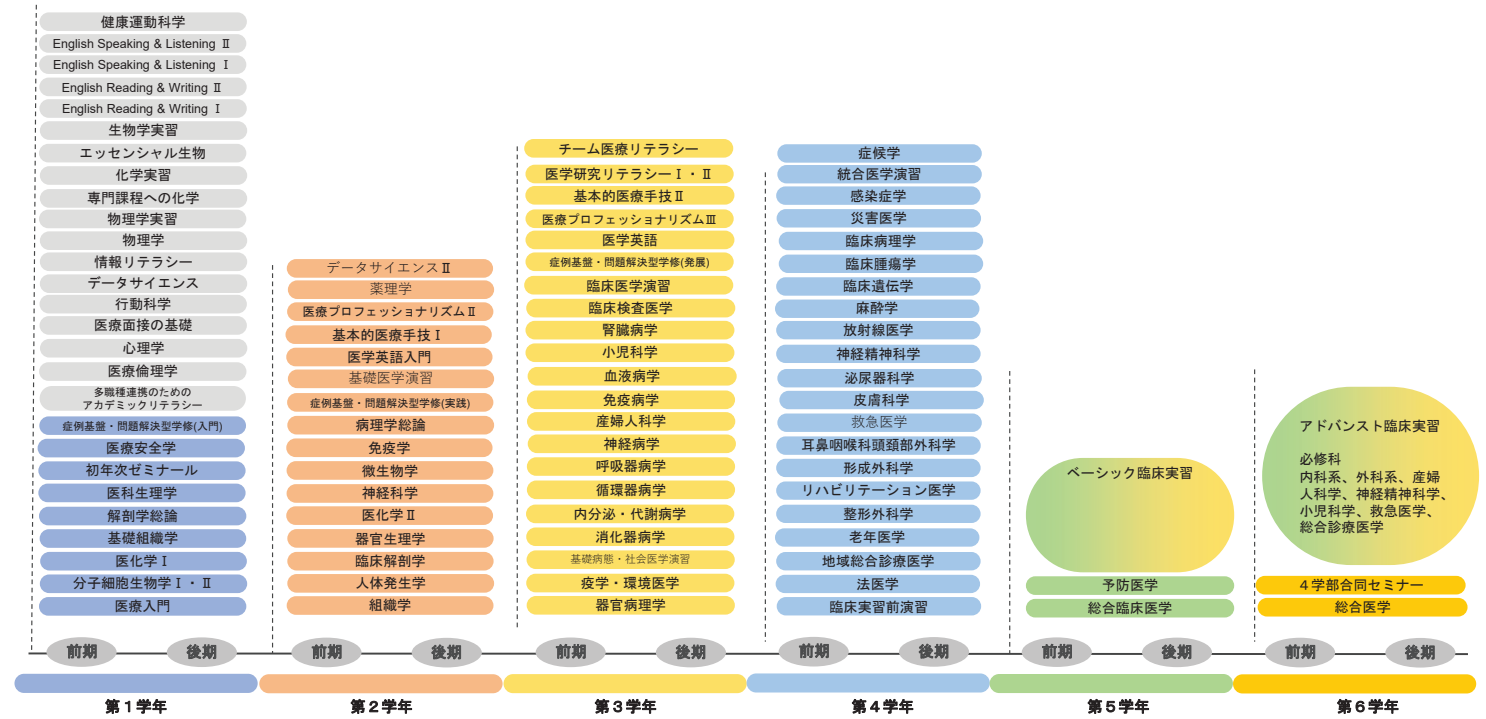
## DP3：医療安全

安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知恵を身につけ、自己の身体的および精神的健康にも気を配りつつ、医療の質の向上に努めることができること。



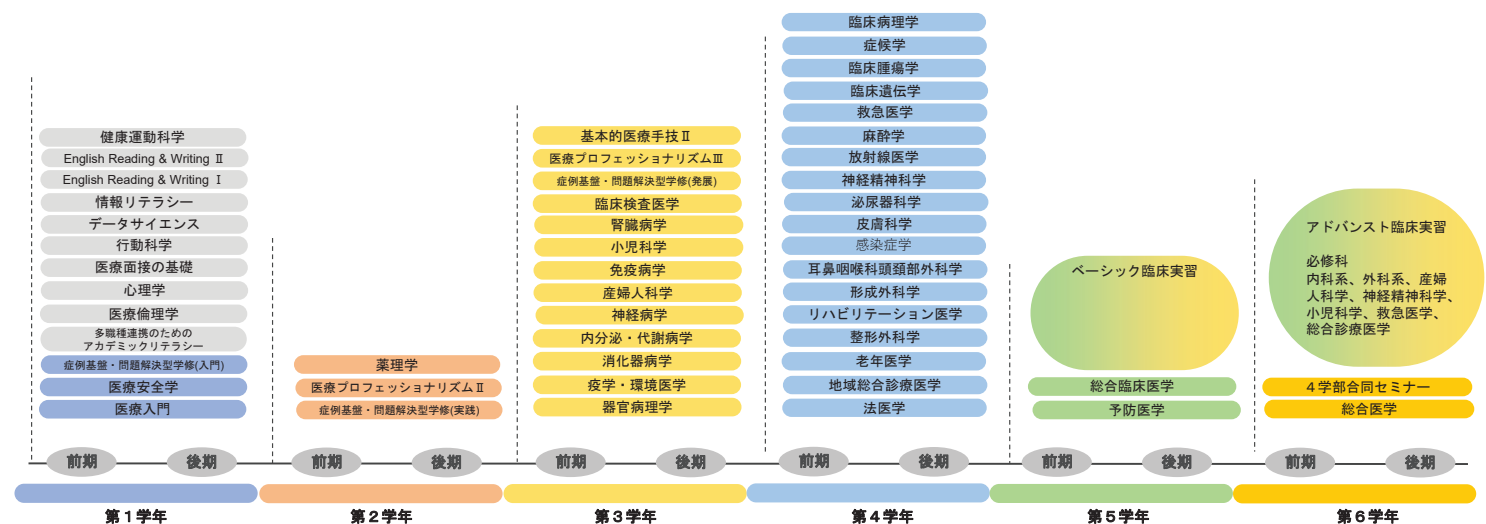
## DP4：医学的知識

初期臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な基礎生命科学、臨床医学、行動科学、社会医学および医学英語の、知識と科学的思考方法を有しており、疾患の予防、診断と治療、あるいは研究に活用できること。



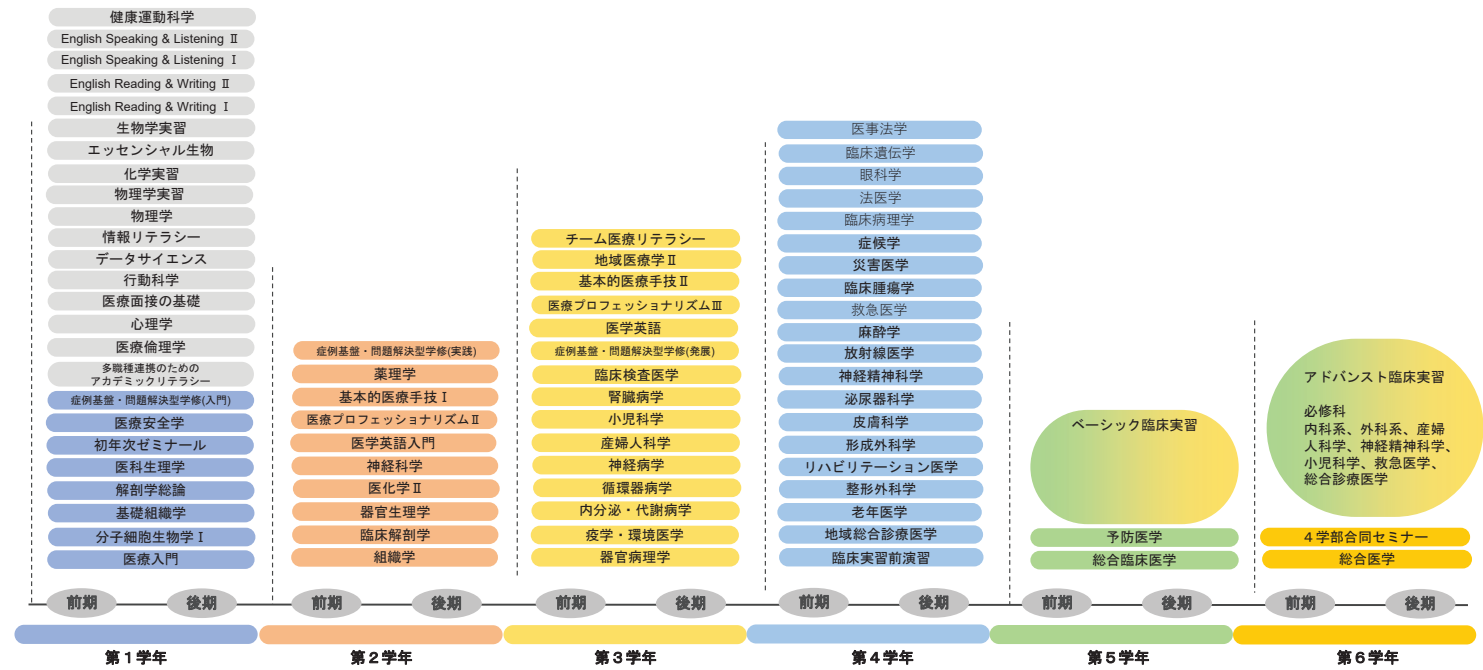
## DP5：診療技術・患者ケア

的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、プライマリケアを実践して記録する、という基本的な課程を「誠の医師」として患者に真摯に向き合っておこなえること。



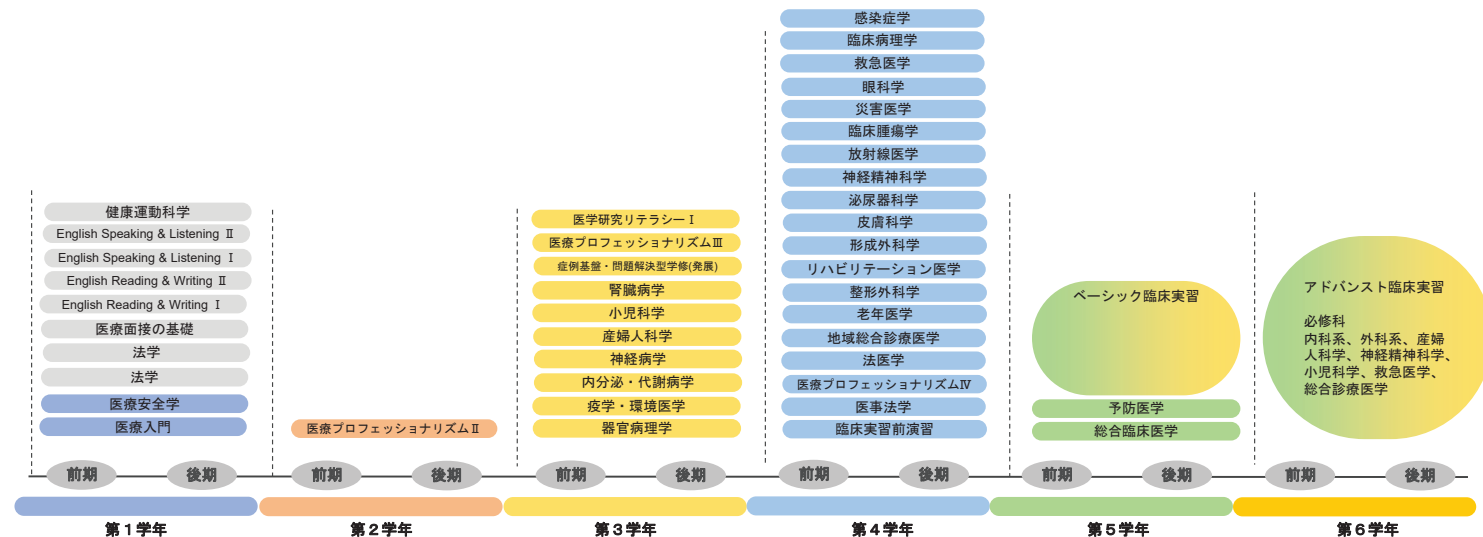
## DP6：コミュニケーションとチーム医療

「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族および医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができること。



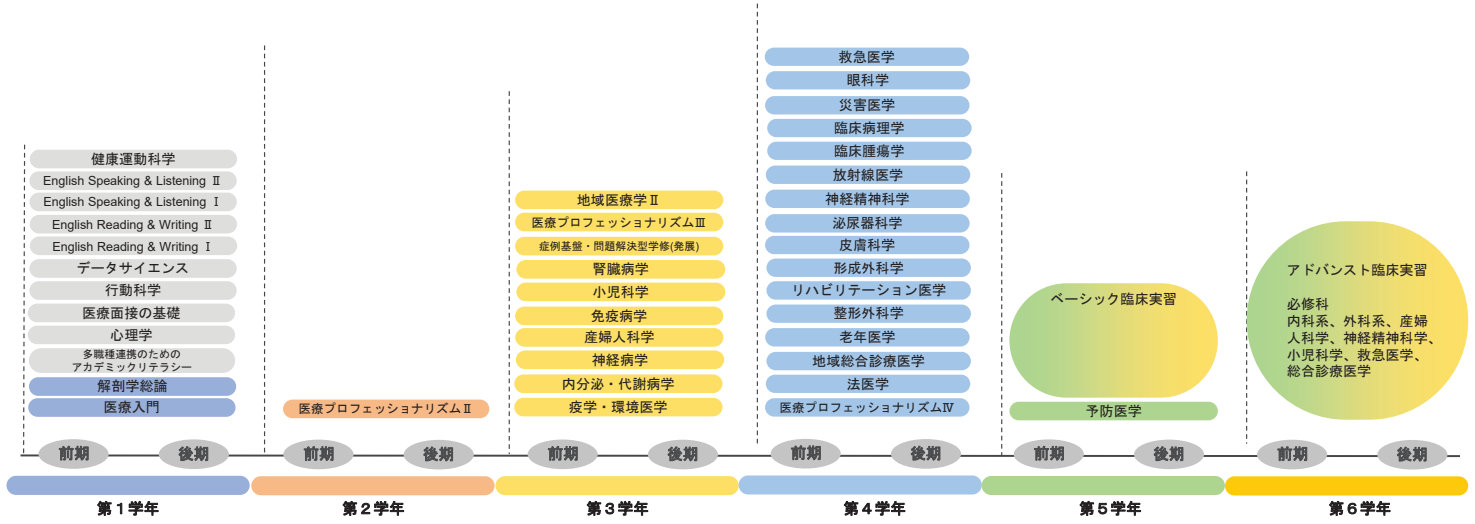
## DP7：医療の社会性

「厚生済民」の建学の精神に基づき、社会保障制度および法律に関する知識を修得し、国内外の保健医療に貢献する意志を有すること。



# DP8：地域医療

本学は医療の偏在化を是正するために作られた医育機関であることをわきまえ、地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学、あるいは災害医療に貢献するという将来ビジョンを描き、地域医療で果たすべき責任を自覚していること。

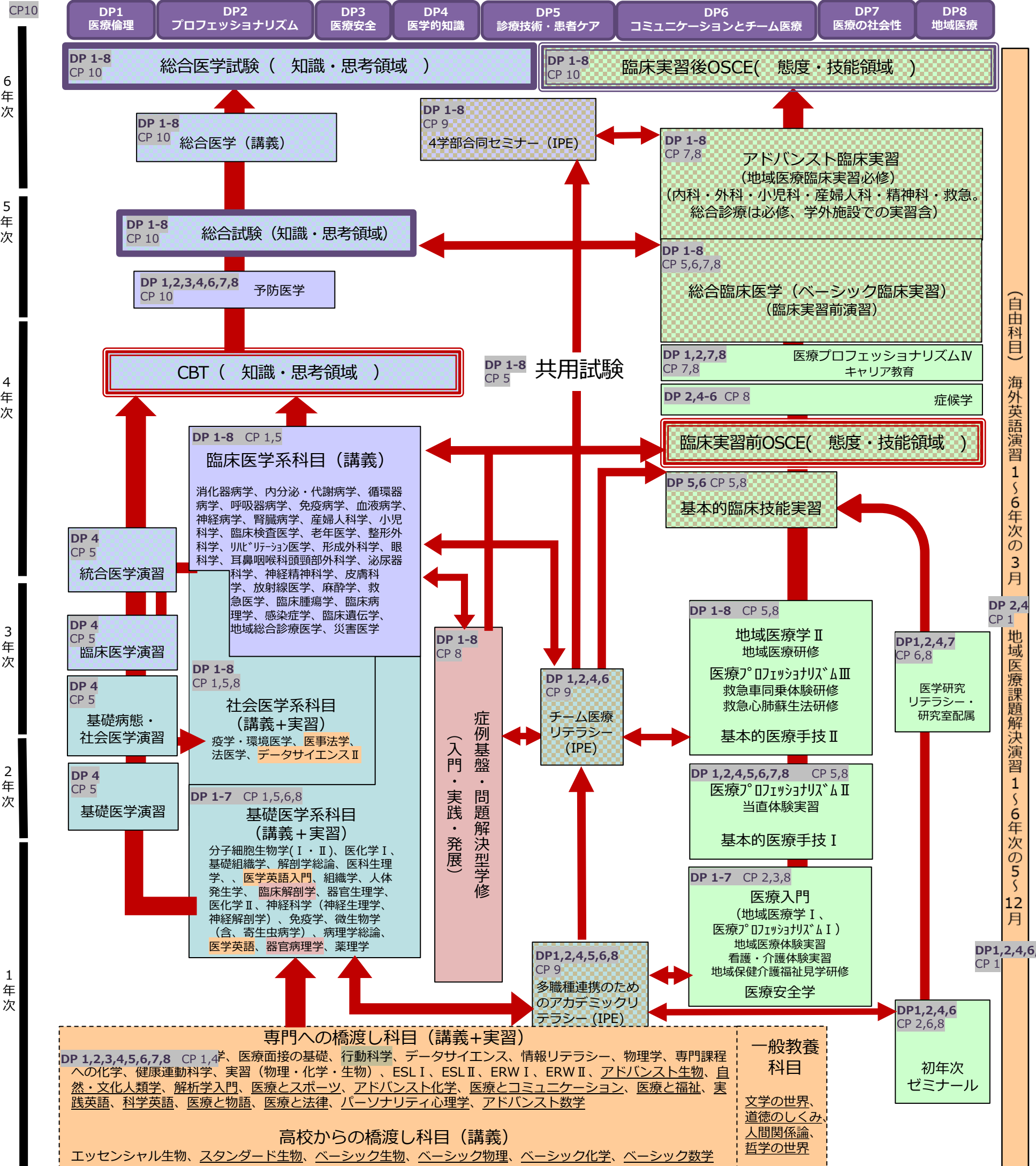


# 医学部医学科カリキュラムマップ 2026

医師国家試験

臨床研修

## ディプロマ・ポリシー (DP)



(自由科目) 海外英語演習 1～6年次の3月

地域医療課題解決演習 1～6年次の5～12月

DP1,2,4,6,8 CP 1

知識・思考領域 (臨床医学) | 知識・思考領域 (基礎医学・社会医学) | 知識・思考領域 (教養科目・橋渡し教育) アンダーラインは選択必修

態度・技能領域 (基礎医学・社会医学・臨床医学) | 知識・思考領域 (基礎医学・臨床医学統合) | 知識・思考・技能・態度 (行動科学)

ディプロマ・ポリシー (DP: 1~8)、カリキュラム・ポリシー (CP: 1~10)

## 大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて45時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる事前・事後学修が必要になります。

例えば以下の例を考えてみます。

例) 講義・実習 14 コマで1単位の科目の場合

講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間 (90 分を 2 時間として計算) = 28 時間

45 時間 - 28 時間 = 17 時間

計 17 時間分 (1 コマあたり 72 分以上) の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間 (90 分=2 単位時間) ではなく実時間 (実際の授業時間) に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

2026年度 第4学年 年間行事予定

予 定	期 間
ガイダンス	4月1日(水)
CBT学内模試	4月2日(木)
前期授業	4月1日(水) ～ 6月25日(木)
CBT模擬試験①	5月16日(土)
講演会	6月2日(火)
CBT生講義	6月5日(金)
試験前休み	6月26日(金) ～ 6月29日(月)
進級試験	6月30日(火) ～ 7月17日(金) 21科目 老年医学、整形外科学、リハビリテーション医学、形成外科学、放射線医学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、災害医学 麻酔学、救急医学、法医学、地域総合診療医学、神経精神科学、 臨床遺伝学、感染症学、臨床腫瘍学、臨床病理学、医事法学、統合医学演習
CBT模擬試験②	7月21日(火)
CBT前休み	7月22日(水) ～ 8月21日(金)
共用試験CBT	8月22日(土)
基本的臨床技能実習①	8月24日(月) ～ 9月18日(金)
共用試験OSCE	1日目：9月12日(土) 2日目：9月19日(土)
症候学	9月24日(木) ～ 9月30日(水)
医療安全シンポジウム	9月26日(土)
医療プロフェッショナリズムⅣ	10月1日(木) ～ 10月2日(金)
判定Ⅰ	10月7日(水)
OSCE追再試験	10月18日(日)
CBT追再試験	10月24日(土)
臨床実習前演習	10月26日(月) ～ 10月30日(金)
判定Ⅱ	11月4日(水)
Student Doctor認定式	11月6日(金)
ベーシック臨床実習	11月9日(月) ～

## 2026年度第4学年カリキュラムカレンダー

4月	5月	6月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span> </div> ガイダンス 学内模試 5 6 7 8 9 10 11 前期授業（～6/25） 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span> </div> 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 CBT模試① 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span><span>6</span> </div> 講演会 CBT生講義 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 試験前休み 28 29 30
7月	8月	9月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span> </div> 進級試験（～7/17） 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 CBT模試② 26 27 28 29 30 31 CBT前休み（～8/22）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span> </div> 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 CBT 23 24 25 26 27 28 29 基本的臨床技能実習（～9/18） 30 31	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span> </div> 基本的臨床技能実習①（～9/12） 6 7 8 9 10 11 12 OSCE1日目 13 14 15 16 17 18 19 OSCE2日目 20 21 22 23 24 25 26 症候学（～9/30）医療安全シンポジウム 27 28 29 30
10月	11月	12月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span> </div> 医療プロフェッショナリズムⅣ 4 5 6 7 8 9 10 判定Ⅰ 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 OSCE再試 再試験 CBT再試 25 26 27 28 29 30 31 臨床次週前演習	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span><span>6</span><span>7</span> </div> 判定Ⅱ SD認定式 8 9 10 11 12 13 14 ベーシック臨床実習～ 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span> </div> 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
【2027年】1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span> </div> 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span><span>6</span> </div> 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>1</span><span>2</span><span>3</span><span>4</span><span>5</span><span>6</span> </div> 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

： 休日

2026年度 第4学年 授業科目のコマ数と時間数

科目	区分	前期		後期		合計		
		コマ数	時間数	コマ数	時間数	コマ数	時間数	単位数
医事法学	講義	10	20			10	20	1
教養科目計		10	20			10	20	1
法医学	講義	16	32			22	44	2
	実習	6	12					
基礎科目計		22	44			22	44	2
地域総合診療医学	講義	8	16			8	16	1
災害医学	講義	4	8			9	18	1
	実習	5	10					
老年医学	講義	8	16			8	16	1
整形外科	講義	17	34			17	34	2
リハビリテーション医学	講義	8	16			8	16	1
形成外科学	講義	11	22			11	22	1
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	講義	14	28			14	28	1
眼科学	講義	10	20			10	20	1
皮膚科学	講義	14	28			14	28	1
泌尿器科学	講義	10	20			10	20	1
神経精神科学	講義	14	28			14	28	1
放射線医学	講義	14	28			14	28	1
麻酔学	講義	8	16			8	16	1
救急医学	講義	9	18			9	18	1
臨床遺伝学	講義	8	16			8	16	1
臨床腫瘍学	講義	8	16			8	16	1
臨床病理学	講義	9	18			9	18	1
感染症学	講義	11	22			11	22	1
統合医学演習	演習	10	20			10	20	1
医療プロフェッショナリズムⅣ	講義			8	16	8	16	1
症候学	実習			20	40	20	40	1
基本的臨床技能実習	実習			47	47	47	47	1
臨床科目計		200	400	75	150	275	550	23
第4学年合計		232	464	75	150	307	614	26

※1コマ2時間計算 一部科目除く

2026年11月から第5学年カリキュラム	区分	前期		後期		コマ数	時間数	単位数
総合臨床医学（臨床実習前演習）	演習	-	-	-	-	20	40	2
総合臨床医学（ベーシック臨床実習）17週	実習	-	-	-	-	340	510	17
年度合計		-	-	-	-			45

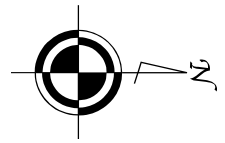
令和8年度 第4学年 時間割

週数	月日	曜日	1	2	3	4	5	
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
1		月						
		火						
	4月1日	水			ガイダンス			
	4月2日	木	CBT学内模試					
	4月3日	金			救急医学		整形外科学	
2	4月6日	月	法医学	法医学	眼科学	眼科学	救急医学	
	4月7日	火	皮膚科学	皮膚科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	医事法学	
	4月8日	水			泌尿器科学	泌尿器科学	泌尿器科学	
	4月9日	木	麻酔学	麻酔学	放射線医学	放射線医学	眼科学	
	4月10日	金	整形外科学	整形外科学		救急医学	整形外科学	
3	4月13日	月	神経精神科学	神経精神科学	老年医学			
	4月14日	火	皮膚科学	皮膚科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	医事法学	
	4月15日	水	法医学	法医学	泌尿器科学	泌尿器科学	泌尿器科学	
	4月16日	木	麻酔学	麻酔学	放射線医学	放射線医学	眼科学	
	4月17日	金			救急医学	救急医学	整形外科学	
4	4月20日	月	法医学	法医学	眼科学	眼科学		
	4月21日	火	皮膚科学	皮膚科学	災害医学	災害医学		
	4月22日	水	健康診断		泌尿器科学	泌尿器科学	医事法学	
	4月23日	木	麻酔学	麻酔学	放射線医学	放射線医学		
	4月24日	金	整形外科学	整形外科学	救急医学	救急医学	整形外科学	
5	4月27日	月	法医学	法医学		眼科学		
	4月28日	火	皮膚科学	皮膚科学	災害医学	災害医学	医事法学	
	4月29日	水	祝日					
	4月30日	木	麻酔学	麻酔学	放射線医学	放射線医学	救急医学	
	5月1日	金	整形外科学	整形外科学	神経精神科学	形成外科学		
6	5月4日	月	祝日					
	5月5日	火	祝日					
	5月6日	水	祝日					
	5月7日	木	神経精神科学	神経精神科学	放射線医学	放射線医学	眼科学	
	5月8日	金	整形外科学	整形外科学	形成外科学	形成外科学		
7	5月11日	月	地域総合診療医学	地域総合診療医学	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	法医学実習	
	5月12日	火	皮膚科学	皮膚科学	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	法医学実習	
	5月13日	水	法医学	法医学	泌尿器科学	泌尿器科学	医事法学	
	5月14日	木	神経精神科学	神経精神科学	放射線医学	放射線医学	整形外科学	
	5月15日	金	整形外科学	感染症学	形成外科学	形成外科学	整形外科学	
	5月16日	土	TECOM模試					
8	5月18日	月	地域総合診療医学	地域総合診療医学	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	
	5月19日	火	皮膚科学	皮膚科学	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	法医学実習/災害医学実習	
	5月20日	水	法医学	法医学	老年医学	老年医学	医事法学	
	5月21日	木	神経精神科学	神経精神科学	放射線医学	放射線医学		
	5月22日	金	感染症学	整形外科学	形成外科学	形成外科学	感染症学	
9	5月25日	月	地域総合診療医学	地域総合診療医学			眼科学	
	5月26日	火	皮膚科学	皮膚科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学		
	5月27日	水	法医学	法医学	老年医学	老年医学	医事法学	
	5月28日	木	神経精神科学	神経精神科学	救急医学	感染症学	感染症学	
	5月29日	金	感染症学	臨床病理学	形成外科学	形成外科学	整形外科学	
10	6月1日	月	地域総合診療医学	地域総合診療医学	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学		
	6月2日	火	臨床遺伝学	臨床遺伝学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	講演会	
	6月3日	水	法医学	法医学	老年医学	老年医学	眼科学	
	6月4日	木	臨床病理学	臨床病理学		感染症学	臨床遺伝学	
	6月5日	金	TECOM生講義					感染症学

週数	月日	曜日	1	2	3	4	5	
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
11	6月8日	月		臨床腫瘍学	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学		
	6月9日	火	臨床遺伝学	臨床遺伝学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	医事法学	
	6月10日	水	臨床腫瘍学	臨床腫瘍学	老年医学			
	6月11日	木	神経精神科学	神経精神科学				
	6月12日	金	臨床病理学	臨床病理学	統合医学演習	統合医学演習		
12	6月15日	月	臨床腫瘍学	臨床腫瘍学	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学		
	6月16日	火	臨床遺伝学		耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	医事法学	
	6月17日	水	臨床腫瘍学	臨床腫瘍学	臨床遺伝学	統合医学演習	統合医学演習	
	6月18日	木			感染症学	臨床遺伝学		
	6月19日	金	臨床病理学	臨床病理学	形成外科学	形成外科学	感染症学	
13	6月22日	月	統合医学演習	統合医学演習	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学	臨床腫瘍学	
	6月23日	火		医事法学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	神経精神科学	
	6月24日	水	臨床病理学	臨床病理学		統合医学演習	統合医学演習	
	6月25日	木	統合医学演習	統合医学演習	感染症学			
	6月26日	金	試験前休み					
14	6月29日	月	試験前休み					
	6月30日	火						
	7月1日	水	進級試験①					
	7月2日	木						
	7月3日	金						
15	7月6日	月						
	7月7日	火						
	7月8日	水	進級試験②					
	7月9日	木						
	7月10日	金						
16	7月13日	月						
	7月14日	火						
	7月15日	水	進級試験③					
	7月16日	木						
	7月17日	金						
17	7月20日	月	祝日					
	7月21日	火	MEC模試					
	7月22日	水						
	7月23日	木	CBT前休み①					
	7月24日	金						
18	7月27日	月						
	7月28日	火						
	7月29日	水	CBT前休み②					
	7月30日	木						
	7月31日	金						
19	8月3日	月						
	8月4日	火						
	8月5日	水	CBT前休み③					
	8月6日	木						
	8月7日	金						
20	8月10日	月	CBT前休み④					
	8月11日	火	祝日					
	8月12日	水						
	8月13日	木	CBT前休み④					
	8月14日	金						

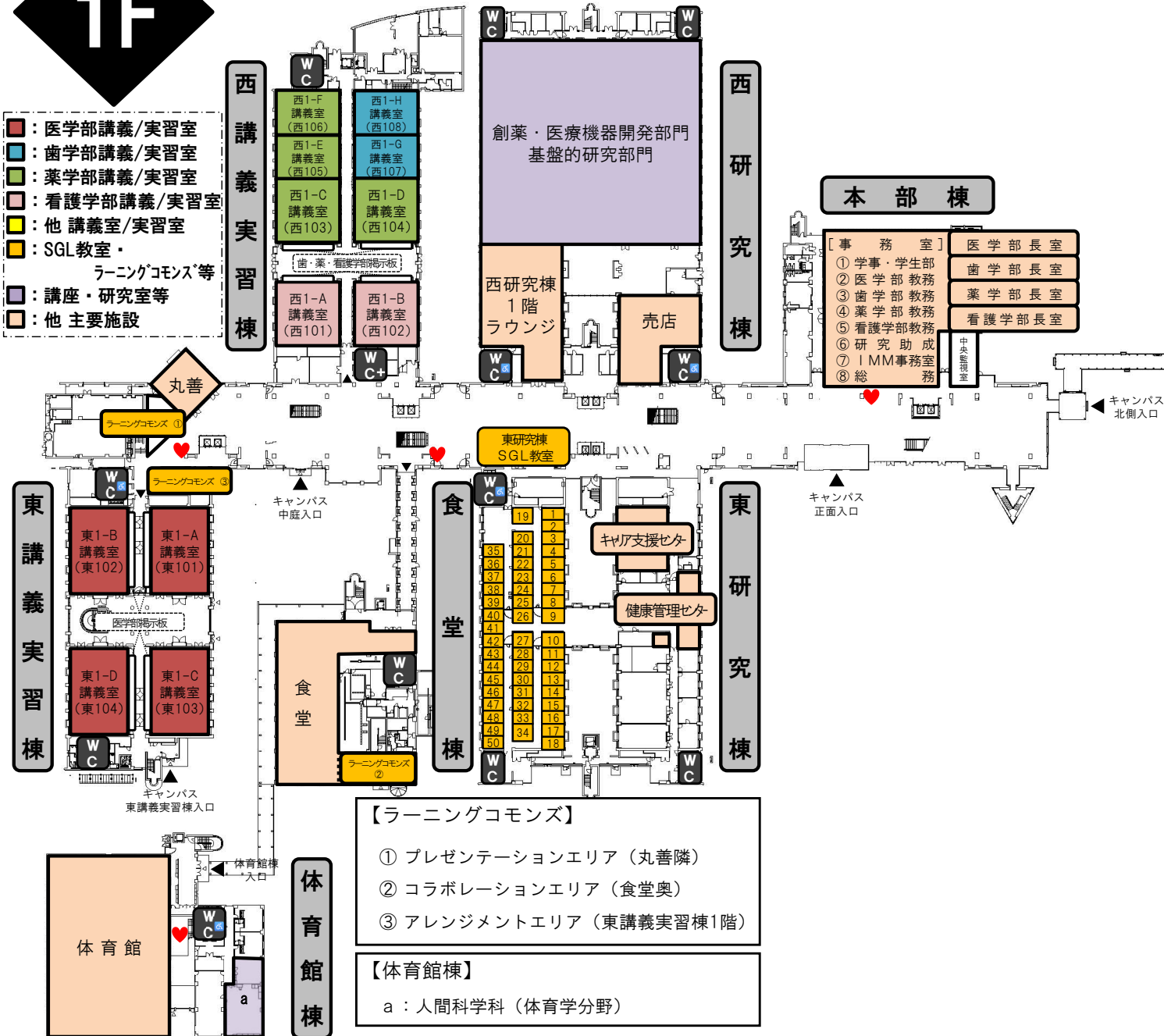
週数	月日	曜日	1	2	3	4	5				
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50				
21	8月17日	月	CBT前休み⑤								
	8月18日	火									
	8月19日	水									
	8月20日	木									
	8月21日	金									
	8月22日	土						共用試験CBT			
22	8月24日	月	基本的臨床技能実習①								
	8月25日	火									
	8月26日	水									
	8月27日	木									
	8月28日	金									
23	8月31日	月	基本的臨床技能実習②								
	9月1日	火									
	9月2日	水									
	9月3日	木									
	9月4日	金									
24	9月7日	月	基本的臨床技能実習③								
	9月8日	火									
	9月9日	水									
	9月10日	木									
	9月11日	金									
	9月12日	土						共用試験臨床実習前OSCE①			
25	9月14日	月	基本的臨床技能実習④								
	9月15日	火									
	9月16日	水									
	9月17日	木									
	9月18日	金									
	9月19日	土						共用試験臨床実習前OSCE②			
25	9月21日	月	祝日								
	9月22日	火	祝日								
	9月23日	水	祝日								
	9月24日	木	症候学	症候学	症候学	症候学					
	9月25日	金	症候学	症候学	症候学	症候学					
	9月26日	土	医療安全シンポジウム								
26	9月28日	月	症候学	症候学	症候学	症候学					
	9月29日	火	症候学	症候学	症候学	症候学					
	9月30日	水	症候学	症候学	症候学	症候学					
	10月1日	木	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ					
	10月2日	金	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ	医療プロフェッショナリズムⅣ					
進級判定Ⅰ 10月7日(水)											
共用試験臨床実習前OSCE追再試験 10月18日(日)											
再試験(10月19日~10月23日)											
インフルエンザワクチン接種 10月22日(木)											
共用試験CBT追再試験 10月24日(土)											
臨床実習前演習 10月26日(月)~10月30日(金)											
進級判定Ⅱ 11月4日(水)											
Student Doctor認定式 11月6日(金)											

# 矢巾キャンパス平面図

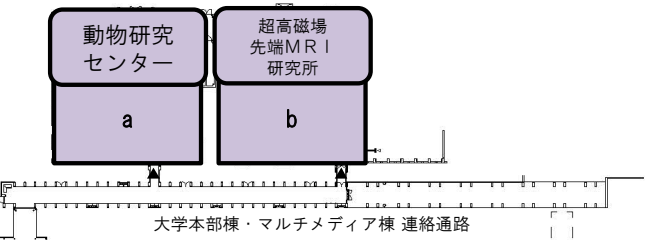


1F

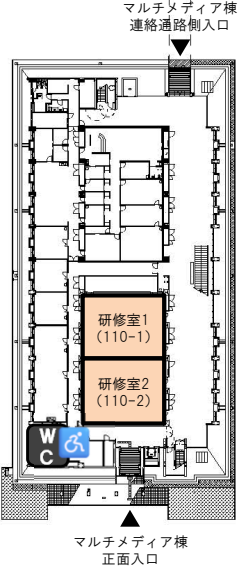
- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他講義室/実習室
- : SGL教室・  
ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他主要施設



【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】  
a, b : 歯薬薬総合研究所・基盤的研究部門



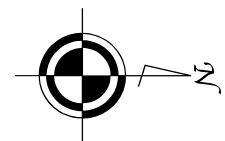
災害時地域医療支援教育センター・  
マルチメディア教育研究棟



- 【ラーニングcommons】
- ① プレゼンテーションエリア (丸善隣)
  - ② コラボレーションエリア (食堂奥)
  - ③ アレンジメントエリア (東講義実習棟1階)
- 【体育館棟】
- a : 人間科学科 (体育学分野)

- ♥ : AED (自動体外式除細動器)
- WC : トイレ (♿ : 多目的付, + : オストメイト対応)

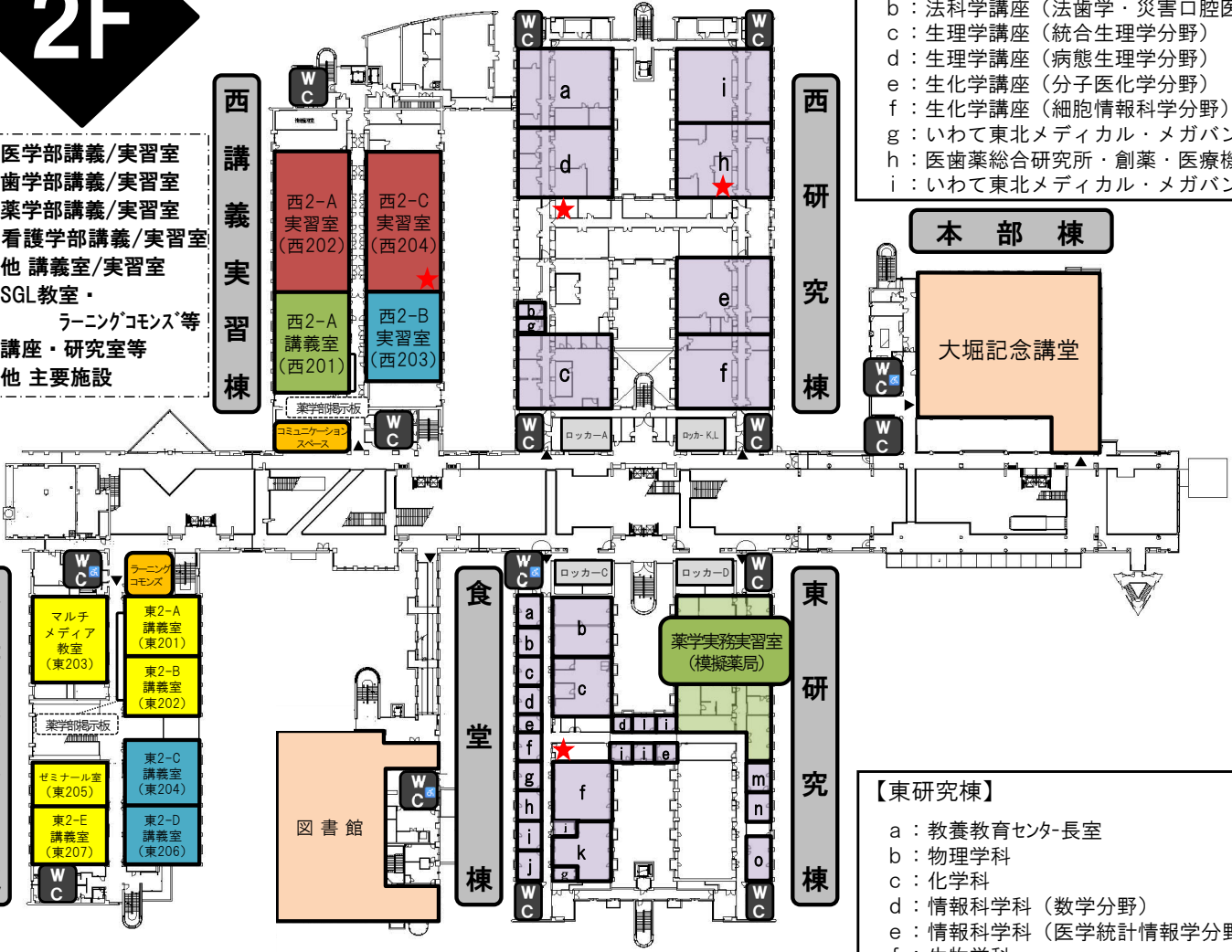
2F



- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設

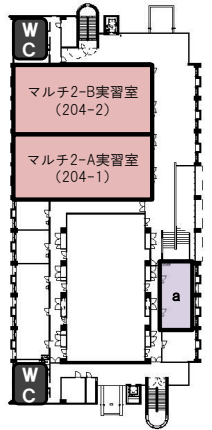
- 【西研究棟】
- a : 法科学講座 (法医学分野)
  - b : 法科学講座 (法歯学・災害口腔医学分野)
  - c : 生理学講座 (統合生理学分野)
  - d : 生理学講座 (病態生理学分野)
  - e : 生化学講座 (分子医化学分野)
  - f : 生化学講座 (細胞情報科学分野)
  - g : いわて東北メディカル・メガバンク機構
  - h : 医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
  - i : いわて東北メディカル・メガバンク機構

- 動物研究センター
- 超高磁場先端MRI研究所

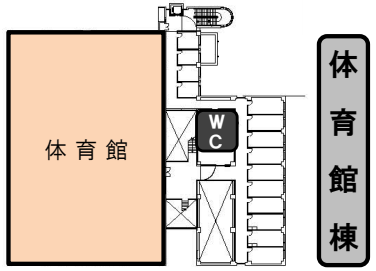


- 【東研究棟】
- a : 教養教育センター-長室
  - b : 物理学科
  - c : 化学科
  - d : 情報科学科 (数学分野)
  - e : 情報科学科 (医学統計情報学分野)
  - f : 生物学科
  - g : 人間科学科 (心理学・行動科学分野)
  - h : 人間科学科 (文学分野)
  - i : 外国語学科 (英語分野)
  - j : 人間科学科 (哲学分野)
  - k : 人文社会語学系研究室
  - l : 人間科学科 (法学分野)
  - m : 全学教育推進機構長室
  - n : 口腔医学講座 (歯科医学教育学分野)
  - o : 看護専門基礎講座

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



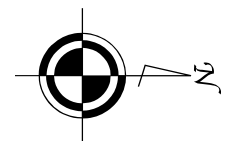
- 【災害時地域医療支援教育センター】
- a : 救急・災害医学講座



体育館棟

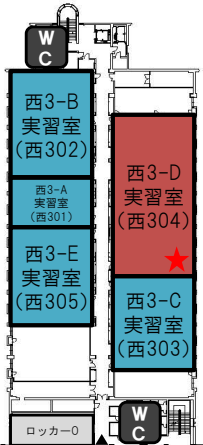
- ★ : 緊急時用シャワー
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

# 3F



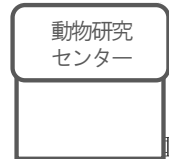
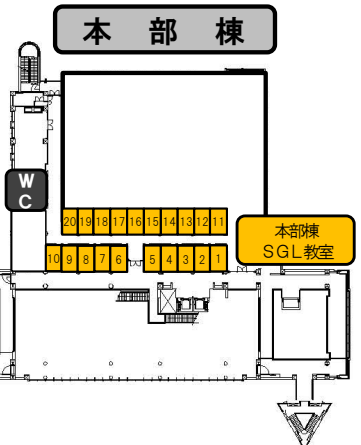
- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設

西 講義 実習 棟



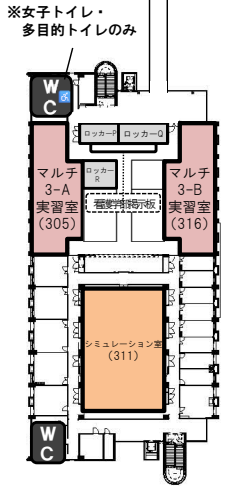
- 【西研究棟】
- a : 医療工学講座
  - b : 衛生学公衆衛生学講座
  - c : 微生物学講座 (感染症学・免疫学分野)
  - d : 微生物学講座 (分子微生物学分野)
  - e : 薬理学講座 (情報伝達医学分野)
  - f : 薬理学講座 (病態制御学分野)
  - g : 病態薬理学講座 (分子細胞薬理学分野)
  - h : 病態薬理学講座 (薬剤治療学分野)
  - i : 医学教育学講座教育支援システム開発分野

西 研 究 棟



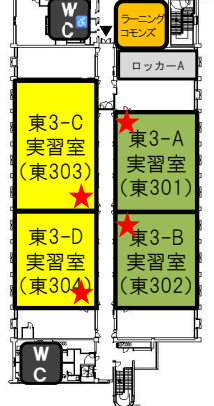
マルチメディア棟  
附属病院連絡通路

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟

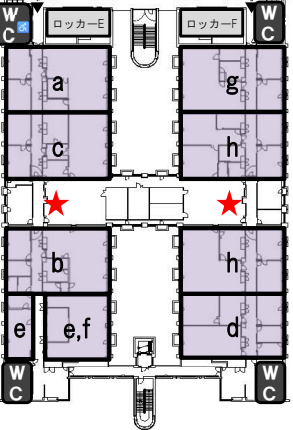


※女子トイレ・多目的トイレのみ

東 講義 実習 棟



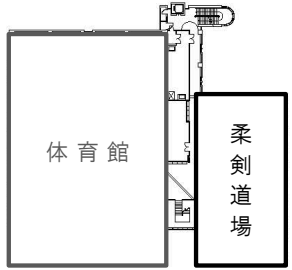
食 堂 棟



東 研 究 棟

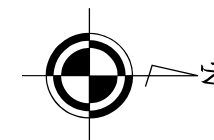
- 【東研究棟】
- a : 生物薬学講座 (生体防御学分野)
  - b : 生物薬学講座 (機能生化学分野)
  - c : 臨床薬学講座 (情報薬科学分野)
  - d : 臨床薬学講座 (臨床薬剤学分野)
  - e : 臨床薬学講座 (地域医療薬学分野)
  - f : 臨床薬学講座 (薬学教育学分野)
  - g : 病態薬理学講座 (臨床医化学分野)
  - h : いわて東北メディカル・メガバンク機構

体 育 館 棟



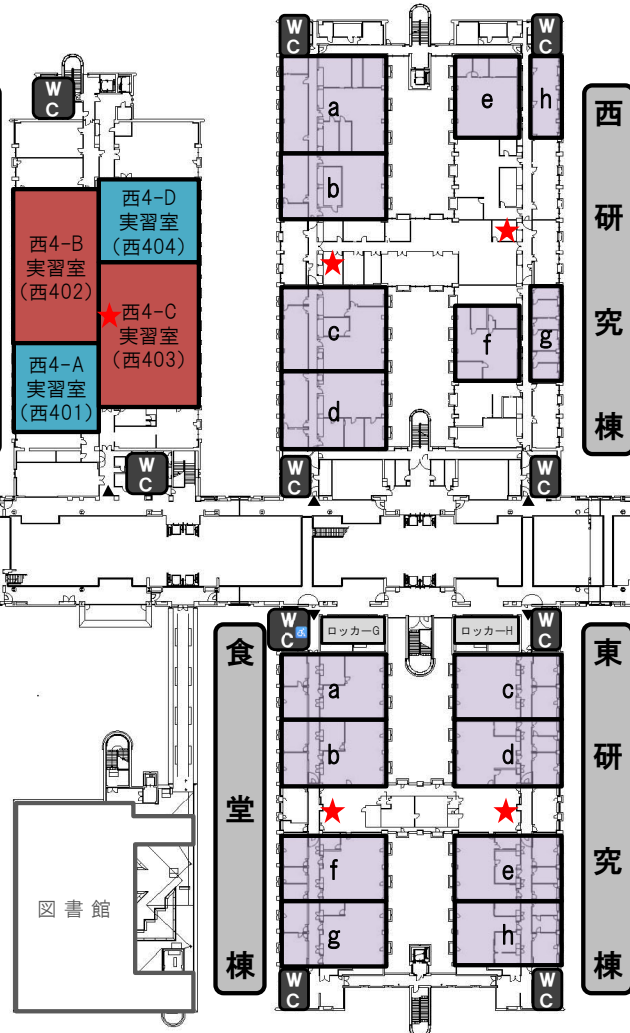
- : 緊急時用シャワー
- : トイレ (♿: 多目的付)

# 4F



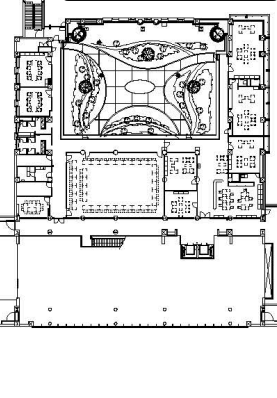
- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設

西講義実習棟

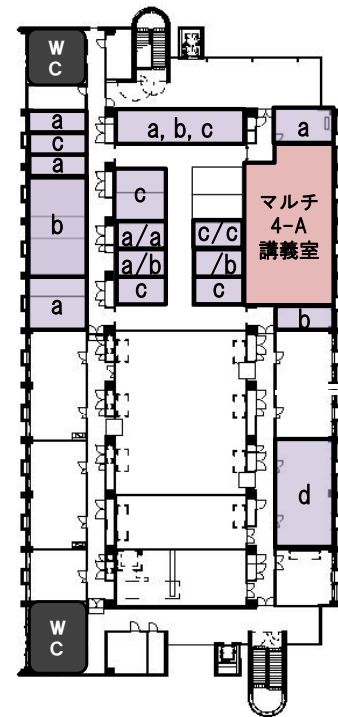


- 【西研究棟】**
- a : 解剖学講座 (人体発生学分野)
  - b : 解剖学講座 (機能形態学分野)
  - c : 解剖学講座 (細胞生物学分野)
  - d : 解剖学講座 (発生生物・再生医学分野)
  - e : 病理学講座 (機能病態学分野)
  - f : 病理学講座 (病態解析学分野)
  - g : 病理学講座 教授室
  - h : 病理学講座 スタッフルーム

本部棟



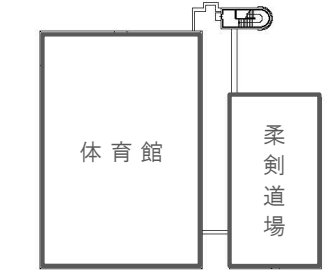
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



- 【マルチメディア教育研究棟】**
- a : 共通基盤看護学講座
  - b : 地域包括ケア講座
  - c : 成育看護学講座
  - d : 医学教育学講座

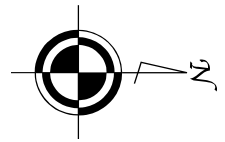
- 【東研究棟】**
- a : 生物薬学講座 (神経科学分野)
  - b : 薬科学講座 (分析化学分野)
  - c : 薬科学講座 (天然物化学分野)
  - d : 薬科学講座 (創薬有機化学分野)
  - e : 薬科学講座 (構造生物薬学分野)
  - f : 医療薬科学講座 (薬物代謝動態学分野)
  - g : 医療薬科学講座 (創剤学分野)
  - h : 医療薬科学講座 (衛生化学分野)

東講義実習棟



- ★ : 緊急時用シャワー
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

トクタヴェール  
( 店 舗 棟 )



2F

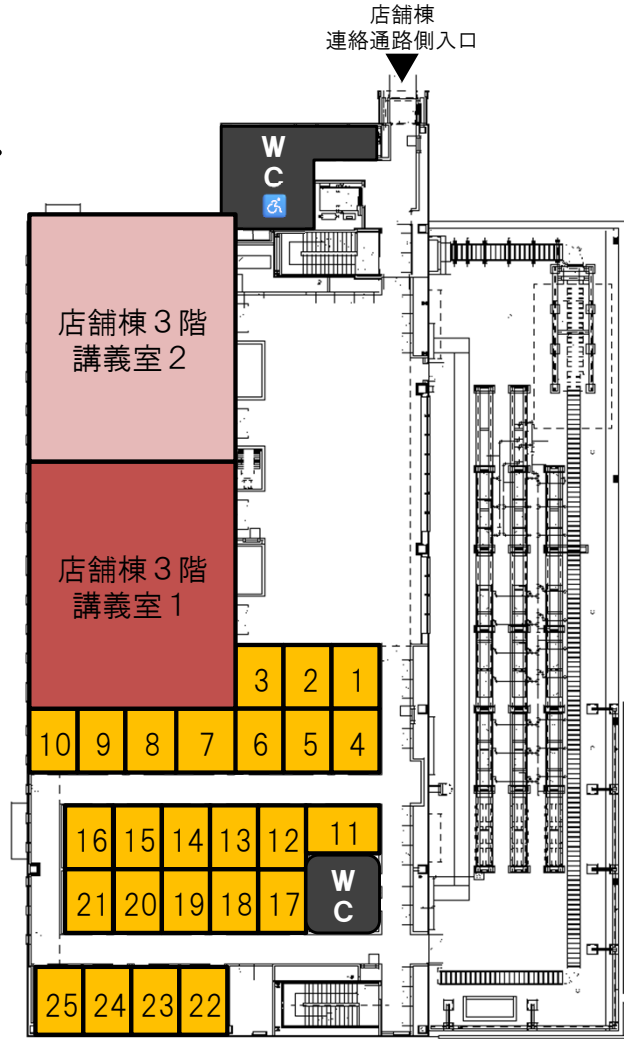
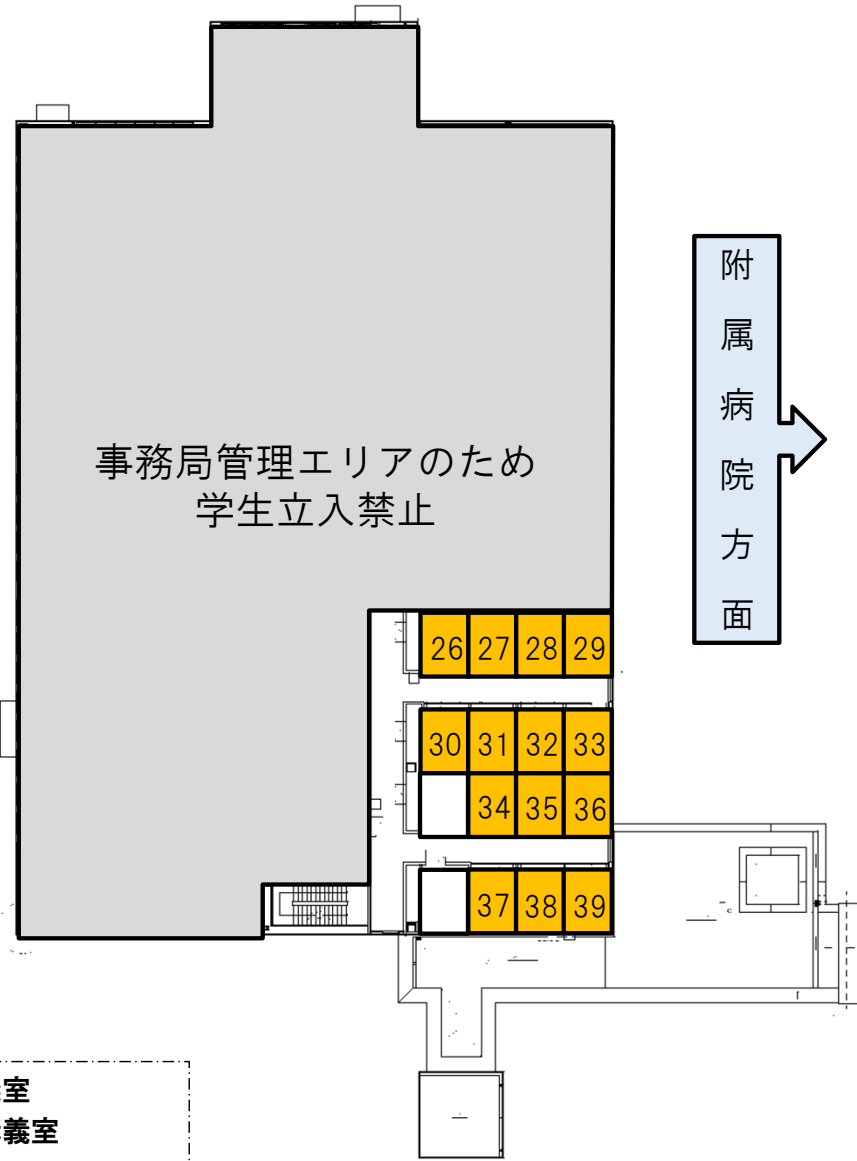
3F

大学本部棟方面

附属病院方面

大学本部棟方面

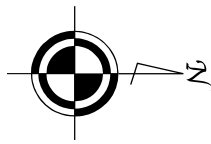
附属病院方面



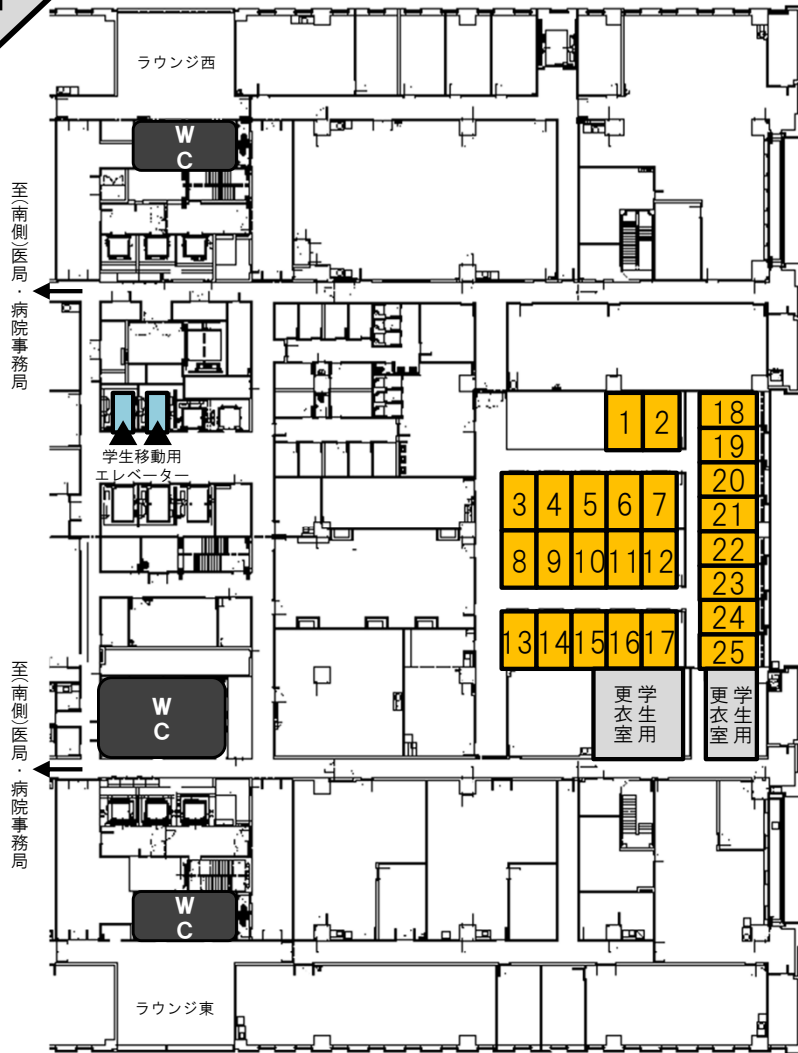
- : 医学部講義室
- : 看護学部講義室
- : SGL教室
- WC : トイレ ( ♿ : 多目的付 )

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

# 附属病院



5F



- : SGL教室
- WC : トイレ (  : 多目的付)

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

## 講座・分野名の省略記載について

※教育要項（シラバス）に講座・分野名を記載するにあたり、下記のとおり名称を省略して記載する。

<u>正式名称</u>	<u>省略名称</u>
解剖学講座 人体発生学分野	人体発生学分野
解剖学講座 細胞生物学分野	細胞生物学分野
解剖学講座 機能形態学分野 ※歯学部	機能形態学分野
解剖学講座 発生生物・再生医学分野 ※歯学部	発生生物・再生医学分野
生理学講座 統合生理学分野	統合生理学分野
生理学講座 病態生理学分野 ※歯学部	病態生理学分野
生化学講座 分子医化学分野	分子医化学分野
生化学講座 細胞情報科学分野 ※歯学部	細胞情報科学分野
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	感染症学・免疫学分野
微生物学講座 分子微生物学分野 ※歯学部	分子微生物学分野
薬理学講座 情報伝達医学分野	情報伝達医学分野
薬理学講座 病態制御学分野 ※歯学部	病態制御学分野
病理学講座 機能病態学分野	機能病態学分野
病理学講座 病態解析学分野 ※歯学部	病態解析学分野
法科学講座 法医学分野	法医学分野
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野 ※歯学部	法歯学・災害口腔医学分野
医学教育学講座 医学教育学分野	医学教育学分野
医学教育学講座 地域医療学分野	地域医療学分野
内科学講座 消化器内科分野	消化器内科分野
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	糖・代・内分泌内科分野
内科学講座 腎・高血圧内科分野	腎・高血圧内科分野
内科学講座 循環器内科分野	循環器内科分野
内科学講座 呼吸器内科分野	呼吸器内科分野
内科学講座 リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野
内科学講座 血液腫瘍内科分野	血液腫瘍内科分野
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	脳神経内科・老年科分野
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門	創薬・医療機器開発部門
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	基盤的研究部門
医歯薬総合研究所創薬支援リソース部門	創薬支援リソース部門
医歯薬総合研究所生命科学研究技術支援センター	生命科学研究技術支援センター
医歯薬総合研究所動物研究センター	動物研究センター
医歯薬総合研究所超高磁場先端MR I 研究センター	超高磁場先端MR I 研究センター
医歯薬総合研究所アイソトープ研究室	アイソトープ研究室
いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門	メガバンク生体情報解析部門

※教養教育センターについては、学科名・分野名のみの記載とする。

# 履 修 科 目

# 医事法学

ナンバリング M4-L1-C04

責任者・コーディネーター	人間科学科法学分野 廣瀬 清英 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科法学分野		
担当教員	廣瀬 清英 講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 10コマ 20.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

医事法学は、比較的新しい学問の分野であり、その体系や対象範囲について、これまでのところ通説的な見解があるわけではない。この学問は当初、医師法・医療法・衛生法規など医療制度を定めた法律を体系的に扱う「医事法制」から出発したように、専ら医療を提供する医師や医療関係者側の視点から、その業務と責任のあり方を中心に論じられてきた。

しかし、現在の医事法学は医療を受ける側にも基本的視座をおきながら、人の「生老病死」に対し、法がどのように関わっているかを考えることが中心になり、医療事故をめぐる紛争や先端医療が提起する諸問題に対応して「医療過誤」、さらには「生命倫理」なども視野に入れた「医療行為の法」として研究が進められている学問である。

この科目は、第1学年で履修した「法学」や「医療と法律」を基礎とし、その対象を医学・医療に関する法に焦点を絞り、法秩序および当事者の法律関係をより深く探求することを目指す。

## ・教育成果(アウトカム)

- 1) 第1学年で履修した「法学」や「医療と法律」で身につけた、リーガル・マインドやリーガル・リテラシーを用いることで、医事法の視点から医療に関する法制度を体系的に説明できるようになる。
- 2) 実際の医療事故判例を通読することで、医療行為に関する法的問題を指摘できるようになる。
- 3) 法的知識を取得することで、医療人として必要な法律を身につける。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,6,7)

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	医事法が何を目的とし、いかなる価値の実現を意図しているのか説明できる。
2	医療関係者・医療施設・医療衛生などの医療制度の法の概要を説明できる。
3	医療契約、説明と承諾の法理、医療文書、医療事故責任などの医療行為の法を説明できる。
4	脳死、臓器移植、尊厳死、安楽死、生殖医療などの医療と人権をめぐる諸問題について、その問題の基本的な考え方を学び、説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/7(火)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	医事法学序説/基本法の知識	1,3,4	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第1章/この章のみWebClassを利用）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第1章）の復習を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassに配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中にKahoot!を使用し理解度を測定する</p>
講義	4/14(火)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	医事法規(1)/医療法	2,3	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第2章・第13章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第2章・第13章）の復習を行う。所要時間 75分以上</p> <p>に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中にKahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>
講義	4/22(水)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	医事法規(2)/医師法	2,3	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第3章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第3章）の復習を行う。所要時間 75分以上</p> <p>に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中にKahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>

講義	4/28(火)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	医事法規(3)/資格法	2	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第4章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第4章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>
講義	5/13(水)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	衛生法規(1)/医事衛生法・薬事衛生法	2	<p>【事前学修】 講義で配布する資料の事前確認（第5章・第6章）を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第5章・第6章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>
講義	5/20(水)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	衛生法規(2)/保健衛生法	2	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第7章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第7章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>
講義	5/27(水)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	衛生法規(3)/予防衛生法	2	<p>【事前学修】 講義で配布する資料（第8章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上</p> <p>【事後学修】 講義で実施した演習問題（第8章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する</p>

講義	6/9(火)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	衛生法規(4)/生活衛生法・労働衛生法	2	【事前学修】 講義で配布する資料（第9章・第10章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上 【事後学修】 講義で実施した演習問題（第9章・第10章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する
講義	6/16(火)	5	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	社会福祉法	2	【事前学修】 講義で配布する資料（第11章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上 【事後学修】 講義で実施した演習問題（第11章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する
講義	6/23(火)	2	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	社会保障法	2	【事前学修】 講義で配布する資料（第12章）の事前確認を行う。所要時間 75分以上 【事後学修】 講義で実施した演習問題（第12章）の復習を行う。所要時間 75分以上 に配布物、講義の解答、講義内の演習問題の復習教材をアップする 講義中に Kahoot!【ICT】WebClassを使用し理解度を測定する

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	医療六法 令和8年版	医療法制研究会 監修	中央法規出版	2025
参考書	医事法辞典	甲斐克則 編	信山社	2018
参考書	医事法入門 6版(有斐閣アルマ)	手嶋豊 著	有斐閣	2023

参考書	医事法判例百選 第3版	甲斐克則・手嶋豊 編	有斐閣	2022
参考書	医事法学概論 2版	菅野耕毅 著	医歯薬出版	2004

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価する。合格基準の正解率は85～90％をもって合格最低点の60点とする。

注）テストの素点60点が合格点ではないことに注意すること。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1,2,3,4	1,2,3,6, 7				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

授業は講義形式で行う。講義内容の詳細は以下の講義日程を参照のこと。  
遅刻及び途中退室は原則として欠席扱いとする。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修及び事後学修の時間はそれぞれ最低75分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義内でWeb演習教材Kahoot!を実施するためPCまたはスマートフォンを持参すること。ブラウザのブックマークに<https://kahoot.it> を入れておくか、スマートフォンの場合、それぞれのアプリストアからKahoot!をダウンロードしておくこと。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・教育資源

PC、インターネット環境、Kahoot!、WebClass
-------------------------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC	1	講義資料の作成、提示

# 医療プロフェッショナルリズムⅣ

ナンバリング	M4-S1-F07
--------	-----------

責任者・コーディネーター	地域医療学分野 伊藤 智範 教授		
担当講座・学科（分野）	地域医療学分野、医学教育学分野、血液腫瘍内科分野、救急・災害医学講座、外科学講座、消化器内科分野、創薬・医療機器開発部門、リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、放射線医学講座、呼吸器外科学講座、臨床検査医学・感染症学講座、心臓血管外科学講座		
担当教員	伊藤 智範 教授、医学部長、伊藤 薫樹 教授、高橋 学 教授、佐々木 章 教授、佐藤 洋一 名誉教授、黒田 英 克 特任教授、西塚 哲 特任教授、柿坂 啓介 准教授、鈴木 悠地 特任准教授、田村 明生 講師、重枝 弥 講師、熊谷 亜希子 講師、齋藤 大樹 助教、高橋 宗 非常勤講師、千葉 淳美 非常勤講師、鈴木 満 非常勤講師、山口 晶子 医療課長、曾根 美雪 非常勤講師、坂田 憲治 非常勤講師、本間 博 会長、藤原 裕大 非常勤講師、千田 恵美 非常勤講師、大堀 理 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

医師免許取得後に医療人として進む道は、1つではない。臨床各科の専門医に加え、基礎医学者、社会医学者、行政職など多岐にわたる。そのいずれにおいてもプロフェッショナルとして要求される水準は高く、従って卒後は効率良くキャリアを積むことがキャリアアップに必要なってくる。専門医制度・学位・研究の意味について知っておくことで、自己の資質に合わせた将来像を思い描くことができるであろう。また住民の健康に奉仕すべき医療人とはいえ、医療業務の遂行に追われて個人の生活が破綻するようなことがあってはならず、ワーク・ライフ・バランスをいかにうまくとるかを考えなければならない。多彩なキャリア形成の道・学位とは・専門医とは・研究・留学、また家庭と仕事の両立に関する具体的事例について、さまざまな医師が進んできた道を聴講して、学生が将来のキャリアの道筋を描くことを目的とする。

## ・教育成果（アウトカム）

各セッションでの講義とフリートークを行うことで、学習者が主体的にキャリアを考案できるようになる。卒後の初期臨床研修と専門医制度、および大学院制度の現状を知ること、将来のキャリアアップに向けて何が重要か説明できる。研究を行う意義・ワークライフバランスの重要性・海外への進路を含めた多彩なポジションを理解できるようになる。またロールモデルを参考にすることで、キャリアアップには自由な意志決定とともに社会的制約も存在することを知り、自己の将来像を思い描き、その概要を論述できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,7,8 ）

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	研修制度と初期研修生活の実際を説明できる。

2	医師が行う基礎研究・臨床研究の概要とキャリアアップの上での意義を説明できる。
3	大学院で研究して、学位を取得するキャリアについて説明できる。
4	専門医制度の概要について説明できる。
5	ダイバーシティ・アンコンシャスバイアスを理解し、職場と家庭の両立・ワークライフバランスに何が必要か説明できる。
6	自分の将来像を幾通りか思い描くことができる。
7	国内外で医師のキャリアを積む方法を説明できる。
8	医師の多彩な職場を説明できる。
9	地域医療と医師会の役割を説明できる。
10	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につける。

・ 講義場所

講義：東2-A 講義室、東2-B 講義室、大堀記念講堂

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	10/1(木)	1	血液腫瘍内科分野 地域医療学分野	伊藤 薫樹 教授 伊藤 智範 教授	研修制度と初期研修生活の実際	1,6,7,10	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布する課題に取り組む。所要時間60分以上 【事後学修】 説明を受けた制度について、300字程度でまとめ、自分のキャリア選択について考える。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに配布資料をアップする
講義	10/1(木)	2	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 救急・災害医学講座 消化器内科分野 地域医療学分野 創薬・医療機器開発部門 心臓血管外科学講座 医学教育学分野	鈴木 悠地 特任准教授 高橋 学 教授 柿坂 啓介 准教授 伊藤 智範 教授 西塚 哲 特任教授 齋藤 大樹 助教 高橋 宗康 非常勤講師	第一会場：基礎・臨床研究を遂行する医師になるには 第二会場：海外で医師のキャリアを積むには	2,3,6,7,10	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布する課題に取り組む。所要時間 60分以上 【事後学修】 説明を受けた制度について、300字程度でまとめ、自分のキャリア選択について考える。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに配布資料をアップする

講義	10/1(木)	3	消化器内科分野 放射線医学講座 呼吸器外科学講座 地域医療学分野 外科学講座	黒田 英克 特任教授 田村 明生 講師 重枝 弥 講師 伊藤 智範 教授 佐々木 章 教授	第一会場：医師に ための専門医とは 第二会場：学位を取 得するとはどうい うことか	4,6,7,10	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布 する課題に取り組む。所要 時間 60分以上 【事後学修】 説明を受けた制度につい て、300字程度でまとめ、自 分のキャリア選択について 考える。所要時間 60分以 上 【ICT】WebClassに配布資料 をアップする
----	---------	---	--	---	---	----------	---

講義	10/1(木)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	国境なき医師団・1日目のまとめ	6,7,8,10	【事前学修】 不要 【事後学修】 レポート作成作業。所要時間 180分以上 【ICT】インターネットクリッカーを使用する
講義	10/2(金)	1	地域医療学分野 臨床検査医学・感染症学講座 地域医療学分野	伊藤 智範 教授 熊谷 亜希子 講師 千葉 淳美 非常勤講師	ダイバーシティ・アンコンシャスバイアスとはなにか	5,6	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布する課題に取り組む。所要時間 60分以上 【事後学修】 説明を受けた制度について、300字程度でまとめ、自分のキャリア選択について考える。所要時間 60分以上 【ICT】WebClassに配布資料をアップする
講義	10/2(金)	2	医学教育学分野 地域医療学分野 福島女子刑務支所 地域医療学分野 地域医療学分野 地域医療学分野	佐藤 洋一 名誉教授 鈴木 満 非常勤講師 山口 晶子 医療課長 伊藤 智範 教授 曾根 美雪 非常勤講師 坂田 憲治 非常勤講師 大堀 理 非常勤講師	第一会場：多様な職場を知る・社医・船医・産業医・山岳医・製薬会社・保険会社・行政医官 第二会場：県外で活躍する卒業生を知る	6,7,8,10	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布する課題に取り組む。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義終了後に紹介されたキャリアアップ事例を100字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】WebClassに配布資料をアップする
講義	10/2(金)	3	医学部 地域医療学分野 岩手県医師会 地域医療学分野 地域医療学分野	医学部長 伊藤 智範 教授 本間 博 会長 藤原 裕大 非常勤講師 千田 恵美 非常勤講師	地域医療と医師会の役割を咀嚼する	6,7,8,9,10	【事前学修】 講義前ガイダンスにて配布する課題に取り組む。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義終了後に紹介されたキャリアアップ事例を100字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】WebClassに配布資料をアップする
講義	10/2(金)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	2日目のまとめ	6,10	【事前学修】 不要 【事後学修】 レポート作成作業。所要時間 180分以上 【ICT】インターネットクリッカーを使用する

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	考え方-人生・仕事の結果が変わる	稲盛和夫	大和書房	2017
参考書	英語と日本語で読む武道	新渡戸稲造著、奈良本辰也訳	三笠書房	2009
参考書	女の勘 男の鈍感	姫野友美	角川文庫	2017

・成績評価方法

【総括評価】

成果物として、①今回の講義を聴講した感想、②自身の今後のキャリアの道筋、③どのような医師を目指して、これからの臨床実習を行うのかを800字以上1200字以内で論述したレポートを提出する。これを総括評価に用いる。以上のレポート（100%）により評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

講義時間にweclassで回答して、本科目についての理解度を問う。フィードバックとして、webclassの回答が全問正解するまで行う。また、医師届出票をシミュレーションで記載して、総括評価のレポートとともに提出する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～10	1,2,7,8		100					100
合計			100					100

・特記事項・その他

本科目は、全体講義のセッションと、2会場に分かれて聴講するセッションがある。学生は、事前に聴講するテーマを選んで、出席する会場を選択する。それぞれのフリートーク時間では、学生も数名壇上に登壇して、座談会形式で進行させる。適宜会場からの質問も受け付ける。シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。講義資料はWebclassで配信する。

本科目では、事前事後学修以外に11時間の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

大堀記念講堂・講義室・SGL・PC・スマートフォン・インターネット環境・ビデオ撮影機器（会場が2つに分かれるので、それを後日聴講できるように撮影する）

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	2	講義
講義	ノートパソコン	2	講義

責任者・コーディネーター	法医学分野 高宮 正隆 教授		
担当講座・学科（分野）	法医学分野、救急・災害医学講座		
担当教員	高宮 正隆 教授、藤田 友嗣 講師、森川 剛 助教、 岩瀬 博太郎 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 16コマ 32.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 6コマ 12.0時間

・学習方針（講義概要等）

医学に関わる法的・社会的問題を学び、公衆衛生、社会福祉、人権の保護に貢献する。

・教育成果（アウトカム）

医学に関わる法的・社会的問題を理解することでの確な事例対応ができるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	法医学が果たすべき社会的役割について説明できる。
2	生活反応、死後変化を説明できる。
3	損傷の成因、所見を説明できる。
4	窒息所見および死に至る機序を説明できる。
5	異常環境死の所見を説明できる。
6	突然死、内因性急死の医学的・社会的問題について説明できる。
7	異状死体の死因検索法、法的取り扱いについて説明できる。
8	個人識別および遺伝的多型について説明できる。
9	法医中毒学に対する基礎的知識を説明できる。
10	法歯学に対する基礎的知識を説明できる。
11	虐待について説明できる。
12	死後画像診断について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室      実習：西2-A実習室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/6(月)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	法医学総論	1,7	【事前学修】 教科書で法医学の定義を確かめる。 法医解剖の種類を表にしてまとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ法医解剖の種類について、その根拠法に当たる。法医解剖の種類を表にまとめておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/6(月)	2	法医学分野	高宮 正隆 教授	死体現象	2	【事前学修】 早期死体現象と後期死体現象について教科書を読み説明文を作成する。 所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ死体現象について機序や発現時期について200字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/15(水)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	内因性突然死	6	【事前学修】 教科書で内因性突然死に該当する部分を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で配布したプリントを見直し、内因性突然死について分類し200字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/15(水)	2	法医学分野	高宮 正隆 教授	損傷-1	3	【事前学修】 「創と傷」の定義で教科書を読んで説明文を作成する。 「創口」などの名称を理解する。所要時間 30分以上 【事後学修】 「創と傷」の定義をまとめる。創を図示して名称書く。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/20(月)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	損傷-2	3	【事前学修】 鈍器損傷、鋭器損傷について教科書を読み説明文を作成する。所要時間30分以上 【事後学修】 損傷を見て鑑別できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/20(月)	2	法医学分野	高宮 正隆 教授	銃創	3	【事前学修】 教科書で銃創に該当する部分を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で配布するプリントを見直し、銃創について200字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/27(月)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	窒息-1	4	【事前学修】 窒息の定義と種類について教科書を読み説明文を作成する。所要時間30分以上 【事後学修】 窒息の分類について表を作成する。機序について200字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/27(月)	2	法医学分野	森川 剛 助教	法医中毒学-1	9	【事前学修】 薬毒物、中毒の定義、薬毒物の分類、起源 薬毒物分析の流れとスクリーニング法についてどのようなものがあるか教科書を読んで理解し、箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 薬毒物、中毒の定義、分析法、剖検試料の取り扱い、医薬品等の中毒についての概略をまとめること。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/13(水)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	窒息-2	4	【事前学修】 致死的頸部圧迫の定義と種類について教科書を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 頸部圧迫の種類について表にまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/13(水)	2	法医学分野	森川 剛 助教	法医中毒学-2	9	【事前学修】 一酸化炭素、硫化水素、エタノール、自然毒、有機リン系農薬について教科書等を読んで、中毒症状、機序、分析法等について説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 一酸化炭素、エタノール、硫化水素、自然毒、農薬中毒の概略についてまとめること。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	5/20(水)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	異常環境による外因死	5	【事前学修】 教科書で異常環境死に該当する部分を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で配布したプリントを見直し、異常環境死について分類し200字程度でまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/20(水)	2	法医学分野	岩瀬 博太郎 非常勤講師	死後の画像診断	12	【事前学修】 死後画像診断の定義と種類について教科書を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 死後画像診断が機器により得意・不得意な疾患につき表にまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/27(水)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	個人識別と硬組織	8,10	【事前学修】 「個人識別」について教科書を読んで定義の説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 骨における性別の違いを表にまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/27(水)	2	法医学分野	高宮 正隆 教授	嬰兒殺・児童虐待	11	【事前学修】 教科書で嬰兒殺・児童虐待に該当する部分を読み説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で配布したプリントを見直し、児童虐待について分類し200字程度でまとめること。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	1	法医学分野	高宮 正隆 教授	血液型	8	【事前学修】 血液型やその他の多型に関して自分が理解できる説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 ABO式血液型の生化学的特徴および検査結果の解釈をまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	2	法医学分野	高宮 正隆 教授	DNA型	8	【事前学修】 DNA多型の種類や特徴に関して自分が理解できる説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 DNA多型の検査法をまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

実習	5/11(月)	3	法医学分野	高宮 正隆 教授	前班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/11(月)	4	法医学分野	高宮 正隆 教授	前班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/11(月)	5	法医学分野	高宮 正隆 教授	前班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/12(火)	3	法医学分野	高宮 正隆 教授	後班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/12(火)	4	法医学分野	高宮 正隆 教授	後班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/12(火)	5	法医学分野	高宮 正隆 教授	後班-1 死亡診断書・死体検 案書作成	1,7	【事前学修】 厚労省ホームページより死 亡診断書記入マニュアルを ダウンロードして読んでお く。所要時間 30分以上 【事後学修】 死亡診断書・死体検案書の 書き方の要点をまとめる。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

実習	5/18(月)	3	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	前班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/18(月)	4	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	前班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/18(月)	5	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	前班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/19(火)	3	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	後班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

実習	5/19(火)	4	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	後班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/19(火)	5	法医学分野 法医学分野 救急・災害医学講座	高宮 正隆 教授 森川 剛 助教 藤田 友嗣 講師	後班-2 薬毒物検査	9	【事前学修】 実習書を読み、実習方法、内容について理解する。設問について考える。シアン化合物、一酸化炭素中毒、重金属中毒、農薬中毒、医薬品中毒について講義のプリントを見て復習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 実習の結果を実習書に記載して、設問の答えを確認し、理論などをまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準法医学 第8版	池田典昭 / 木下博之	医学書院	2022
参考書	法医学 改訂4版	福島弘文 / 舟山真人 / 齋藤一之	南山堂	2022
参考書	NEWエッセンシャル法医学 第6版	高取健彦 / 長尾正崇	医歯薬出版	2019
参考書	臨床中毒学	相馬一玄 / 上條吉人	医学書院	2009
推薦図書	虫から死亡推定時刻はわかるのか?	三枝聖	築地書館	2018

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～12	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

講義：

1. 法医病理学
2. 法医中毒学
3. 法医遺伝学

実習：

1. 薬毒物検査

青酸・金属化合物の予試験、農薬の定性試験、血液中の一酸化炭素検出、乱用薬物スクリーニング

2. 死亡診断書・死体検案書作成

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

本科目では、事前事後学修以外に780分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、シミュレーション検体

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	分光光度計	2	薬毒物検査
実習	ヒートブロック	1	薬毒物検査
実習	ドラフト	1	薬毒物検査
実習	電子天秤	1	薬毒物検査用試料の作製
実習	タッチミキサー	1	薬毒物検査用試料の作製
実習	超音波洗浄機	1	薬毒物検査用試料の作製
実習	遠心分離機	1	薬毒物検査用試料の作製
実習	多数死体対応シミュレーションキット	10	多数死体対応シミュレーション
実習	ホワイトボード	5	多数死体対応シミュレーション
講義	ノートパソコン lifebook	1	講義

# 地域総合診療医学

ナンバリング M4-S1-D13

責任者・コーディネーター		総合診療医学講座 下沖 収 教授	
担当講座・学科（分野）		総合診療医学講座、地域医療学分野、医療安全学講座	
担当教員		下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、肥田 圭介 教授、菅家 智史 非常勤講師、井上 和男 非常勤講師、山田 哲也 助教	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

我が国の医療は臓器別専門医療の発展の上に築かれてきたことは紛れもない事実である。しかし、患者は生物としての側面の他に心理・社会的側面を持ち合わせた全人的存在であり、家族・地域社会の中で生きる存在でもある。患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じた柔軟な診療により、個人と社会のウェルビーイングを実現することを目指すのが総合診療医学である。我が国では、超高齢社会を迎えて医療提供体制の急激な変化、医療資源の地域・診療科偏在、社会保障費の財源問題などの難題を抱えており、地域における総合的医療の実践が社会的ニーズとなりつつある。本科目では、総合診療医学概論に加え、地域医療・家庭医療におけるプライマリ・ケア、地域総合診療における学びと研究の実践、医療面接・臨床推論、医療安全について学び、地域総合診療を支える考え方と実践の概要を学ぶ。

## ・教育成果（アウトカム）

本科目を履修することで、我が国の諸々の医療課題の中における総合診療、地域医療、家庭医療の役割について概説できるようになる。加えて、地域医療で欠かせない包括的ケア・多職種チーム医療、地域医療の実践に根ざした研究と学びの手法について理解し述べることができるようになる。総合診療の実践に必要な医療面接と臨床推論について概説できるようになる。さらに、適切な医療提供において重要な医療安全の考え方は、安全で質の高い医療の実践に欠かせない普遍的価値観（プロフェッショナリズム）につながることを概説できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	我が国の医療背景をもとに総合診療に対する社会的ニーズを説明できる。
2	我が国の地域医療の歴史と課題、地域医療を支える制度や資源、地域包括ケアについて説明できる。
3	プライマリ・ケア、家庭医療の果たす役割について説明できる。
4	地域医療現場からの学びや研究の実践について自らの考えを述べることができる。
5	総合診療に欠かせない医療面接の手法と臨床推論の考え方について概説できる。
6	医療安全、医療事故の基本概念と実践について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/11(月)	1	総合診療医学講座	下沖 収 教授	総合診療医学概論	1	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
講義	5/11(月)	2	総合診療医学講座	菅家 智史 非常勤講師	プライマリ・ケアと家庭医療学	3	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
講義	5/18(月)	1	総合診療医学講座	井上 和男 非常勤講師	教員の実体験に基づくReal case based learning	4	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて300字程度でまとめること。講義内で出された課題に対して各種情報を集めながら回答すること。所要時間 120分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>

講義	5/18(月)	2	総合診療医学講座	井上 和男 非常勤講師	地域医療の現場で行うPractice based research	4	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて300字程度でまとめること。講義内で出された課題に対して各種情報を集めながら回答すること。所要時間120分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
講義	5/25(月)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療学入門	2	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
講義	5/25(月)	2	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全について	6	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
講義	6/1(月)	1	総合診療医学講座	山田 哲也 助教	全人的アプローチと医療面接	5	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>

講義	6/1(月)	2	総合診療医学講座	山田 哲也 助教	臨床推論を学ぶ	5	<p>【事前学修】 事前に講義内容について確認し、参考図書あるいはネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだことについて、300字程度でまとめること。所要時間 90分程度</p> <p>【ICT】必要に応じて資料をWebClassに公開する</p>
----	--------	---	----------	----------	---------	---	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	総合診療医の果たす役割(スーパー総合医)	専門編集：名郷直樹	中山書店	2019
参考書	地域医療学入門	日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会	診断と治療社	2019
参考書	地域医療テキスト	監修：自治医科大学	医学書院	2009
推薦図書	医療安全学	森本 剛	篠原出版新社	2010
参考書	岩手医科大学 医療安全対策マニュアル(第15版)	医療安全管理部	岩手医科大学	

・成績評価方法

<p>【総括評価】 MCQ形式の進級試験(満点100%)で評価し、60%以上の得点をもって合格とする。</p> <p>【形成的評価】 講義内でICTフォームを活用した確認テスト方式で形成的評価を行う(到達目標1, 2, 3)。また、地域医療実践からの学び、地域医療で想起されるリサーチクエスチョンを学生に考えさせwebレポートとして提出。その結果を学生にポジティブなフィードバックとすることで、地域医療志向性と学習意欲向上につなげる(到達目標4, 5)。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1~6	1~8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修(予習・復習)を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低60分を要する。授業後の課題や復習のためには最低60分は要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に480分の自己学修を要す</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を</p>
--

・教育資源

講義室、PC、プレゼンテーションソフトウェア、参考書

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン VAIO Pro13mk2 一式	1	講義資料作成用
講義	Let's note FV5 一式	1	講義資料作成用
講義	ノートパソコン 一式	1	講義資料作成用
講義	カラー複合機 一式	1	講義資料作成用
講義	37.5型カラー液晶モニター FlexScan 一式	1	講義資料作成用

# 老年医学

ナンバリング M4-S1-D15

責任者・コーディネーター		神経内科・老年科分野 前田 哲也 教授	
担当講座・学科（分野）		脳神経内科・老年科分野、呼吸器内科分野、臨床腫瘍学講座、外科学講座、薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野、医学部、泌尿器科学講座、整形外科科学講座	
担当教員		前田 哲也 教授、川田 一郎 教授、板持 広明 教授、佐々木 章 教授、工藤 賢三 教授、小野田 敏行 客員教授、杉村 淳 准教授、佐藤 光太郎 特任准教授	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

世界の先進国は百年人生時代に入り、超高齢化社会の到来が告げられて久しい。今後も高齢者人口は増加すると想定されている。日本をはじめ世界の医療は遍く成人を対象として多くのエビデンスを積み上げてきたが、これからの時代は、いかなる領域の疾患であっても医療の対象が高齢者であるという事実を念頭に提供されなければならない。

老年医学は、生体の生理的あるいは病的な加齢変化を理解し、診断と治療の実践における高齢者特有の問題点とその対策、高齢者保健および福祉対策などを学ぶ学問である。病的老化の機序を研究対象とすることで、人類の生命予後の向上に貢献するサイエンスでもある。本講義ではこうした点を踏まえ、高齢者に関する臨床各科の診療を習得することを方針とする。

## ・教育成果（アウトカム）

生理的な加齢変化、高齢者の特徴を学ぶことで、感染症、悪性腫瘍、泌尿器疾患、骨疾患など高齢者に多い疾患・症候について説明することができ、高齢者に対する薬物療法、外科的治療と麻酔などに関する注意点などについて説明できる。また病的老化を学ぶことで、老化を科学的に捉えることができる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	寿命と加齢変化について説明できる。
2	加齢に伴う神経疾患について説明できる。
3	高齢者の特徴、症候、治療、注意点を十分把握して説明できる。
4	高齢者の免疫、感染症の重要事項や問題点を説明できる。
5	高齢者の外科における診断と治療における重要事項や問題点を説明できる。
6	高齢者の腎機能、排尿機能及び性機能の特徴を説明できる。
7	高齢者の悪性腫瘍の特徴を説明できる。
8	高齢者における薬物療法の注意点を説明できる。
9	高齢者の骨粗鬆症における骨折、関節症の特徴と問題点を説明できる。
10	高齢者の保健・福祉・介護について重要な事項を説明できる。
11	高齢者の特徴をふまえた診察について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/13(月)	3	整形外科学講座	佐藤 光太郎 特任准教授	老年者の骨折、骨粗鬆症と関節症	1,3,5,9,11	【事前学修】 骨粗鬆症、変形性関節症、ロコモティブシンドロームについて事前に確認しておく。所要時間 45分以上 【事後学修】 高齢者に起こる運動器疾患に対する予防および治療についてまとめる。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/20(水)	3	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	老化と免疫、老年者の感染症	1,4,8	【事前学修】 老年者の免疫の特徴、老年者におこりやすい感染症について確認しておく。所要時間 45分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習する。推薦図書などを用いて自らの学識を深める。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/20(水)	4	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	老年者悪性腫瘍	1,2,3,7,8,11	【事前学修】 ADL, IADL, フレイルの概念について確認しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 老年者悪性腫瘍の治療適応の決定因子についてまとめる。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/27(水)	3	脳神経内科・老年科分野	前田 哲也 教授	加齢と老年症候群	1,3,7,8	【事前学修】 推薦図書などを用いて老年者に多い脳神経疾患と症候について予習する。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。 推薦図書などを用いて自らの学識を深める。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/27(水)	4	泌尿器科学講座	兼平 貢 講師	老年者の腎・排尿・性機能	3,6,8	【事前学修】 腎機能評価法、排尿障害の種類について確認しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 老年者の腎機能障害、排尿障害、性機能低下の特徴、治療における注意点についてまとめる。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/3(水)	3	外科学講座	佐々木 章 教授	高齢者外科診療の特性と管理	1,3,5,11	<p>【事前学修】 配布資料を確認し、推薦図書などを用いて高齢者外科診療について予習しておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、推薦図書などにより自らの学識を深める。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/3(水)	4	薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	高齢者と薬物療法	3,8	<p>【事前学修】 薬物動態について、薬理学等の教科書を読んで復習・確認しておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 高齢者の疾患・病態上の特徴と薬物療法への影響についてまとめる。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/10(水)	3	医学部	小野田 敏行 客員教授	老年保健福祉介護	10	<p>【事前学修】 「国民衛生の動向」などから、我が国の高齢化の状況とそれに対応する施策についてどのように変遷してきたのか、また現在はどうかについて概要を確認しておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ老年保健福祉介護の仕組みや現状について「国民衛生の動向」および厚生労働省のサイトなどで再確認する。また、岩手県内特に盛岡市や矢巾町にどのような施設があるのか検索し、利用する要件や費用、提供されるサービス等について確認する。所要時間160分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	新老年学 第3版	大内尉義、秋山弘子 編	東京大学出版会	2010
推薦図書	老年医学テキスト 改訂第3版	日本老年医学会 編	メジカルビュー社	2008

推薦図書	標準外科学 17版	田邊 稔 監修、池田徳彦、大木 隆生、猪股 雅史、篠原 尚 編集	医学書院	2025
推薦図書	標準泌尿器科学 10版	並木幹夫 監修	医学書院	2021
推薦図書	ベッドサイド泌尿器科学 改訂4版	吉田修 監修	南江堂	2013
推薦図書	高齢者の麻酔：これからの時代に対応するために	稲田英一 著	真興交易医書出版部	1995
推薦図書	国民衛生の動向2025/2026	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2025
推薦図書	高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015	日本老年医学会 編	メジカルビュー社	2015
推薦図書	老年腫瘍学	田村和夫、鍋島一樹、鈴宮淳司	文光堂	2008
参考書	神経内科ハンドブック 第5版	水野美邦	医学書院	2016
推薦図書	標準整形外科学 第14版	井樋栄二	医学書院	2020

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100%）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 講義終了後に自由ディスカッションを設けて学生の事前学習度を評価し疑問を解決する。また前回講義の振り返り、実践的な試験問題の事後解説あるいは小テストなどを行い、講義内容の理解度を確認しその結果を学生にフィードバックする。 各講師が担当講義におけるルーブリックを設定し事前学習と事後学習の評価基準を示す。学習の見通しと学習成果の集約について、学生に目的および成果意識をもたせる。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～11	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>寿命、加齢変化          老年者の特徴、症候、治療、留意点          老年者の介護・福祉          老年者の排尿障害          老年者の骨折、骨粗鬆症と関節症          老年者の免疫、感染症          老年者の臨床検査値          老年者と薬物療法          老年者と悪性腫瘍          老年者と外科</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に380分の自己学修を要す。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有          大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、PC、インターネット環境
------------------------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

# 整形外科学

ナンバリング M4-S1-D16

責任者・コーディネーター	整形外科学講座 角谷 賢一朗 教授		
担当講座・学科（分野）	整形外科学講座		
担当教員	角谷 賢一朗 教授、田島 吾郎 准教授、佐藤 光太郎 特任准教授、及川 伸也 特任講師、丸山 盛貴 講師、大竹 伸平 講師、三又 義訓 講師、高橋 裕孝 助教、及川 龍之介 助教、鈴木 忠 助教、月村 悦子 助教、山部 大輔 助教、千葉 佑介 助教、村上 賢也 助教		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 17コマ 34.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

整形外科学は、身体の姿勢および運動器（骨・関節・靭帯・筋・腱・腱鞘、脊髄・馬尾・末梢神経、血管）に関する臨床医学である。すなわち、機能解剖と運動生理の理解に基づいて、運動器の疾病・外傷の病因・病態と診断・治療法を究明する学問である。診断・治療法には放射線学的・病理学的・神経学的・一般外科的手法も必要であり、新生児から高齢者まで、また、頸部・体幹から上・下肢までと守備範囲は広い。そして治療法も外科療法のみならず、装具療法や運動療法を含む保存療法も大きな比重を占めている。運動器の医学・医療をもって、健康と社会への貢献を目指すことが基本理念である。

## ・教育成果（アウトカム）

運動器病学（整形外科学）の基本的な疾患の知識を学習し、診察法や検査法の原理と原則を学習することにより、一般臨床医としての知識が形成される。また、外傷学の基本的知識と技術を学習することにより、専門の枠を脱し、一般臨床の現場におけるプライマリーケアについて説明できる。高齢化社会において健康寿命を延ばすことは、重要な課題であり、運動器疾患の診断、治療、予防を学習することにより、地域医療に貢献できる医療人の礎が形成される。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	運動器の構造と機能を説明できる。
2	運動器疾病・外傷の診断・治療における病歴（主訴、現病の経過・治療歴、合併症、既往症、家 家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴など）の重要性を説明できる。
3	歩行・姿勢・肢位の異常（跛行・変形など）を、疾患・治療法と関連づけて説明できる。
4	四肢長・周径、関節可動域（ROM）の測定について説明できる。
5	神経学的診察法（徒手筋力テストMMT、表在・深部反射、病的反射、表在・深部知覚検査、症状誘発・寛解手技など）の実施と意味の説明ができる。
6	画像検査（X線、CT、MRI、ECHO、骨シンチ、各種造影など）、電気生理学的検査（筋電図、神経伝導速度など）、関節鏡検査、生検の意義を列挙し説明ができる。

7	運動器疾患の保存療法、外科療法、リハビリテーションの概要について説明できる。
8	運動器の外傷に対する診断・治療・管理の概要について説明できる。
9	骨・関節・靭帯、筋・腱・腱鞘の炎症の原因・病態（急性、慢性、特殊性）と診断・治療の概要について説明できる。
10	新生児・乳児・小児疾患の初期症状、病因・病態、診断・治療の概要について説明できる。
11	加齢変性に起因する疾患の病態と治療の概要について説明できる。
12	骨・軟部腫瘍の診断・治療・予後の概要について説明できる。
13	スポーツによる運動器外傷・障害の診断・治療の概要について説明できる。
14	職業による運動器傷病の診断・治療の概要について説明できる。
15	緊急検査、緊急手術を要する疾病・外傷の診断・治療の概要について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時間	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/3(金)	5	整形外科学講座	三又 義訓 講師	骨腫瘍	2,5,6,7,8,9,10,11,13	【事前学修】 標準整形外科学の「骨腫瘍」と事前資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習した軟部腫瘍疾患の内容を事前資料と合わせてまとめておく。小テストを自己採点する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/10(金)	1	整形外科学講座	田島 吾郎 准教授	スポーツ障害・外傷総論	2,6,11	【事前学修】 標準整形外科学の「スポーツと整形外科」と事前資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習したスポーツ障害・外傷（総論）の内容を事前資料と合わせてまとめておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/10(金)	2	整形外科学講座	田島 吾郎 准教授	スポーツ障害・外傷各論	2,6,7,12	【事前学修】 標準整形外科学の「膝関節」中のスポーツ関連疾患と事前資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習したスポーツ障害・外傷（各論）の内容を事前資料と合わせてまとめておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/10(金)	5	整形外科学講座	角谷 賢一朗 教授	整形外科学総論 運動器疾患の診断と治療	1,2,3,4,5 6,7,8,9, 10,11,1 2,14	【事前学修】 標準整形外科学（他の整形外科の教科書でもよい）の「基礎科学」「診断総論」「治療総論」「疾患総論」を読んで運動器学の基礎について事前に学習しまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習した運動器の知識を元に講義の最後に提示する課題について個々の意見をまとめレポートとして提出する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/17(金)	5	整形外科学講座	大竹 伸平 講師	関節リウマチと類似疾患	1,2,5,8,9 ,13	【事前学修】 標準整形外科学（他の整形外科教科書でもよい）のリウマチとその類縁疾患を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習した関節リウマチとその類縁疾患の内容を疾患ごとにまとめておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/24(金)	1	整形外科学講座	佐藤 光太郎 特任准教授	肘関節・前腕の疾患・外傷	1,2,3,6,7 8,9,10,1 1,13,15	【事前学修】 上肢の末梢神経疾患について予習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 上肢の末梢神経疾患、肘の疾患について復習しておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/24(金)	2	整形外科学講座	三又 義訓 講師	軟部腫瘍	8,13	【事前学修】 標準整形外科学の「軟部腫瘍」と事前に配布する資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習した内容と事前資料をまとめる。小テストを自己採点し、内容を復習する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/24(金)	5	整形外科学講座	高橋 裕孝 助教	骨端症、小児整形疾患・先天異常	2,7,9,10	【事前学修】 標準整形外科学の「骨端症」「先天性疾患」等と事前資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学習した内容と事前資料を合わせてまとめておく。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	5/1(金)	1	整形外科学講座	及川 龍之介 助教	足関節・足部の疾患・外傷	7,8,13	<p>【事前学修】 標準整形外科学（他の整形外科の教科書でもよい）の「足関節・足部疾患」を読んで運動器学の基礎について事前に学習しまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した足関節・足部疾患の内容を事前資料と合わせてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/1(金)	2	整形外科学講座	鈴木 忠 助教	腰痛疾患の診断と治療、感染性脊椎炎	1,2,3,4,6,7,8,11	<p>【事前学修】 腰痛疾患の診断と治療、感染性脊椎炎について標準整形外科学で予習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容と事前資料を合わせてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/8(金)	1	整形外科学講座	及川 伸也 特任講師	肩甲骨・肩関節・上腕の外傷・疾患	1,2,9	<p>【事前学修】 標準整形外科学の「肩関節疾患」と事前資料を読んで学習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容と事前資料を合わせてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/8(金)	2	整形外科学講座	丸山 盛貴 講師	膝関節・下腿の疾患・外傷	9	<p>【事前学修】 標準整形外科学（他の整形外科の教科書でもよい）の膝関節の章を読んで予習しておく。特に変形性膝関節症について理解を深めておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した膝関節・下腿の疾患と例題の復習を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/14(木)	5	整形外科学講座	月村 悦子 助教	代謝性骨疾患、感染性疾患	2,6,7,8,11	<p>【事前学修】 講義で学習した骨系統疾患の内容をまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した骨系統疾患の内容をまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	5/15(金)	1	整形外科科学講座	山部 大輔 助教	脊柱変形の病態と治療	1,2,6,8,9,11,13,14,15	<p>【事前学修】 標準整形外科学（あるいはそれに準じる教科書）の「脊柱変形」を読んで脊柱変形について事前に学習しまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した脊柱変形の内容を資料と合わせてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/15(金)	5	整形外科科学講座	大竹 伸平 講師	骨盤・股関節・大腿の疾患・外傷	4,5,6,7,8,9,11,15	<p>【事前学修】 標準整形外科学（他の整形外科教科書でもよい）の骨盤・股関節・大腿の疾患・外傷を読んで学習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した骨盤・股関節・大腿の疾患・外傷の内容を疾患ごとにまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/22(金)	2	整形外科科学講座	千葉 佑介 助教	頸椎疾患、脊椎・脊髄損傷、脊椎・脊髄腫瘍	1,2,4,8,13	<p>【事前学修】 頸椎疾患、脊椎・脊髄損傷、脊椎・脊髄腫瘍について標準整形外科学で予習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した知識を元に臨床実習前にミニレクチャーを行い、脊椎疾患に関する確認と試問を行う。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/29(金)	5	整形外科科学講座	村上 賢也 助教	手・手関節の疾患・外傷	2,6,7,12	<p>【事前学修】 標準整形外科の手関節と手の章を読む。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義内で提示した例題について復習をする。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準整形外科学 15版	田中栄、高木理彰、松田秀一 編	医学書院	2023
参考書	整形外科医のための神経学図説原書第2版 脊髄・神経根障害レベルのみかた, おぼえかた	長野昭 訳	南江堂	2019
参考書	図解 四肢と脊椎の診かた	野島元雄 監訳	医師薬出版株式会社	1984

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に各回110分の自己学修を要す。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、模擬骨モ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	スキャナ透過原稿ユニット (ES-10000G)	1	学生講義用
講義	モノクロ複合機 (MF6570)	1	学生講義資料
講義	カラーレーザープリンター (LBP5900SE)	1	学生講義資料
講義	ノートパソコン一式 (MB062J/A)	1	学生講義用
講義	デスクトップパソコン (Elite 800 G1 TW)	1	学生講義資料
講義	カラー複合機 (iR-ADVC5240F)	1	学生講義資料
講義	カラー複合機 (Apeos C5570)	1	学生講義資料
講義	ノートパソコン一式 (R634K)	1	学生講義用

# リハビリテーション医学

ナンバリング M4-S1-D17

責任者・コーディネーター	リハビリテーション医学講座 西村 行秀 教授		
担当講座・学科（分野）	リハビリテーション医学講座		
担当教員	西村 行秀 教授、西山 一成 講師、佐藤 義朝 非常勤講師、中村 健 非常勤講師、阿部 深雪 非常勤講師、上條 義一郎 非常勤講師、美津島 隆 非常勤講師、入澤 寛 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

リハビリテーションの治療の目的とするところは、①障害の克服、②機能の回復、③活動を育む、である。リハビリテーションは各臓器別専門診療科の治療に併用できるので、幅広い知識が必要となる。さらに療法士だけではなく、多くの職種の人々との協力、連携が必要となるため、コミュニケーション力とマネジメント力が必要となってくる。さらに急性期医療だけではなく、回復期、生活期医療においてもリハビリテーションの需要や期待は大きい。リハビリテーション医学とは臓器別診療ではなく対象者を一個人とし関わり全人的に対処し、対象者を細胞レベルから改善させる学問である。

## ・教育成果（アウトカム）

さまざまな障害を理解することで、リハビリテーション医学をとおして、その障害を克服し、機能を改善させ、活動性を育むことができるようになる。リハビリテーション医療である、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、義肢装具療法、摂食・嚥下療法、薬物療法などを理解することで、適切なリハビリテーション医療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	リハビリテーションの概要、その適応について説明できる。
2	リハビリテーション医療の中の理学療法、作業療法、言語聴覚療法などについて説明できる。
3	脳血管障害、脳外傷（高次脳機能障害も含む）の病態とリハビリテーションについて説明できる。
4	神経筋疾患の病態とリハビリテーションについて説明できる。
5	運動器（骨・関節、筋・神経）障害、切断や脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて説明できる。
6	音声・言語障害などコミュニケーション障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
7	摂食・嚥下障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
8	呼吸器疾患、心臓・循環器疾患や悪性腫瘍など内部障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
9	排尿、排便などの排泄障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
10	運動生理学やスポーツについて説明できる。
11	療法士、看護師など多職種との連携と協力の必要性について説明できる。

## ・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/1(月)	3	リハビリテーション医学講座	西村 行秀 教授	リハビリテーション医学 総論	1,2,11	<p>【事前学修】 リハビリテーション医学について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/1(月)	4	リハビリテーション医学講座	中村 健 非常勤講師	各論：内部障害、摂食嚥下障害	6,7,8	<p>【事前学修】 内部障害、摂食嚥下障害について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/8(月)	3	リハビリテーション医学講座	西山 一成 講師	リハビリテーション治療学	2,11	<p>【事前学修】 リハビリテーション治療学について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/8(月)	4	リハビリテーション医学講座	阿部 深雪 非常勤講師	各論：脳血管障害	3,5,6,9	<p>【事前学修】 脳血管障害について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/15(月)	3	リハビリテーション医学講座	入澤 寛 非常勤講師	リハビリテーション診断学	1,10	<p>【事前学修】 リハビリテーション診断学について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/15(月)	4	リハビリテーション医学講座	美津島 隆 非常勤講師	各論：運動器、脊髄損傷	4,5	<p>【事前学修】 運動器、脊髄損傷について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/22(月)	3	リハビリテーション医学講座	上條 義一郎 非常勤講師	各論：運動生理・スポーツ医学	1,2,11	<p>【事前学修】 運動生理、スポーツ医学について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/22(月)	4	リハビリテーション医学講座	佐藤 義朝 非常勤講師	各論：神経筋疾患	4,7,8	<p>【事前学修】 神経筋疾患について、該当する例をリハビリテーション医学・医療コアテキストの教科書を読んで自分なりに理解する。所要時間 110分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を復習し、配布した問題を勉強し、関連する知識の学習も行うこと。所要時間 110分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	リハビリテーション医学・医療 コアテキスト	日本リハビリテーション医学会監修	医学書院	2018
参考書	イラストと写真でわかる実践装具療法	久保俊一、田島文博 編集	金芳堂	2015

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100%）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～11	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>1. 各種リハビリテーションの概念 2. 中枢神経障害の運動リハビリテーション 3. 高次脳機能障害・神経疾患のリハビリテーション 4. 難聴・平衡障害と音声・言語障害のリハビリテーション 5. 視覚障害および低視力者のリハビリテーション 6. 精神疾患のリハビリテーション 7. 運動器疾患、神経障害のリハビリテーション 8. 呼吸器疾患のリハビリテーション 9. 心臓・循環器疾患のリハビリテーション 10. 消化器疾患のリハビリテーション 11. 腎・膀胱・排尿障害と性機能障害のリハビリテーション</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信する。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
---

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館
-----------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン LIFEBOOK	1	講義資料作成のため
講義	ノートパソコン LIFEBOOK	1	講義資料作成のため
講義	My Passport SSD 2020 Hi-Speed 4TB	4	講義資料作成のため
講義	Extreme Portable SSD 4TB	4	講義資料作成のため
講義	Extreme Portable SSD 4TB	4	講義資料作成のため
講義	My Passport SSD 2020 Hi-Speed 4TB	4	講義資料作成のため
講義	My Passport SSD 2020 Hi-Speed 4TB	4	講義資料作成のため

# 形成外科学

ナンバリング M4-S1-D18

責任者・コーディネーター	形成外科学講座 櫻庭 実 教授		
担当講座・学科（分野）	形成外科学講座		
担当教員	櫻庭 実 教授、本多 孝之 特任准教授、小野寺 文 助教、三橋 伸行 助教、山崎 友和 助教(任期付)		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 11コマ 22.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

形成外科学は、外傷、腫瘍、先天異常など様々な要因で生じた組織欠損や変形、機能障害を、機能的かつ形態的に修復することで患者のQOL向上を目指す、外科学の一分野である。その対象領域は初期臨床研修医がしばしば遭遇する四肢、顔面の軽微な外傷や小腫瘍から、Microsurgeryを用いた組織移植による再建外科や頭蓋顎顔面の骨切りを伴うCraniofacial Surgeryといった難易度の高い分野まで幅広い。本講義においては、臨床に役立つ局所解剖と創傷治癒の基礎について学習するとともに、疾患の病態、診断、基本的治療法から顕微鏡下手術までを幅広く学習する。  
課題が与えられたグループは、該当する講義までにプレゼンテーションを作成し、発表の準備を行っておくこと。

## ・教育成果（アウトカム）

形成外科に関連する疾患の病態とその診断法、治療法を学ぶことにより、一般の臨床医が有すべき形成外科学の基礎知識、ならびに国家試験コアカリキュラム関連項目の知識について説明できる。また、形成外科の疾患を学ぶことにより、疾病や障害を有する患者への適切な配慮と接遇態度について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	形成外科における対象疾患の範囲と形成外科的診療を説明できる。
2	創傷治癒過程を理解し説明できる。
3	皮膚縫合や局所皮弁の方法と原理、効果を図示し説明できる。
4	皮弁、植皮を含む組織移植の基本事項を理解し、その種類と特徴、生着過程が説明できる。
5	顔面・四肢外傷の病態と診断、初期治療に関する基礎知識を説明できる。
6	熱傷の病態と診断、初期治療を含む診療手技と予後について説明できる。
7	瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイドの病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
8	難治性潰瘍の成因と病態と診断、基本的治療について説明できる。
9	先天異常の病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
10	代表的な皮膚良性腫瘍、母斑症、血管腫、血管奇形の病態と診断、基本的治療を説明できる。

11	代表的な皮膚悪性腫瘍の病態と診断、基本的治療を説明できる。
12	マイクロサージャリーの概要と応用範囲について説明できる。
13	がん医療における形成外科の役割について説明できる。
14	体表に病変を抱える患者さんやご家族に対する適切な接遇について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/1(金)	4	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	形成外科 概論	1,14	【事前学修】 形成外科総論について「標準形成外科学」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ形成外科の概念、および患者に対する配慮について150字程度にまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/8(金)	3	形成外科学講座	小野寺 文 助教	皮膚解剖と創傷治療、瘢痕・ケロイド	2,6,7,8	【事前学修】 皮膚の構造と創傷治療について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass、クリッカー
講義	5/8(金)	4	形成外科学講座	小野寺 文 助教	形成外科における縫合、組織移植（植皮、皮弁）	3,4	【事前学修】 形成外科的縫合手技について「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ形成外科的な縫合の要点について箇条書きにまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass、クリッカー

講義	5/15(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	マイクロサージャリー	12,13	<p>【事前学修】 マイクロサージャリーについて「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/15(金)	4	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	がん医療と再建外科	11,12,13	<p>【事前学修】 再建外科について「標準形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/22(金)	3	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	顎顔面の発生・発育と先天異常（唇顎口蓋裂、耳、頭頸部など）	9,14	<p>【事前学修】 頭部顔面、頸部の先天異常について「標準形成外科（第3章先天異常）」「TEXT形成外科（各論Ⅰ先天性疾患Ⅰ頭頸部）」の項目を読んで各疾患の成因、治療方法についてまとめを作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/22(金)	4	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	顔面外傷	2,5,7,8,14	<p>【事前学修】 顔面外傷について「標準形成外科」「TEXT形成外科」「外傷形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	5/29(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	良性腫瘍、母斑、血管腫、血管奇形、皮膚悪性腫瘍	10,11,14	<p>【事前学修】 皮膚腫瘍、母斑、血管腫について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/29(金)	4	形成外科学講座	山崎 友和 助教 (任期付)	熱傷・難治性創傷	1,2,6,7,8	<p>【事前学修】 「標準形成外科（第4章外傷の熱傷・その他の外傷）（第6章難治性潰瘍・変性疾患・膠原病）」「TEXT形成外科（各論Ⅱ後天性疾患のⅣ熱傷・Ⅴ特殊な損傷・Ⅵ褥瘡・Ⅶ難治性潰瘍・感染創）」の各項目を読み、 ・熱傷の診断方法、治療方法（局所・全身管理）についてまとめを作成する。 ・難治性創傷が難治となる原因についてまとめを作成する。 所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。手指の発生、先天異常の分類について暗記する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/19(金)	3	形成外科学講座	三橋 伸行 助教	四肢・体幹の先天異常、四肢外傷	5,9,14	<p>【事前学修】 四肢・体幹の先天異常について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで各疾患の成因、治療方法についてまとめを作成する。手の発生について一度暗記する。 四肢の外傷について、上記教科書に加え「手の外科の実際」「手外科診療ハンドブック」「外傷形成外科」を読んで初期治療の方法についてまとめを作成する。特に上肢、手、指の解剖について復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/19(金)	4	形成外科学講座	三橋 伸行 助教	試験に関わる形成外科学（+小テスト）	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14	<p>【事前学修】 講義で学んだ内容、事前・事後の学習内容について復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 理解の不足する部分を再度確認し、自分なりにまとめを作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準形成外科学 7版	平林慎一、鈴木茂彦 編	医学書院	2019
教科書	TEXT形成外科学 改訂3版	中塚貴志 他編	南山堂	2017
参考書	形成外科治療手技全書Ⅱ 全7巻	波利井清紀、野崎幹弘 編	克誠堂出版	2016
参考書	形成外科診療プラクティス 形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療	山本有平 他編	文光堂	2009
参考書	創傷のすべて	市岡滋 監修	克誠堂出版	2012
参考書	よくわかる子どものための形成外科	中島龍夫編	永井書店	2005
参考書	手の外科の実際 改訂7版	津下健哉 著	南江堂	2011
参考書	形成外科診療ガイドライン202年版	日本形成外科学会ほか 編	金原出版	2021
推薦図書	形成外科手術書改訂第5版 基礎編・実際編	鬼塚卓弥	南江堂	2018
推薦図書	Grabb's encyclopedia of flaps 4th ed.	Berish Strauch 他	LWW	2016
推薦図書	Plastic surgery 5th ed.	Peter C. Neligan	Saunders Elsevier	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。

実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

\*各講義時間内に、学生各班に課題を担当してもらい、ミニPBLを行う予定です。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に各回70分の自己学修を要す。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、模擬骨モデルなど

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコン Lavie Direct DT	1	講義資料作成のため

# 耳鼻咽喉科頭頸部外科学

ナンバリング	M4-S1-D19
--------	-----------

責任者・コーディネーター	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 中西 啓 教授		
担当講座・学科（分野）	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座		
担当教員	阿部 俊彦 助教、中西 啓 教授、金城 伸祐 非常勤講師、片桐 克則 准教授、香取 幸夫 非常勤講師、桑島 秀 非常勤講師、金澤 丈治 非常勤講師、千葉 隆史 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

耳鼻咽喉科頭頸部外科学は生命維持に重要な気道や嚥下を扱うと同時に、ヒトの高次な精神活動に必要な聴覚・言語というコミュニケーションに関わる器官も扱う。このような領域の障害を究明し、機能と形態の修復を図り、さらに予防を目指す学問である。

・教育成果（アウトカム）

耳鼻咽喉科頭頸部外科学及び関連領域における基礎的知識を習得することで、臨床医学全般の中における耳鼻咽喉科頭頸部外科学の位置、他科との関連性について説明できる。  
(ディプロマ・ポリシー： 4,5 )

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	耳鼻咽喉科頭頸部領域の臨床解剖学的事項およびその機能を説明できる。
2	聴覚検査、平衡機能検査、嗅覚検査、味覚検査など耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の主たる検査法と、その検査結果から障害の病態などを説明できる。
3	耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の主たる疾患をあげ、その病態、診断、治療など疾患に関わる一般的な知識を説明できる。
4	口腔を中心とした疾病の診断、治療、予防について説明できる。
5	頭頸部の腫瘍を中心とする疾患の診断と治療について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/7(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	阿部 俊彦 助教	聴覚検査・平衡機能検査と疾患	1,2	【事前学修】 聴覚・平衡覚とその検査法について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の教科書を読んで聴覚・平衡覚の解剖・生理を自分なりにまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/7(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓 教授	耳鼻咽喉科・頭頸部外科総論	1,2,3	【事前学修】 耳鼻咽喉科疾患について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	金城 伸祐 非常勤講師	人工聴覚器	1,2,3	【事前学修】 人工内耳について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書を読んで原理と適応の理解を深めて置く。所要時間 30分以上 【事後学修】 人工聴覚器の種類と現状を200字以内にまとめる。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓 教授	外耳・中耳疾患	1,2,3	【事前学修】 外耳・中耳疾患について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	5/26(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓 教授	難聴をきたす疾患	1,2,3	【事前学修】 難聴を来す疾患について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓 教授	めまいをきたす疾患	1,2,3	【事前学修】 めまいを来す疾患について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	片桐 克則 准教授	喉頭疾患・腫瘍	1,3,5	【事前学修】 喉頭疾患・腫瘍について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	香取 幸夫 非常勤講師	嚥下障害と気管切開	1,2,3	【事前学修】 気管切開・嚥下障害について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/9(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	桑島 秀 非常勤講師	鼻副鼻腔疾患・腫瘍	1,2,3,5	<p>【事前学修】 鼻・副鼻腔疾患・腫瘍について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/9(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	桑島 秀 非常勤講師	唾液腺疾患、気管食道異物	1,2,3	<p>【事前学修】 唾液腺疾患、気管食道異物について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所用時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/16(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	片桐 克則 准教授	口腔咽頭疾患・腫瘍	1,3,4,5	<p>【事前学修】 口腔咽頭疾患・腫瘍について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/16(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	金澤 文治 非常勤講師	音声障害	1,3,5	<p>【事前学修】 音声障害について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/23(火)	3	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	千葉 隆史 非常勤講師	鼻アレルギー	3	【事前学修】 鼻アレルギーについて耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 事前学習した要点に講義で学んだ事項を追加し自分なりのレジメを作成する。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/23(火)	4	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓 教授	顔面神経麻痺	1,3,5	【事前学修】 顔面神経麻痺について耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の教科書の該当箇所を読んで要点を箇条書きにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 難聴、めまいを来す疾患を障害部位別に分類し、各疾患の要点として2～3個のキーワードを付ける。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 改訂第4版	大森孝一 他著	医学書院	2022
推薦図書	ENT and Head and Neck Surgery (Oxford Handbook) 2nd ed.	Rogan Corbridge、 et al	Oxford University Press	2010
参考書	Otolaryngology and Head and Neck Surgery	Warner G, et al	Oxford University Press	2009
参考書	Jatin Shah's Head and Neck Surgery and Oncology 4th ed.	Jatin S、 Patel S、 Singh B	Elsevier / Mosby	2012
参考書	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版	森山 寛 監修	医学書院	2018

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5	4、5				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書・講義室の音響設備

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	純音オーディオメータ	4	聴力検査実習
講義	自記オーディオメータ	1	聴力検査実習
講義	インピーダンスオーディオメータ	1	聴力検査実習
講義	誘発電位検査装置	1	ABR（聴性脳幹反応）検査
講義	誘発反応測定装置	1	ASSR（聴性定常反応）検査
講義	耳音響放射測定装置	2	内耳機能検査
講義	音叉	3	聴力検査
講義	電気眼振計（ENG）	1	平衡検査
講義	ビデオ式眼振計測装置（VOG、VNG）	1	平衡検査
講義	赤外線眼振画像TV装置（IEM-2）	1	平衡検査
講義	耳鼻咽喉科診療ユニット	4	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ビデオ耳鼻咽喉スコープ	3	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ファイリングシステム	3	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ビデオ感音難聴とその成因1）上顎腫瘍手術 2）喉頭腫瘍手術3）気管切開手術	4	手術他供覧
講義	ビデオ装置	1	代表的疾患の供覧
講義	模型	4	耳、鼻、咽喉頭の解剖理解のため
講義	パソコン一式（Dimension9200）	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン （DGA7G6TB65ABCW104DEC）一式	1	耳、鼻、咽喉頭の解剖理解のため
講義	Ace Pro2 一式	1	講義資料作成

# 眼科学

ナンバリング M4-S1-D20

責任者・コーディネーター	眼科学講座 黒坂 大次郎 教授		
担当講座・学科（分野）	眼科学講座		
担当教員	黒坂 大次郎 教授、橋爪 公平 特任准教授、新田 順福 講師、及川 誠 講師、今泉 利康 講師、橋浦 哲哉 講師、伊藤 愉一 助教、福田 一央 助教		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 10コマ 20.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

視機能の回復、改善、維持および失明の予防を最大の目的とする。視器および視覚系、眼付属器の構造と機能を理解し、疾患病態を把握して診断・治療を行い、形態と機能の修復を果たし、より良い視覚の質（Quality of Vision）を提供する。このための知識と技能の体系である。

## ・教育成果（アウトカム）

視覚の生理学および視覚の異常、視覚障害や失明につながる視覚器あるいは視覚器を支える眼付属器の疾患を理解し、それらの適切な診断と治療の考え方について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,6,7,8 ）

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	視器の発生の過程について説明できる。
2	視覚の成立機序について、角膜から網膜まで、さらに視路と視中枢のレベルまでを説明できる。
3	眼科診察の手順と主要な検査について説明できる。
4	眼瞼、結膜、涙器の解剖と生理およびその病態と治療について説明できる。
5	眼球運動の神経機構およびその異常と原因について説明できる。
6	両眼視の神経機構および弱視・斜視の異常と治療について説明できる。
7	瞬目、涙液分泌、瞳孔反応の神経機構、主な異常とその原因について説明できる。
8	角膜、水晶体、虹彩、毛様体の解剖と生理、主な異常とその治療について説明できる。
9	硝子体・網膜・脈絡膜の解剖と生理、主な疾患とその治療について説明できる。
10	緑内障の病態を理解し、その種類を列挙し、診断と治療について説明できる。
11	視神経・視路と視野の異常およびその病巣の部位診断について説明できる。
12	眼窩の病変、眼外傷、救急疾患の主要なものを列挙し、診断と対処法について説明できる。
13	全身性疾患と視覚器の異常との関連性を説明できる。
14	ロービジョンおよび視覚障害者のリハビリテーションについて理解し、正しい概念を説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/6(月)	3	眼科学講座	黒坂 大次郎 教授	眼科学入門・白内障	1,2,3,8,1 2,13	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/6(月)	4	眼科学講座	黒坂 大次郎 教授	眼窩・涙道・救急疾患	4,5	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/9(木)	5	眼科学講座	及川 誠 講師	網膜剥離	9,12	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間75分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/16(木)	5	眼科学講座	今泉 利康 講師	眼球運動障害	5,6	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/20(月)	3	眼科学講座	福田 一央 助教	視神経炎	11	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/20(月)	4	眼科学講座	福田 一央 助教	緑内障	10	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/27(月)	4	眼科学講座	新田 順福 講師	糖尿病による眼合併症	9,13	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/7(木)	5	眼科学講座	伊藤 愉一胤 助教	高血圧と網膜血管閉塞症・黄斑疾患および遺伝性網膜疾患	9,13,14	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/25(月)	5	眼科学講座	橋爪 公平 特任准教授	ぶどう膜炎	9	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	5	眼科学講座	橋浦 哲哉 講師	角結膜疾患	7,8	【事前学修】 オープン問題、標準眼科学に目を通しておく。所要時間 75分以上 【事後学修】 国試過去問に取り組み、到達度をチェックする。所要時間 75分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	図解眼科	吉村長久 他編著	金芳堂	2008
教科書	標準眼科学 第15版	園田康平、中澤 徹編集	医学書院	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
実習中の口頭試験および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～3、 6～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は最低75分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。  
講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

PC、講義室

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

# 皮膚科学

ナンバリング M4-S1-D21

責任者・コーディネーター	皮膚科学講座 天野 博雄 教授		
担当講座・学科(分野)	皮膚科学講座		
担当教員	天野 博雄 教授、渡部 大輔 准教授、三浦 慎平 講師、角田 加奈子 講師、渡辺 彩乃 講師、吉田 亜希 非常勤講師、石川 治 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

皮膚、皮膚粘膜移行部、粘膜は内臓と外的環境の境界となる部位である。内臓の異常、あるいは外的環境や刺激が発疹となって表れる。皮膚科学では発疹の性状・分布等を分析し、そこで生じている病態を理解することにより、発疹の誘因となった外的環境や内臓障害を推察する。すなわち、発疹を診て病理学的変化や病態を考え、適切な治療と予防を行う学問である。

## ・教育成果(アウトカム)

皮膚科学の講義を通じて、発疹の診方とその病態、検査法、診断手順、治療法と予防法を修得することで、将来医師としてあるいは医学者として必要な皮膚疾患に関する知識を得て適切な医療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	皮膚の基本的構造と生理学的特性および皮膚免疫機能を述べ、その異常による疾患について説明できる。
2	皮膚科診断学、発疹学、皮膚科検査法の種類とその手技を説明することができる。また、皮膚科治療法(外用療法、内服療法、光線療法)を説明できる。
3	湿疹皮膚炎群、蕁麻疹・痒疹とアナフィラキシーの病態、その診断法と治療法について説明できる。
4	紅斑症、紅皮症、薬疹、GVHDと病態、その診断と治療法について説明できる。
5	紫斑と血管炎および皮膚脈管異常の皮膚症状の特徴について説明し、その診断法と治療法について説明できる。
6	膠原病とその類縁疾患の皮膚症状および免疫機構との関わりについて説明し、その診断法と治療法について説明できる。
7	紫外線を含む皮膚の物理・化学障害および光線性皮膚障害について説明し、その治療法と予防法について説明できる。皮膚奇形、母斑症の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
8	表皮の接着構造と水疱症の関わり、膿疱症の種類と病態について説明し、その診断法と治療法について説明できる。
9	代謝異常、メラニン生成機序からみた色素異常症について説明し、その治療法と予防法について説明できる。
10	表皮の角化機序と意義を説明し、先天性および後天性角化異常症の種類と病態、その診断法と治療法について説明できる。
11	悪性皮膚腫瘍および皮膚リンパ腫、良性皮膚腫瘍の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
12	皮膚抗酸菌症、真菌性感染症、性病と節足動物による皮膚障害の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
13	皮膚付属器疾患、脂腺・毛髪疾患、肉芽腫性疾患の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
14	皮膚の感染防御機構と、ウイルス性および細菌性皮膚感染症による皮膚病変の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/7(火)	1	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	発疹の診方、皮膚疾患の検査方法、治療方法	2	【事前学修】 原発疹と続発疹の用語を調べておく。真菌検査とパッチテストについて学んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 原発疹と続発疹を列挙できるようにする。真菌検査とパッチテストについて説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/7(火)	2	皮膚科学講座	三浦 慎平 講師	巧みな皮膚の構造と機能	1	【事前学修】 皮膚の構造と機能について、教科書を読んで理解しておく。特に皮膚の基本的な構造についてシェーマが書けるようにしておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 皮膚の構成と機能について確認しておく。所要時間 40分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	1	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	血管及びリンパ管の疾患	1,5	【事前学修】 血管とリンパ管の疾患を教科書で学習し、血管炎の分類についても確認しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 血管炎の分類と原因や症状、治療について説明できるようにする。 動脈性血行障害、静脈疾患について説明できるようにする。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	2	皮膚科学講座	角田 加奈子 講師	皮膚付属器と真皮の疾患	1,13	【事前学修】 付属器、真皮の疾患について教科書を用いて調べておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 付属器、真皮の疾患について列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/21(火)	1	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	水疱症は表皮細胞接着分子の自己免疫疾患である	1,2,8	【事前学修】 水疱症の種類について教科書を読んで理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な水疱症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/21(火)	2	皮膚科学講座	角田 加奈子 講師	物理的皮膚障害、母斑症の病態と治療	7	【事前学修】 紫外線の種類、熱傷の重症度分類、母斑症を理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 紫外線で生じる疾患、熱傷の重症度分類、予後因子、代表的な母斑症を説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/28(火)	1	皮膚科学講座	三浦 慎平 講師	皮膚悪性・良性腫瘍の病態と診断	11	【事前学修】 皮膚悪性腫瘍（リンパ腫を含む）、良性腫瘍の種類と特徴をアトラスを見て勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 皮膚悪性腫瘍（リンパ腫）、良性腫瘍の種類とその特徴、治療について説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/28(火)	2	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	湿疹皮膚炎は表皮のバリア異常と免疫反応による	2,3	【事前学修】 湿疹の定義、アトピー性皮膚炎の診断基準、蕁麻疹について教科書やガイドラインを用いて理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹の診断、治療について説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/12(火)	1	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	炎症性角化症、遺伝性角化症	1,2,10	【事前学修】 炎症性角化症の種類について教科書を読んで理解しておく。表皮の角化機序も確認しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 炎症性角化症の種類とその治療について列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/12(火)	2	皮膚科学講座	渡辺 彩乃 講師	薬疹、紅斑を生じる疾患	2,4	【事前学修】 薬疹、紅斑症について教科書を読んで理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 薬疹（特に重症薬疹）、紅斑症についてその種類と特徴を説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	5/19(火)	1	皮膚科学講座	吉田 亜希 非常勤講師	メラニンや微量元素・蛋白の異常は色素異常症や皮膚の代謝異常症を生じる	9	【事前学修】 色素異常症、代謝異常症についてその種類と治療を勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 色素異常症、代謝異常症についてその種類と治療を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/19(火)	2	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	感染症の発疹を見逃さない	2,12	【事前学修】 皮膚感染症についてその種類と治療を勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な皮膚感染症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	1	皮膚科学講座	石川 治 非常勤講師	膠原病の皮膚症状	2.6	【事前学修】 膠原病の皮疹について教科書を読んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 膠原病の皮疹について各種膠原病と特徴的な皮疹について列挙できるようにする。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	2	皮膚科学講座	渡辺 彩乃 講師	皮膚真菌症、皮膚抗酸菌症、性感染症、虫による皮膚疾患	14	【事前学修】 皮膚真菌症、性感染症について教科書を用いてその種類を学んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な真菌症・性感染症・虫刺症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	皮膚科カラーアトラス第3版 臨床像と組織像	石川 治 編著	中外医学社	2017
推薦図書	新しい皮膚科学 第3版	清水 宏 著	中山書店	2018
推薦図書	皮膚病アトラス 5版	西山茂夫 著	文光堂	2004

・成績評価方法

【総括評価】

以下の合算（100点満点）により判定する。

1. 定期試験（90%）：全14回の講義内容を範囲とする筆記試験を行う。
2. 講義内小テスト（10%）：各回講義終了時に実施する小テストの結果を評価に算入する。

※小テストの採点基準

- ・各回の回答のうち、「第1回目」の回答得点を総括評価の対象とする。
- ・第2回目以降の回答は学習用として何度でも可能であるが、総括評価の成績には反映しない。
- ・期間内に受験しなかった場合は0点として扱う。

【形成的評価】

講義終了時にWeb Classを用いた小テストを実施し、その結果を授業およびWeb Classにてフィードバックすることで学習の促進を図る。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8			10	90			100
合計				10	90			100

・特記事項・その他

1. 巧みな皮膚の構造と機能 1回
2. 発疹の診方が正しい診断と治療を導く 1回
3. 湿疹皮膚炎は表皮のバリア異常と免疫反応による 1回
4. 内臓疾患や薬剤の影響で紅斑症が生じる 1回
5. 皮膚脈管系の巧妙な働きと障害 1回
6. 皮膚病変から膠原病を診断する 1回
7. 物理的皮膚障害、母斑症の病態と治療戦略 1回
8. 水疱症は表皮細胞接着分子の自己免疫疾患である 1回
9. メラニンや微量元素・蛋白の異常は色素異常症や皮膚の代謝異常症を生じる 1回
10. 遺伝性角化異常はケラチン蛋白の異常発現で、炎症性角化症はサイトカイン異常分泌で生じる 1回
11. 皮膚付属器と真皮の巧妙な構造と役割 1回
12. 見逃してはならない皮膚悪性腫瘍、皮膚良性腫瘍の診断と治療 1回
13. 感染症の発疹を見逃すな 1回
14. 稀だが重要な皮膚真菌症・抗酸菌症・性病・虫による皮膚病 1回

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、参考書、講義にはPCによるスライドを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン一式 iMac MD093J/A	1	講義資料作成
講義	パソコン一式 M9249J/A	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン一式 LIFEBOOK AH43/D3	1	講義資料作成
講義	デジタル一眼レフカメラ EOS-10D	1	講義用写真
講義	一眼レフ対応ダーマフォトモジュールセット	1	講義用写真
講義	ノートパソコン MAC MKGP3JA	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン FMVU90H1B	1	講義資料作成
講義	37.5型カラー液晶モニター FlexScan	1	講義資料作成

# 泌尿器科学

ナンバリング

M4-S1-D22

責任者・コーディネーター	泌尿器科学講座 小原 航 教授		
担当講座・学科（分野）	泌尿器科学講座		
担当教員	小原 航 教授、兼平 貢 特任准教授、前川 滋克 講師、加藤 廉平 講師、五十嵐 大樹 講師、阿部 正和 助教、塩見 勲 助教、井藤 綾人 助教、荒川 夢香 非常勤講師、小島 祥敬 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 10コマ 20.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

泌尿器科学は主に副腎、腎、尿路などの後腹膜臓器と男性生殖器を対象とする臨床医学の一つで、これらの臓器に生じる疾患について病態を解明し、適切な診断と治療を結びつけ、新規診断および治療法を開発するための学問である。ここでは、尿路と生殖器を主体とした疾患に関する知識を深める。

## ・教育成果（アウトカム）

尿路・生殖器の解剖、生理、診察や泌尿器疾患の症状、検査、画像診断、治療法などの基礎的知識を習得することで、正確な診療法について説明できる。  
(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	尿路・男性生殖器の解剖・生理について説明できる。
2	尿路・男性生殖器の診察・検査について説明できる。
3	泌尿器科で行われる主な検査や手術（尿路内視鏡、開腹、腹腔鏡、ロボット支援手術など）について説明できる。
4	泌尿器科で行われる画像診断法（超音波、尿路造影法など）について説明できる。
5	性分化異常・小児泌尿器科疾患について説明できる。
6	尿路上皮腫瘍の診断・治療について説明できる。
7	排尿動態や下部尿路疾患（過活動膀胱、神経因性膀胱など）の診断・治療について説明できる。
8	女性泌尿器疾患（尿失禁、膀胱脱、間質性膀胱炎など）について説明できる。
9	前立腺疾患（前立腺癌、前立腺肥大症など）について説明できる。
10	尿路性器の感染症について説明できる。
11	男性機能障害について説明できる。
12	精巣腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍などについて説明できる。
13	尿路結石症について説明できる。
14	泌尿器科で扱う血管疾患について説明できる。
15	腎腫瘍の診断・治療について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/8(水)	3	泌尿器科学講座	小原 航 教授	泌尿器科学総論	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15	<p>【事前学修】 泌尿器疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。 所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ泌尿器疾患について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass事前資料をアップする。 講義中にスマートフォンを使用し理解度を測定する。 教員とディスカッションの機会を設けます。</p>
講義	4/8(水)	4	泌尿器科学講座	前川 滋克 講師	下部尿路機能障害	1,7,9	<p>【事前学修】 下部尿路機能疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ下部尿路機能疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>

講義	4/8(水)	5	泌尿器科学講座	阿部 正和 助教	前立腺疾患	1,2,9	<p>【事前学修】 腎疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。 所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ腎疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>
講義	4/15(水)	3	泌尿器科学講座	五十嵐 大樹 講師	尿路上皮腫瘍	1,6	<p>【事前学修】 先天性および小児泌尿器疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ先天性および小児泌尿器疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>
講義	4/15(水)	4	泌尿器科学講座	小島 祥敬 非常勤講師	先天性および小児泌尿器疾患	1,5	<p>【事前学修】 尿路性器の感染症、性機能障害、血管性疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ尿路性器の感染症、男性機能障害、血管性疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>

講義	4/15(水)	5	泌尿器科学講座	加藤 廉平 講師	腎腫瘍	1,15	<p>【事前学修】 泌尿器科で行われる検査や手術について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ検査や手術法について100字程度でまとめること。 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>
講義	4/22(水)	3	泌尿器科学講座	塩見 勲 助教	精巣腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍	1,2,12	<p>【事前学修】 前立腺疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。 所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ精巣腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>
講義	4/22(水)	4	泌尿器科学講座	井藤 綾人 助教	尿路性器の感染症、性機能障害、血管性疾患	1,10,11,14	<p>【事前学修】 尿路上皮腫瘍について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ前立腺疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>

講義	5/13(水)	3	泌尿器科学講座	兼平 貢 特任准教授	泌尿器科の主な検査および手術、尿路結石症	1,3,4,13	<p>【事前学修】 女性泌尿器科疾患について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ女性泌尿器科疾患の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。 スマートフォンを使用し理解度を測定する。</p>
講義	5/13(水)	4	泌尿器科学講座	荒川 夢香 非常勤講師	女性泌尿器疾患	1,8	<p>【事前学修】 精巣腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍について、該当する例を標準泌尿器科学の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ精巣腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍の発症機序を考慮して疾患が起こる要因について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。教員とディスカッションの機会を設けます。</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準泌尿器科学 第10版	並木 幹夫 監修	医学書院	2021

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

授業態度、出欠、遅刻などにより態度評価を行う。講義中に小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、図書館、組織標本、顕微鏡、クリッカー、バーチャルスライド、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、シミュレーター

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン MacBookAirMXD43J/A	1	講義資料作成

# 神経精神科学

ナンバリング M4-S1-D23

責任者・コーディネーター	神経精神科学講座 大塚 耕太郎 教授		
担当講座・学科(分野)	神経精神科学講座、睡眠医療学科		
担当教員	大塚 耕太郎 教授、八木 淳子 教授、福本 健太郎 准教授、内出 希 講師、山家 健仁 講師、三條 克巳 講師、三田 俊成 講師、細川 敬輔 特任講師、本多 笑奈 助教、中山 秀紀 非常勤講師、及川 暁 非常勤講師、智田 文徳 非常勤講師、遠藤 仁 非常勤講師、小泉 範高 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

精神医学は人間の精神現象を扱い、生物学、哲学、心理学、経済、歴史など幅広い領域にまたがる学問体系である。正常の精神現象や精神機能、メンタルヘルスについてはもとより、異常な精神現象として精神障害の症候論、病態、診断、治療を理解することが目標となる。加えて、チーム医療や身体科医療チームとのコンサルテーション・リエゾン精神医療についても理解することが求められる。また、精神医学は適切な規範を基盤にする学問であるため、精神医学を学ぶものは倫理観、一般常識を背景とした価値観を持つことや、法律を遵守する精神を理解する必要がある。さらに、地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全など時代のニーズにこたえる精神医学の基本知識について理解することも目標とする。

## ・教育成果(アウトカム)

1. メンタルヘルス問題の基本知識、こころの発達やパーソナリティ、睡眠障害、精神保健福祉法と精神保健、精神医学に携わるものの基本姿勢、コミュニケーション、面接技法、チーム医療、精神科リハビリテーションについて学ぶことで、精神現象の基本的知識、患者の人権への配慮、精神保健福祉法の理念、患者中心の医療、コンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できるようになる。
2. 小児期から老年期までの精神障害について包括的に学ぶことで、それぞれの精神障害の精神機能の障害の原因、症候論、本態、診断、経過、治療、予後を理解し、説明できるようになる。
3. 地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全などを学ぶことで、社会で必要とされる精神保健対策を理解し、説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	こころの発達とパーソナリティの概要とその逸脱、精神医学的症状および心理学的構造を説明できる。
2	診断の補助となる患者の外観と行動・振る舞いの異常を説明できる。
3	意識障害、幻覚妄想、不安抑うつ、不眠などの主要症状をきたす疾患と鑑別診断について説明できる。
4	小児期から老年期までの主要な精神疾患の概念、疫学、主要症状、診断、鑑別診断、治療、予後を説明できる。
5	精神医学的倫理観、人権への配慮、精神保健福祉法や関連の法令、制度について説明できる。

6	精神医学に携わる基本姿勢、コミュニケーション・面接技法、医師－患者関係、薬物療法と精神療法（支持的精神療法、精神分析、行動療法、認知行動療法など）について説明できる。
7	児童・青年期精神医学の主要な問題とケアについて説明できる。
8	脳に関する神経生物学の基礎に関して学び、精神機能や精神疾患における器質・症状因子や不安抑うつ病態生理について説明できる。
9	我が国のメンタルヘルス問題や地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全、コロナ渦のメンタルヘルス対策などの社会で必要とされるメンタルヘルス対策について説明できる。
10	精神科チーム医療やコンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できる。
11	ストレスと心身への影響、精神障害の発症と治療について説明できる。
12	精神科診断学および所見把握法、記録法（精神科カルテ、記載法）、問題解決アプローチについて理解し、説明できる。
13	睡眠障害と精神現象の関連と、その治療について説明できる。
14	デイケアや作業療法などをはじめとした精神科リハビリテーションと背景の制度について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/13(月)	1	神経精神科学講座	福本 健太郎 准教授	精神科症状論	4,5,6,7,9,10,13	【事前学修】 精神科の症状を標準精神医学の教科書を読んで自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義で学んだ幻覚、妄想の概要について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上 【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする
講義	4/13(月)	2	神経精神科学講座	智田 文徳 非常勤講師	神経症性・ストレス関連性障害（F4）	2,3,12	【事前学修】 ICD-10のF4分類の診断名について自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義で学んだストレス反応について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上 【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする

講義	5/1(金)	3	神経精神科学講座	内出 希 講師	反応性精神障害、知的障害・パーソナリティ障害 (F6・7)	3,4,8,13,14	<p>【事前学修】 ICD-10のF6とF7の分類の診断名についてICD-10精神および行動の障害を読んで自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ知的障害について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	5/7(木)	1	神経精神科学講座	遠藤 仁 非常勤講師	災害精神医療・地域精神保健・地域医療・ソーシャルワーク、精神科リハビリテーション2	4,6,9,12,13,14	<p>【事前学修】 精神保健と災害精神医学について、標準精神医学の教科書を読み、自分なりに要点を列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 災害精神医療・DPATの概要やリハビリテーションとして、デイケアや作業療法などについて100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	5/7(木)	2	神経精神科学講座	山家 健仁 講師	気分障害 (F3)	4,13	<p>【事前学修】 気分障害についてICD-10精神および行動の障害のF3の領域を読んで、うつ病エピソード、躁病エピソードを自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだうつ病の診断、治療について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	5/14(木)	1	神経精神科学講座	大塚 耕太郎 教授	統合失調症 (F2) と社会復帰・地域移行・精神科リハビリテーション1	4,8,9	<p>【事前学修】 統合失調症の治療について標準精神医学を領域を読んで、薬物療法、心理社会的治療、電気けいれん療法について確認し、要点を列記する。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ統合失調症の治療について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>

講義	5/14(木)	2	神経精神科学 講座 睡眠医療学科	三條 克巳 講師 細川 敬輔 特任 講師	精神科的薬物療法・ 睡眠障害について	2,3,4,8,1 0,13	【事前学修】 精神科治療学の薬物療法について標準精神医学の教科書を読んで、自分なりに抗精神病薬、抗うつ薬の作用、副作用を列記しておく。睡眠障害の分類や睡眠衛生指導などについて事前に教科書を読んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義で学んだ悪性症候群の診断、治療および睡眠障害について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上 【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする
講義	5/21(木)	1	神経精神科学 講座	小泉 範高 非常 勤講師	メンタルヘルス・医療 安全・産業精神保健	3,4,5,9,1 0,13,14	【事前学修】 標準精神医学の教科書を読んで働く人のメンタルヘルス対策、産業精神保健の項目を列記しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義で学んだ勤労者のメンタルヘルス対策について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上 【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする
講義	5/21(木)	2	神経精神科学 講座	三田 俊成 講師	老年期精神障害（気分 障害・認知症・周辺 症状）（F0）	6,8,10,1 1,12,13	【事前学修】 ICD-10のF0分類の診断名についてICD-10精神および行動の障害を読んで自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義で学んだ認知症の類型について、それぞれ100字程度でまとめること。所要時間 40分以上 【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする

講義	5/28(木)	1	神経精神科学講座	八木 淳子 教授	発達障害・自閉症 (F8)、災害児童精神医学	9,13	<p>【事前学修】 発達障害・自閉症等についてICD-10精神および行動の障害のF8の領域を読んで、診断名を自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ発達障害について、それぞれ100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	5/28(木)	2	神経精神科学講座	本多 笑奈 助教	器質性・症状性精神障害 (F0)、コンサルテーションリエゾン	1,4,13	<p>【事前学修】 器質性・症状性精神障害についてICD-10精神および行動の障害、および標準精神医学の教科書を読んで、自分なりにまとめておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 器質性・症状性精神障害の病因について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	6/11(木)	1	神経精神科学講座	八木 淳子 教授	児童・青年期精神障害(F9)、摂食障害 (F5)、心理発達	1,4,11,12,13	<p>【事前学修】 ICD-10の精神および行動の障害のF9、F5領域を読んで、診断名を列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ摂食障害の治療について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
講義	6/11(木)	2	神経精神科学講座	中山 秀紀 非常勤講師	アルコール症と薬物依存(F1)	1,4,5,8,12,13	<p>【事前学修】 ICD-10のF1分類の診断名についてICD-10精神および行動の障害を読んで自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだアルコール依存症の症状について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>

講義	6/23(火)	5	神経精神科学 講座	及川 暁 非常勤 講師	精神保健福祉法・倫 理・関連法規	1,2,3,4,6	<p>【事前学修】 面接法について標準精神医学の教科書の精神保健福祉法の指定医制度、入院制度、行動制限の関連を読んで自分なりに列記しておく。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ精神保健福祉法による入院制度について100字程度でまとめること。所要時間 40分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料等をアップする</p>
----	---------	---	--------------	----------------	---------------------	-----------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン (新訂版)	World Health Organization 編、融道男 他監訳	医学書院	2005
教科書	標準精神医学 第9版	尾崎 紀夫、三村 将監 修、水野 雅文、村井 俊 哉、明智龍男編集	医学書院	2024
推薦図書	臨床精神医学講座 全38巻	松下正明 総編集	中山書店	1997
推薦図書	講座 精神疾患の臨床全9巻	松下正明監修	中山書店	2020-2024
推薦図書	専門医のための精神科臨床リユミエール全30巻	松下正明総編者	中山書店	2008-2012

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 質問形式を講義内容に挿入し、理解度を確認してから、学生に回答を解説し、基本知識をフィードバックして理解をうながす。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

1. 系統講義（精神障害について系統的に講義する）  
 1) 精神症状総論：知覚障害、思考障害、記憶障害、知能障害、感情障害、意志・欲動障害、意識障害、自我意識障害  
 2) 精神障害各論：器質性・症状性精神障害（F0）、アルコール依存・物質依存（F1）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、ストレス関連障害（F4）、摂食障害（F5）、パーソナリティ障害（F6）、知的障害（F7）、発達障害・自閉症（F8）、児童・青年期精神障害（F9）  
 2. 臨床講義（系統講義で示した精神障害について、診断、治療、社会復帰、予防について講義）  
 1) コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神保健福祉法の概説を行う。  
 2) その他として社会精神医学、治療学、精神保健についても随時補足する。特に精神保健としては重点的に講義し、地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策なども講義する。

3. 教科書・参考書等について注意  
 教科書のうち、ICD-10精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン 新訂版（医学書院）は必ず購入するものとする。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。  
 ○当該科目に関連する実務経験の有無 有  
 全ての担当教員が大学病院や地域の病院・行政機関等における医師の実務経験を有し、実務家教員でもあり、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、参考書、PC、視覚教材など。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン一式 Lenovo	1	講義資料作成
講義	デジタルフルカラー複合機リコー MPC6003	1	講義資料作成
講義	ノートパソコンFMVU90H1B	1	講義資料作成
講義	デスクトップPC Elite Mini 800 G9/CT NEW#14	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン レッツノート	1	講義資料作成
講義	ドキュメントスキャナー	1	講義資料作成
講義	レッツノートSC	1	講義資料作成

# 放射線医学

ナンバリング	M4-S1-D24
--------	-----------

責任者・コーディネーター	放射線医学講座 田中 良一 教授		
担当講座・学科（分野）	放射線医学講座、放射線腫瘍学科		
担当教員	田中 良一 教授、有賀 久哲 教授、加藤 健一 准教授、鈴木 智大 講師、折居 誠 講師、鈴木 美知子 講師、田村 明生 講師、菊池 光洋 講師、小原 牧子 助教、家子 義朗 助教、小原 東也 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

放射線医学は、 1. 物理学、生物学を主体とした基礎放射線学 2. 画像診断学（核医学を含む） 3. 放射線治療を主体とした放射線腫瘍学 4. 画像ガイドによりカテーテルや穿刺針を用いた診断・治療手技であるIVR といった広域な内容を包含する学問である。単一臓器のみを対象とせず全身を網羅するため、臨床各科との関連が非常に深い。
---

## ・教育成果（アウトカム）

放射線診断学、核医学、IVRおよび放射線腫瘍学を学ぶことにより放射線医学を臨床現場で適切に実践できるようになる。また臨床医にとって重要な放射線障害、防護についての知識を身につけることで医療を実施する上で必要となる放射線防護が実践できるようになる。 放射線を用いた診断技術の特性、超音波やMRIなど放射線を用いない診断技術の特性、放射性同位元素を用いた診断や治療手技、放射線腫瘍学の概念について知識を深めることにより、低侵襲で効果的な画像診断法や放射線治療法を適切に選択できるようになる。  (ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )
--

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	画像診断に用いられる各種モダリティの特性について説明できる。
2	画像解剖の基礎的知識を説明できる。
3	胸部・腹部・骨関節など各分野にわたる画像診断の適応、主要な画像所見について説明できる。
4	放射線同位元素（RI）および測定機器に関する基礎的知識について説明できる。
5	種々のシンチグラフィおよびPETの基礎的知識について説明できる。
6	超音波やMRIのような放射線を用いない診断の基礎について説明できる。
7	放射線治療技術の基礎的知識について説明できる。
8	正常組織の障害とそれを回避する方法について説明できる。

9	放射線感受性の高い腫瘍・低い腫瘍について説明できる。
10	悪性腫瘍の治療において、外科治療、化学療法と放射線治療との併用について説明できる。
11	放射線防護の概念について説明できる。
12	IVRの概念および基本的手技について説明できる。
13	放射線の人体への影響に関して説明できる。
14	放射線障害に関して説明できる。
15	放射線照射後の細胞、組織の変化、人体の変化について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/9(木)	3	放射線医学講座	田中 良一 教授	放射線診断の基礎	1,4,5,6	<p>【事前学修】 放射線の分類、特性、各種画像検査法の原理について穴埋め式の事前資料を配布する。該当する項目を教科書を参考に学習すること。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義資料を復習し、要点を理解すること。特に各種画像診断の原理から導かれる医療安全に関連する対策（防護や検査法の選択）について各自まとめること。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/9(木)	4	放射線医学講座	加藤 健一 准教授	腹部画像診断	2,3,6	<p>【事前学修】 肝臓の解剖、門脈圧亢進症、代表的な肝疾患について見直しをしておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 肝臓の画像解剖について整理する。代表的な肝疾患の画像所見について要約出来るようにする。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	4/16(木)	3	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	呼吸器画像診断 画像解剖	2,3	【事前学修】 肺・縦隔の解剖構造を復習しておく。所要時間 37分以上 【事後学修】 胸部単純写真やCTで主要な解剖構造を同定できるようにする。講義で示された要点を整理する。所要時間 37分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/16(木)	4	歯学部口腔顎顔面 再建学講座 歯科放射線学分野	田中 良一 教授	I V R	12	【事前学修】 IVRの定義，代表的なIVR手技（血管系IVR・非血管系IVR）について教科書・参考書を用い学習すること。授業当日にIVRで使用する代表的な機材を提示するので，何に使用される機材であるか回答できるようにしておくこと。所要時間 37分以上 【事後学修】 講義で示された症例を振り返り，IVRの意義および留意点について復習すること。所要時間 37分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/23(木)	3	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	骨・関節・軟部組織の 画像診断	2,3	【事前学修】 骨や関節を構成する主要な解剖を予習しておく。所要時間 37分以上 【事後学修】 講義で示された資料を講義を通じて完成し要点を整理する。所要時間 37分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/23(木)	4	放射線医学講座	小原 牧子 助教	女性骨盤・乳腺の画像 診断	2,3,6	【事前学修】 女性骨盤臓器の主要な解剖、マンモグラフィや超音波検査について予習しておく。所要時間 37分以上 【事後学修】 講義で配布した資料をもとに、手持ちの教科書で要点を確認、整理しておく。所要時間 37分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/30(木)	3	放射線医学講座	折居 誠 講師	心・大血管の画像診断	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な心・大血管疾患（特に、大動脈瘤・大動脈解離）について、放射線科の教科書のみならず、内科学と外科学の教科書も読んで病態や治療法を説明できるようにしておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布した資料を授業中に完成させ、それを講義終了後にもう一度復習し、各疾患の画像診断の要点を理解すること。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/30(木)	4	放射線医学講座	鈴木 美知子 講師	①中枢神経の画像診断（脳腫瘍・脳血管障害以外）／②MRI	1,2,3,6	<p>【事前学修】 脳画像解剖について神経科学や神経学の講義資料などで復習しておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 スライド資料を講義終了後に復習し、各疾患の画像所見の要点を理解すること。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/7(木)	3	放射線医学講座	小原 東也 非常勤講師	核医学	1,4,5	<p>【事前学修】 核医学の基本原理とその臨床応用について教科書で予習する。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 核医学検査および治療の原理と意義について理解する。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/7(木)	4	放射線医学講座	田村 明生 講師	救急放射線診断	1,2,3	<p>【事前学修】 放射線画像診断に用いられる各撮影機器の理解、画像解剖の予習を行うこと。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布した資料を授業中に完成させ、それを講義終了後にもう一度復習し、各疾患の画像診断の要点を理解すること。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/14(木)	3	放射線腫瘍学科	家子 義朗 助教	放射線治療の物理学的基礎	7	<p>【事前学修】 医療で使われている放射線の種類と放射線被ばくの物理的な機序について放射線科の教科書から予習しておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義資料から放射線治療の物理機序を理解し、放射線治療機器の発展と照射技術の要点についてまとめること。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	5/14(木)	4	放射線腫瘍学科	有賀 久哲 教授	放射線防護の概念と実践	8,11,14	<p>【事前学修】 放射線防護の概念（放射線防護の3原則など）を教科書（「やさしくわかる放射線治療学3章4等）を読んで予習する。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布した資料をもとに要点をまとめて復習する。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>
講義	5/21(木)	3	放射線腫瘍学科	有賀 久哲 教授	①放射線治療の生物学的基礎／②放射線腫瘍学総論	7,8,9,10,13,14,15	<p>【事前学修】 放射線生物学、放射線治療の考え方を教科書（「やさしくわかる放射線治療学」第3章,第5章等）を読んでまとめ、疑問点を列挙しておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ放射線治療の考え方を、講義資料、教科書をもとに確認する。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>
講義	5/21(木)	4	放射線腫瘍学科	菊池 光洋 講師	放射線腫瘍学各論	7,8,9,10	<p>【事前学修】 放射線治療の実際を教科書（「やさしくわかる放射線治療学」第2章等）を読んで把握し、疑問点を列挙しておく。所要時間 37分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布した資料をもとに要点をまとめて復習する。所要時間 37分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	画像診断コンパクトナビ 4版	百島祐貴	医学教育出版社	2021
参考書	IVRのすべて	吉川公彦、荒井保明編	メジカルビュー社	2021

参考書	やさしくわかる放射線治療学（第2版）	日本放射線腫瘍学会	学研メディカル秀潤社	2024
参考書	放射線治療計画ガイドライン2020年版	日本放射線腫瘍学会	<a href="https://www.jastro.or.jp/membership/guideline/jastro/2020.html">https://www.jastro.or.jp/membership/guideline/jastro/2020.html</a>	2020

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。								
【形成的評価】 講義中に小テストや口頭試問を実施して講義内容の理解度を確認する場合がある。その結果は適宜フィードバックするが、理解度に欠けると判断された場合には再提出や新たな課題を課すこともある。講義を欠席した学生にはレポートの提出を求める場合があるが、この際も理解度に欠けると判断された場合には再提出や新たな課題へのとり組みを課すことがある。								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

画像診断	8回
核医学	1回
放射線腫瘍学	3回
IVR	1回
放射線障害防護	1回

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、参考書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。特に、復習は大切であるので最低30分は時間を確保すること。本内容は全授業に対して該当する。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設ける場合がある。講義の中で試験やレポートを課す場合は講義の終わり、もしくは次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。  
当該科目に関連する実務経験の有無 有  
大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。  
各回の事前事後学修時間以外に1時間の参考書等を用いた自己学習を要す。

・教育資源

読影室・撮影室・治療室に設置されている教科書・参考書、読影システムに組み込まれている学習症例、PC、インターネット環境、画像および数値データ処理用コンピューターソフトウェア、3次元画像処理装置（ワークステーション）
---

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デジタルX線装置	1	デジタルX線撮影の原理
講義	X線CT装置	3	ヘリカルCTの画像表示法の理解(80列、320列マルチスライスCT)
講義	MR装置	2	全身MRIの見学
講義	血管造影装置	2	血管造影X線管、イメージングテンシオグラフィ、連続撮影、DSA装置など機器の機能と造影実践の理解
講義	シンチレーションカメラ	3	シンチカメラ、SPECTの原理と実技の理解
講義	放射線治療計画装置	1	線量分布図作製実習
講義	ライナック装置	1	高エネルギーX線、同電子線治療の見学
講義	高線量率腔内照射装置	1	高線量率腔内照射の見学
講義	超音波診断装置	1	腹部超音波診断の原理と撮像実習
講義	人体骨格模型	1	X線解剖と撮影体位の解説
講義	肺区域模型	1	肺区域の解剖と肺病変の部位診断の解説

講義	EIZO29.8TFT液晶ディスプレイ	1	講義資料作成
講義	ワークステーション一式	1	講義資料作成
講義	スキャナ	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン Let's note LX6 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン VAIO Z クラムシェルモデル 一式	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン Surface Studio 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン Let's note SZ6 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン Let's note LX6 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン MacBook Pro 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン Elite x2 1012 一式	1	講義資料作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Pro 一式	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン VAIO VJS1121	1	講義に使用
講義	デスクトップパソコン iMac Pro Retina 5K 27インチ	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン Pavilion All-in-One 一式	1	講義資料作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Pro6 一式	1	講義資料作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Pro6 一式	1	講義資料作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Pro6 一式	1	講義資料作成
講義	タブレット兼デスクトップパソコン Surface Studio 2 一式	1	講義資料作成
講義	デジタルフルカラー複合機	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン MacBook Air 一式	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン FMVF90H2B 一式	1	講義資料作成

# 麻酔学

ナンバリング M4-S1-D25

責任者・コーディネーター		麻酔学講座 熊谷 基 特任教授	
担当講座・学科(分野)		医学教育学分野、麻酔学講座	
担当教員		熊谷 基 特任教授、大畑 光彦 准教授、相澤 純 特任講師、脇本 将寛 講師	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

麻酔学は単に患者を手術侵襲から防御する知識を身につけるのみの学問ではない。患者の呼吸・循環・代謝管理等の全身管理について学び、これを全医学領域に応用できる力を養う領域である。  
 そのために「患者を手術侵襲から防御するための薬剤」や「技術」についてまず学習し、更に「呼吸・循環・代謝管理の状態を把握する方法」や「把握した結果を評価する方法」、そして「その評価をもとに適切に対応する方法」などについて学習することを目的とする。

## ・教育成果(アウトカム)

- 1) 麻酔の意義および周術期管理について学習することで、周術期の患者評価・患者管理法について説明できるようになる。
- 2) 各種麻酔法を学ぶとともに各科の麻酔法について学ぶことで、それぞれの特殊性について説明できるようになる。
- 3) 疼痛管理法の種類、神経ブロック手技について学ぶことで、それぞれの適応と合併症について説明できるようになる。
- 4) 麻酔について学んだ知識や技術を応用することで、他の医学領域での患者管理について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 2,3,4,5,6)

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	全身麻酔の三要素について説明できる。
2	周術期に起こり得る合併症について説明できる。
3	各種麻酔法、それぞれの適応と禁忌について説明できる。
4	麻酔で用いる機器の使用目的、原理、使用方法について説明できる。
5	麻酔で用いる各種薬剤の特徴、および使い分けについて説明できる。
6	各科および特殊疾患の麻酔法について説明できる。
7	疼痛発生機序とその治療法について説明できる。

## ・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/9(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	麻酔の意義 術前患者管理法	1,2,7	<p>【事前学修】 事前学習用動画を視聴し、動画内で示された課題について学習する。所要時間60分程度を想定。</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassを用いて事前学習用動画を供覧する。WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
講義	4/9(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	術中患者管理法	2,5,7	<p>【事前学修】 事前学習用動画を視聴し、動画内で示された課題について学習する。所要時間60分程度を想定。</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassを用いて事前学習用動画を供覧する。WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
講義	4/16(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	静脈麻酔・筋弛緩薬	2,3,4,5	<p>【事前学修】 事前学習用動画を視聴し、動画内で示された課題について学習する。所要時間60分程度を想定。</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassを用いて事前学習用動画を供覧する。WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>

講義	4/16(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	吸入麻酔・麻酔器	2,3,4,5	<p>【事前学修】 事前学習用動画を視聴し、動画内で示された課題について学習する。所要時間60分程度を想定。</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。 所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassを用いて事前学習用動画を供覧する。WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
講義	4/23(木)	1	麻酔学講座	脇本 将寛 講師	心臓血管外科手術の麻酔 小児麻酔	2,3,5,6	<p>【事前学修】 講義内容について手持ちの教科書を読んで概要を把握しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
講義	4/23(木)	2	麻酔学講座	熊谷 基 特任教授	産科麻酔脳外科手術の麻酔	2,3,5,6	<p>【事前学修】 講義内容について手持ちの教科書を読んで概要を把握しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
講義	4/30(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	救急患者の麻酔	2,3,5,6	<p>【事前学修】 事前学習用動画を視聴し、動画内で示された課題について学習する。所要時間60分程度を想定。</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassを用いて事前学習用動画を供覧する。WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>

講義	4/30(木)	2	麻酔学講座	大畑 光彦 准教授	局所麻酔 ペインクリニック	2,3,5,6,7	<p>【事前学修】 講義内容について手持ちの教科書を読んで概要を把握しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 自己学習で理解できなかった部分や教員が強調していた部分について再度理解を深める。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassを用いて、講義資料を配布する。</p>
----	---------	---	-------	-----------	------------------	-----------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	若い医師のための麻酔科学 3訂版	横山武志、飯島毅彦 著	ベクトル・コア	2014
参考書	透視下神経ブロック法	大瀬戸清茂 編	医学書院	2009
推薦図書	ICUブック 第4版	Paul L. Marino著	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015
推薦図書	標準麻酔科学第7版	古家仁、稲田英一、他	医学書院	2018
推薦図書	麻酔科レジデントマニュアル第4版	西山美鈴 著	一粒書房	2021
推薦図書	人工呼吸器ハンドブック2014	丸川征四郎、福山学 著	医学図書出版	2014

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 必要に応じて小テストにて講義の理解度を評価する。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～7	2～6				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>総論：麻酔の意義、術前・術中患者管理、全身麻酔法（麻酔器・吸入麻酔薬・筋弛緩薬・静脈麻酔薬）、局所麻酔法 各論：心臓血管外科手術の麻酔、脳外科手術の麻酔、産科麻酔、小児麻酔、救急患者の麻酔、集中治療、ペインクリニック</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信するが、講師によって紙媒体にて配布する場合もある（アクティブハンドアウトなど）。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に各回2時間20分の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
---

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PCまたはタブレット、インターネット環境
----------------------------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	3	講義用スライド作成、試験問題作成
講義	パソコン (Think pad)	1	講義
講義	ノートパソコン (MacBookPro)	1	講義用スライド作成
講義	硬膜外麻酔シミュレータ (MW3)	1	講義
講義	ノートパソコン (Surface Pro3)	1	講義
講義	シュレッダー 18CI-R フェローズ	1	守秘義務に関わる書類等を廃棄
講義	複合機 IM C4510F	1	講義用スライド作成
講義	複合機 IM C2510	1	講義用スライド作成

# 救急医学

ナンバリング M4-S1-D26

責任者・コーディネーター	救急医学分野 眞瀬 智彦 教授		
担当講座・学科（分野）	救急・災害医学講座、岩手県高度救命救急センター		
担当教員	高橋 学 教授、藤田 友嗣 講師、三崎 俊斉 講師、小鹿 雅博 講師、筒井 章太 助教、森野 豪太 助教、柴田 繁啓 非常勤講師、鈴木 利央登 非常勤講師、小野寺 誠 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 9コマ 18.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

生命を脅かす傷病は突然人々を襲う。外傷や中毒、心筋梗塞や脳卒中などは短時間のうちに人の命を奪っていく。このような重症度の高い傷病者に対して、刻々と変化する病態に対応して速やかに適切な診断、そして処置を行う能力を学習しなければならない。さらに、応急処置にのみとらわれず科学的根拠に基づいた治療を目的とし、必要な知識と思考力を養うことが重要である。

## ・教育成果（アウトカム）

医療人としての全人的人間性を持って、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る謙虚な態度を持ちながら、医師国家試験出題基準に定められた救急医学の知識・技能・態度を学修することによって、緊急性の高い患者に対する迅速な診療について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	発熱、頭痛、腹痛などの一般的な症状、ショック、意識障害、呼吸困難などの重篤な症状を通して症候論的に思考し、的確な鑑別診断について説明できる。
2	緊急度の高い重症患者では、緊急処置が診断と同時進行か、時には診断に先行する判断について説明できる。
3	気管内挿管、除細動、輸液、中心静脈路確保、胸腔ドレナージなどの処置方法や、緊急薬品使用方法などについて説明できる。
4	各種診断書の書き方、感染症新法、食品衛生法、麻薬取締法、各種届出義務など救急医療関連法規について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/3(金)	3	救急・災害医学講座	高橋 学 教授	救急医学概論	1,2,4	<p>【事前学修】 救急医学とはどういうものか、救急医学が扱う病態、トリアージの1つであるスタート式トリアージがどういうものかを標準救急医学の教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ救急医学の特徴とトリアージの実際をそれぞれ100字程度でまとめること。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/6(月)	5	救急・災害医学講座	藤田 友嗣 講師	急性中毒	1,2	<p>【事前学修】 急性中毒における初期診療の基本原則ならびに、有機リン系農薬、一酸化炭素、三環系抗うつ薬、アセトアミノフェン、パラコートおよびメタノールによる代表的な薬毒物中毒の病態と治療方針について予習し、講義内容の理解に備えること。（所要時間：60分以上）</p> <p>【事後学修】 講義内容を復習し、代表的な急性中毒の病態および治療方針ならびに、薬毒物中毒における基本的な初期対応の考え方について理解を深めること。（所要時間：60分以上）</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	4/10(金)	4	岩手県高度救命救急センター	三崎 俊斉 講師	頭部外傷	1,2,4	<p>【事前学修】 国家試験出題範囲の頭部外傷疾患を教科書を読んで自分なりに説明文を作成すること。所要時間 1時間程度。</p> <p>【事後学修】 疾患を頭蓋骨損傷、局所性損傷、びまん性損傷に分類し、それぞれ説明することができるようになること。所要時間 1時間程度。</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/17(金)	3	救急・災害医学講座	柴田 繁啓 非常勤講師	ショック（総論）、環境異常（熱中症・低体温症）	1,2	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当項目（ショックp145-152、熱中症・低体温症p452-457）について事前に熟読しておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義や教科書の内容を理解して、ショック、環境異常（熱中症・低体温症）の病態や適切な治療について説明できるようになる。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/17(金)	4	岩手県高度救命救急センター	小鹿 雅博 講師	急性腹症、腹部外傷、胸部外傷、多発外傷、ショック	1,2	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当項目を事前に熟読すること。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義内容をまとめ、各症例について適格に説明できるように解釈すること。過去の国家試験問題にも取り組み、どこが重要なかを講義終了後に自分で確認すること。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/24(金)	3	救急・災害医学講座	森野 豪太 助教	広範囲熱傷	1,2,3	<p>【事前学修】 広範囲熱傷に関して標準救急医学第5版を読んで事前学習する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義及び教科書の内容を理解して、熱傷深度・熱傷範囲・気道熱傷・初期輸液へモグロビン尿に関して説明できるようになる。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	4/24(金)	4	救急・災害医学講座	鈴木 利央登 非常勤講師	呼吸不全・溺水、誤嚥	1,2,3	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当箇所について事前に読み込み理解しておくこと。 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 正しく定義や診断基準を把握し、各症例にどこがポイントとなる症状、病態、検査データーであるか説明できるようにすること。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	4/30(木)	5	救急・災害医学講座	小野寺 誠 非常勤講師	吐血・下血、異物誤飲	1,2,3	<p>【事前学修】 消化性潰瘍や消化管静脈瘤をはじめとする、消化管出血をきたしうる疾患についての基本事項を復習しておく。 所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 消化管出血症例に対する初期対応について説明でき、代表的な止血法を挙げられる。消化管異物に対する除去の適応について説明できる。 所要時間60分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	5/28(木)	3	岩手県高度救命救急センター	筒井 章太 助教	意識障害・痙攣	1,2,3	<p>【事前学修】 意識障害と痙攣について標準救急医学第5版p1577-164を事前学習する。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義及び教科書の表を理解し、意識障害と痙攣のメカニズムと評価法、および、その原因について説明できるようにすること。所要時間60分以上 【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	標準救急医学 5版	有賀 徹 編	医学書院	2014

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～4	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

1. 総論的領域

- (1) 救急医学概論：救急医療体制、搬送、情報、災害救急、救急関連法律など
- (2) 救急医療総論：鑑別診断、検査・処置、心肺蘇生、緊急薬品、呼吸・循環管理、体液管理、多臓器不全、DIC、SIRS

2. 症状を中心とした領域

- (1) 侵襲と生体反応・ショック
- (2) 意識障害・痙攣
- (3) 呼吸困難
- (4) 心臓発作・不整脈
- (5) 腹痛
- (6) 吐・下血
- (7) 多発外傷
- (8) 熱傷
- (9) 中毒
- (10) 自然環境障害（熱中症、減圧症、低体温など）
- (11) 異物誤飲・誤嚥
- (12) 小児科救急（小児科） ＊時間的制約で消化できない分野は第5学年の臨床実習の小講義で補足する。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に7.5時間の自己学修を要す。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。

・教育資源

参考書として「標準救急医学」（有賀 徹編：医学書院）を準拠する。講義にはPCによる、バーチャルスライドを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

# 臨床遺伝学

ナンバリング M4-S1-D27

責任者・コーディネーター	臨床遺伝学科 鈴森 伸宏 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床遺伝学科		
担当教員	鈴森 伸宏 教授、福島 明宗 客員教授、山本 佳世 乃 特任准教授、吉田 明子 特任講師、勝部 暢介 助教、三浦 史晴 非常勤講師、金杉 知宣 非常勤講師、小林 有美子 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

遺伝学的知識は基礎・臨床両医学の分野において必須である。遺伝学の基礎と臨床に関して十分な素養を備えた医師になることを目標とする。

## ・教育成果(アウトカム)

医師として必要な遺伝医学の知識を習得することで、臨床における遺伝、遺伝カウンセリングなどを説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,4,5,6)

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	臨床遺伝学の位置づけを説明できる。
2	遺伝カウンセリングの概要を説明できる。
3	染色体異常による疾患の中で代表的なものを挙げ説明できる。
4	減数分裂、配偶子形成の男女間の違いを説明できる。
5	常染色体顕性(優性)遺伝疾患の遺伝の仕組みと発症機序を説明できる。
6	常染色体顕性(優性)遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
7	X連鎖遺伝疾患の遺伝の仕組みを説明できる。
8	X連鎖遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
9	ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ説明できる。
10	常染色体劣性(潜性)遺伝疾患の遺伝の仕組みと発症機序を説明できる。
11	常染色体劣性(潜性)遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
12	民族による疾患頻度の違いが存在することを説明できる。
13	家系図の作成について説明できる。
14	Bayes(ベイズ)の定理の基本を説明できる。
15	家系構成員におけ遺伝的リスクを評価し説明できる。
16	エピゲノムの概念・機序を説明できる。
17	エピゲノムに関連する疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
18	がん診療を遺伝子の視点から説明できる。
19	遺伝性腫瘍の特徴とその診療について説明できる。
20	ゲノムの多様性が個体の多様性に結びついていることを説明できる。
21	ヒトゲノムの多様性がもたらす各種バリエーションについて説明できる。
22	多因子形質(疾患)における遺伝要因と環境要因の関係について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/2(火)	1	臨床遺伝学科	鈴木 伸宏 教授	臨床遺伝学：臨床遺伝学とは？遺伝カウンセリングとは？常染色体潜性（劣性）遺伝	1,2,10,11	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	2	臨床遺伝学科	山本 佳世乃 特任准教授	臨床遺伝学：X連鎖遺伝、遺伝的リスクの推定	7,8,14,15	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/4(木)	5	臨床遺伝学科	三浦 史晴 非常勤講師	臨床遺伝学：がん	18,19	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/9(火)	1	臨床遺伝学科	小林 有美子 非常勤講師	臨床遺伝学：ミトコンドリア遺伝	9	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/9(火)	2	臨床遺伝学科	吉田 明子 特任 講師	臨床遺伝学：DNAレ ベルの個体差、家系 図の書き方	12,13,2 0,21,22	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/16(火)	1	臨床遺伝学科	勝部 暢介 助教	臨床遺伝学：エピ ジェネティクス	16,17	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/17(水)	3	臨床遺伝学科	福島 明宗 客員 教授	染色体異常	3,4	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/18(木)	4	臨床遺伝学科	金杉 知宣 非常 勤講師	臨床遺伝学：常染色 体顕性（優性）遺伝	5,6	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	コアカリ準拠 臨床遺伝学テキスト ノート改訂第2版	日本人類遺伝学会	診断と治療 社	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～22	1,2,4,5,6				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン一式	1	講義
講義	A3複合機	1	講義資料の作成
講義	ノートパソコン MacBook Pro15 一式	1	臨床遺伝学講義
講義	ノートパソコン Let's note RZ 一式	1	臨床遺伝学講義
講義	EPSON プロジェクター	1	臨床遺伝学補講用
講義	デスクトップパソコン 24インチ ブルーiMac 4.5K Retina ディスプレイモデル	1	講義資料の作成
講義	OKI A3複合機	1	講義資料の作成
講義	オートフィードシュレッダー	1	講義資料の作成
講義	ノートパソコン Surface Laptop G03 XKQ00005	1	講義資料の作成

# 臨床腫瘍学

ナンバリング	M4-S1-D28
--------	-----------

責任者・コーディネーター	臨床腫瘍学講座 板持 広明 教授		
担当講座・学科（分野）	臨床腫瘍学講座、緩和医療学科		
担当教員	板持 広明 教授、木村 祐輔 教授、高橋 都 客員教授、岩谷 岳 特任教授、遠藤 史隆 講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床腫瘍学では、がんの生物学的特性・病態・薬物療法・緩和医療学を修得し、がんの標準的な治療体系を理解し、全人的医療やチーム医療の必要性を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

腫瘍の生物学的特徴や症候、診断法や治療法の原理を理解し、全人的医療や多職種連携の重要性を理解することによって、有効かつ安全ながん医療を実施する方法について説明できる。  
(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	がんの生物学的特徴・がんのゲノム医療について説明できる。
2	がん治療の理論・臨床試験の種類と意義を説明できる。
3	代表的な化学療法薬について、種類、作用機序、適応となる代表的疾患、薬物投与方法、副作用を説明できる。
4	がん薬物療法の支持療法について概説できる。
5	がん薬物療法の効果と毒性の評価について概説できる。
6	緩和医療を定義を説明できる。
7	がん性疼痛の種類と病態について説明できる。
8	WHO方式がん疼痛治療法を説明できる。
9	鎮痛薬の種類・投与方法・代表的な副作用とその対策を説明できる。
10	がん終末期の消化器症状、呼吸器症状について病態と治療法を説明できる。
11	死にゆく過程でみられる身体の兆候を説明できる。
12	患者・家族に対する悪い知らせを伝える際の要点を説明できる。
13	緩和ケアにおける多職種連携の重要性を説明できる。
14	がんの緊急症・腫瘍随伴症候群の病態や治療を説明できる。
15	がん診断と治療が患者や家族の長期的な社会生活に及ぼす影響と対応のあり方を説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/8(月)	2	臨床腫瘍学講座	岩谷 岳 特任教授	臨床腫瘍学総論・ゲノム医療	1,2	【事前学修】 がんの特徴や原因についてまとめておく。所要時間 60分以上 【事後学修】 がん細胞の特徴について100字程度でまとめること。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/10(水)	1	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	がん薬物療法1	2,3	【事前学修】 抗がん剤の種類についてまとめておく。所要時間 60分以上 【事後学修】 化学療法の適応と限界について100字程度でまとめる。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/10(水)	2	緩和医療学科	木村 祐輔 教授	緩和ケア1	6,7,8	【事前学修】 第3学年の講義を元に緩和ケアの概念をまとめておく。所要時間 60分以上 【事後学修】 緩和ケアの概念を自らの言葉で100字程度でまとめる。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/15(月)	1	緩和医療学科	木村 祐輔 教授	緩和ケア2	9,10,11	【事前学修】 WHOがん疼痛治療法をまとめておく。所要時間 60分以上 【事後学修】 死にゆく過程で見られる代表的な身体兆候を100字程度でまとめる。所要時間 180分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/15(月)	2	緩和医療学科	木村 祐輔 教授	緩和ケア3	12,13,15	<p>【事前学修】 緩和ケアにおける多職種連携のあり方をまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 患者・家族に対する悪い知らせ（がん告知、予命告知など）を伝える際の要点を100字でまとめる。所要時間 180分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/17(水)	1	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	がん薬物療法2	3,4,5	<p>【事前学修】 分子標的治療と免疫療法の特徴をまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 免疫チェックポイント阻害薬の作用機序について100字でまとめる。所要時間 180分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/17(水)	2	臨床腫瘍学講座	遠藤 史隆 講師	がん薬物療法3・がんの緊急症と腫瘍随伴症候群	4,14	<p>【事前学修】 抗がん剤の副作用についてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 がん緊急症の種類とその治療法について100字程度でまとめること。所要時間 180分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/22(月)	5	医学部	高橋 都 客員教授	がんサバイバーシップ	15	<p>【事前学修】 がん診断後に、患者本人や家族が直面する可能性がある社会的困難についてまとめておく。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 がん患者や家族が直面する社会的困難について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	入門腫瘍内科学 改訂第4版	日本臨床腫瘍学会監修	篠原出版新社	2025
参考書	新臨床腫瘍学 第7版	日本臨床腫瘍学会編	南江堂	2024
参考書	がん診療レジデントマニュアル 第10版	国立がん研究センター 内科レジデント	医学書院	2025
参考書	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを 考える会編	青海社	2013

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC
----------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン レッツノートSV2 一式	1	講義資料作成
講義	MacBookPro 14インチ スペースグレイ	1	講義資料作成
講義	HP Pro SFF 400 G9/CT NEW#14スタンダード	1	講義資料作成
講義	MacBook Air	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン	1	講義資料作成
講義	カスタマイズパソコン マウスコンピューター	1	講義資料作成

# 臨床病理学

ナンバリング M4-S1-D29

責任者・コーディネーター		病理診断学講座 柳川 直樹 教授	
担当講座・学科(分野)		病理診断学講座、創薬・医療機器開発部門	
担当教員		柳川 直樹 教授、刑部 光正 准教授、杉本 亮 講師、阿保 亜紀子 講師、西谷 匡央 非常勤講師	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 9コマ 18.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

基本理念：日常診療における病理診断は単なる形態診断ではなく、臨床的事項、検査所見および肉眼所見の適切な理解の上に成り立っており、これらの情報を総合して診断が行われている。加えて近年では分子生物学的な補助診断も不可欠であり、それらに関する知識も必要となってきた。各臓器における代表的疾患の臨床病理学的な診断を学習するだけでなく、診断に至るアプローチの仕方を学び、実際の診療における病理診断の臨床的重要性を理解する。

## ・教育成果（アウトカム）

病理診断学に必要な知識を習得し病理診断に必要な各種補助診断の有用性を学ぶとともに、各臓器における代表的疾患の病理診断を含めた診断へのアプローチの仕方を学ぶことで、実際の診療における病理診断の臨床的重要性について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	代表的疾患の肉眼像の臨床病理学的意義を説明できる。
2	代表的疾患の組織像の臨床病理学的意義を説明できる。
3	代表的疾患の鑑別診断について述べるができる。
4	代表的疾患の細胞像を説明できる。
5	病理診断学の補助診断について説明できる：代表的疾患における代表的な特殊染色の応用例を述べるができる。
6	病理診断学の補助診断について説明できる：免疫染色の原理を説明できる。
7	病理診断学の補助診断について説明できる：免疫染色の代表的疾患における応用例を述べるができる。
8	病理診断学の補助診断について説明できる：電子顕微鏡の代表的疾患における応用例を述べるができる。
9	病理診断学の補助診断について説明できる：代表的な遺伝子解析技術の原理と病理診断に関する応用例を述べるができる (PCR、PCR-SSCP、直接シーケン
10	病理診断学の補助診断について説明できる：代表的な細胞遺伝学の解析手法の原理と病理診断に関する応用例を述べるができる (FISH法、CGH法など)。
11	代表的疾患について、病理診断のアプローチの仕方を説明できる。
12	生検診断に基づいた治療法の選択について述べるができる。
13	生検の適応と禁忌を述べるができる。
14	術中迅速診断の適応と意義を理解し、凍結標本の作製方法と特徴について述べるができる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラハスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/29(金)	2	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	診断病理学-呼吸器	1,2,3,4,5,6,7,9,11,12,13,14	<p>【事前学修】 肺の解剖、肺癌の組織型分類に基づく臨床病理学的特徴および鑑別についてRobbins Basic Pathology、標準病理学などを参考として、ノートをまとめておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ呼吸器腫瘍について、細胞像、組織像の特徴、診断プロセスおよび治療の選択などについてまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/4(木)	1	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	診断病理学-乳腺	1,2,3,4,5,6,7,10,11,12,13,14	<p>【事前学修】 乳腺の解剖、代表的な乳腺腫瘍の臨床病理学的特徴をRobbins Basic Pathology、標準病理学を参考としてノートをまとめておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ乳腺腫瘍について、臨床病理学的特徴、診断プロセスおよび治療の選択などについてまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/4(木)	2	病理診断学講座	西谷 匡央 非常勤講師	診断病理学-肝臓	1,2,3,4,5,11,12,13	<p>【事前学修】 講義で扱うシナリオに目を通し、設問を解く。肝臓の機能と構造（肉眼、組織像）、肝生検の適応、急性炎症と慢性炎症の違い（特に肝臓において）について、教科書や事前配布資料などを参考にノートをまとめる。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肝疾患について、疫学や病因、診断に至るまでの過程や治療などをまとめ、病理学的所見と紐付けるたまとめを作ること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	6/12(金)	1	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	診断病理学-胆道・膵臓	1,2,3,4,5 .6,7,8,11 .12,13	<p>【事前学修】 胆膵領域の解剖、正常の肉眼・組織像、胆道・膵腫瘍の分類、胆汁の流れと閉塞性黄疸の病態、膵臓の機能について、Robbins Basic Pathology、標準病理学などの教科書や参考書を読んでも、自分なりにまとめたノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胆膵領域の疾患について臨床像、病理像を整理しまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/12(金)	2	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	診断病理学-造血器腫瘍	1,2,3,4,5 .6,7,9,10 .11,12,13	<p>【事前学修】 骨髄の組織像についてまとめるとともに貧血の鑑別診断をもとに特徴的な骨髄の組織像についてまとめてみる。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ白血病関連の診断、遺伝子異常のポイントについてまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/19(金)	1	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	診断病理学-婦人科	1,2,3,4,5 .6,7,8,9, 10,11,12 .13,14	<p>【事前学修】 女性骨盤臓器の解剖、女性の発達と性周期、正常の肉眼・組織像、子宮体部・頸部・卵巣腫瘍の分類、婦人科診察法、婦人科疾患の手術適応と術式について、Robbins Basic Pathology、標準病理学、産婦人科学分野の講義資料などの教科書や参考書、資料を読んで、自分なりにまとめたノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ婦人科疾患について、疫学、症候、病因、診断プロセスなどをまとめ、病理学的所見と紐付けるまとめを作ること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	6/19(金)	2	病理診断学講座	杉本 亮 講師	診断病理学-消化管	1,2,3,4,5 6,7,11,12,13,14	<p>【事前学修】 消化管の解剖、食道・胃・大腸腫瘍の分類やおのおの特徴をRobbins Basic Pathology、標準病理学などを参考として、自分なりにノートをとめておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ消化管疾患について、それぞれの臨床病理学的事項をまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/24(水)	1	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	診断病理学-腎炎	1,2,3,4,5 6,7,8,11,12,13	<p>【事前学修】 泌尿器領域の解剖、正常組織像、腫瘍性病変に関して、講義資料・教科書を使い、自分なりに説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ泌尿器腫瘍について、臨床所見も含めて100字以上でまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/24(水)	2	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	診断病理学-泌尿器領域の腫瘍	1,2,3,4,5 6,7,11,12,13	<p>【事前学修】 泌尿器領域の腫瘍性・非腫瘍性病変に関して、講義資料・教科書を使い、自分なりに説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ泌尿器疾患について、臨床所見も含めてまとめること(字数は不問とする)。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	外科病理学 5版	深山正久 他	文光堂	2020
推薦図書	ロビンス基礎病理学 原書11版	V. Kumar, 他	丸善出版	2025
推薦図書	Robbins Basic Pathology, 11 (Robbins Pathology)	V. Kumar, et al	Elsevier	2022
推薦図書	標準病理学 第7版	北川昌伸	医学書院	2023
推薦図書	解明病理学 第4版	青笹 克之	医歯薬出版	2021

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

4. 診断病理学各論

- 4-1. 消化管生検（腹水細胞診も含む）：胃癌、大腸癌および腺腫、GIST、胃MALTリンパ腫、炎症性腸疾患等
- 4-2. 胆道・膵生検（腹水細胞診も含む）：胆道癌、膵癌、膵嚢胞性疾患、膵腫瘤形成疾患の鑑別診断
- 4-3. 肝生検：肝炎（急性、慢性）、肝臓の線維化と肝硬変、肝細胞癌等
- 4-4. 肺・縦隔生検（胸水細胞診も含む）：肺癌、間質性肺炎、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍等
- 4-5. 関節生検：慢性関節リウマチを含む関節炎、色素絨毛結節性滑膜炎、腫瘍性疾患等
- 4-6. 婦人科生検（腹水細胞診も含む）：子宮頸癌、内膜癌、内膜増殖症、卵巣腫瘍、絨毛性疾患等
- 4-7. 泌尿器科生検（尿細胞診も含む）：膀胱癌（尿路癌）、腎癌、前立腺癌等
- 4-8. 中枢神経生検：神経膠腫瘍、髄膜腫等
- 4-9. 腎生検：原発性および続発性糸球体疾患、間質性腎炎等
- 4-10. リンパ節、骨髄生検：悪性リンパ腫、肉芽腫形成性疾患、白血病、癌の骨髄転移等
- 4-11. 乳腺・内分泌生検（細胞診も含む）：乳腺症、乳腺腫瘍、甲状腺腫瘍、副腎腫瘍、副甲状腺疾患、下垂体腺腫等

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低60分以上とする。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有  
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、バーチャルスライド、PC、インターネット環境、コンピューターソフト

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	外付けHDD	1	講義資料用データ保存
講義	ノートパソコン	1	講義プレゼンテーション
講義	ノートパソコン (ZOQC)	1	講義資料用作成・講義用
講義	デスクトップパソコン Mate MB 一式	1	講義資料用作成のため
講義	顕微鏡 デジタルカメラ DS-Fi3 一式	1	講義資料用作成のため
講義	複合機 imageRUNNER ADVANCE DX C3826F 一式	1	講義資料用作成のため
講義	ノートパソコン LAVIE PC-N1585AAL 一式	1	講義資料用作成のため

# 災害医学

ナンバリング M4-S1-D14

責任者・コーディネーター		災害医学分野 眞瀬 智彦 教授	
担当講座・学科（分野）		救急・災害医学講座、法歯学・災害口腔医学分野	
担当教員		眞瀬 智彦 教授、熊谷 章子 特任教授、藤原 弘之 助教、富永 綾 助教、金子 拓 助教	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 4コマ 8.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 5コマ 10.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

災害医学とは、災害によって生じる健康問題の予防と迅速な救援・復興を目的として行われる応用科学で、救急外科、感染症学、小児科、疫学、栄養、公衆衛生、社会医学、地域保健、国際保健など様々な分野や、総合的な災害管理にかかわる分野が包含される医学分野である。講義・実習を通して災害時の医療活動に貢献できるよう理解を深める。

## ・教育成果（アウトカム）

災害医療の原則、概念、そして過去の災害時の医療活動を学ぶことで、医師として災害時に適切な活動ができるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,3,4,6,7,8 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	危機管理全般について説明できる。
2	災害医療の原則を説明できる。
3	CSCATTTについて説明できる。
4	災害時の情報の重要性について説明できる。
5	災害時の医療体制について説明できる。
6	過去の災害時の医療活動について説明できる。
7	災害時に発生する特徴的な疾患について説明できる。
8	トリアージの方法を理解し、実施できる。
9	トリアージタグの記載方法を理解し、適切に記入できる。
10	災害時における情報の重要性を理解し、通信手段を習得する。
11	災害時の通信手段を適切に選択できる。
12	収集した情報を分析し、災害の全体像を把握できる。
13	分析した情報から、その時点での適切な支援を考えることができる。
14	被災した医療機関における受援を理解し、適切に対応をすることができる。
15	災害時における関係機関の役割を理解し、現場での医療活動を説明できる。
16	災害時における避難所について理解し、支援活動を行うことができる。

17	がれきの下の医療を理解し、適切な治療へつなぐことができる。
18	被災者の口腔ケアの重要性について説明できる。
19	特殊災害について理解し、その対処について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室      実習：災害時地域医療支援教育センター

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/21(火)	3	救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授	災害医学総論 危機管理とは、災害関連法、CSCATTT、情報について	1,2,3,4,5	【事前学修】 webclassにアップした資料を読み災害医療の原則、CSCATTTについて自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ災害関連法をまとめる。また、災害時に重要なCSCATTTについてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/21(火)	4	救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授	災害医学各論① 過去の大規模災害の医療活動、避難所での医療活動、災害時に発生する疾患	6,7,16	【事前学修】 過去の大規模災害を調べ、災害時に発生する疾患についてまとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害の種類を理解し、各種災害とフェーズ（急性期から慢性期まで）によって必要な医療ニーズをまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/28(火)	3	法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子 教授	災害口腔医学	5,7,18	【事前学修】 過去に歯科医師の活動が報じられた災害について調査し説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ災害時の口腔ケアの重要性について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/28(火)	4	救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授	災害医学各論② 特殊災害について	15,19	【事前学修】 webclassにアップした資料を読み特殊災害とはどのような災害かを自分なりにまとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 特殊災害と自然災害の違いを理解し、除染前トリアージ・除染・爆傷の際の医療者としての対処方法をまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/11(月)	3	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-1) トリアージ 第1クール	8,9	【事前学修】 災害時におけるトリアージについて説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 start法・pat法トリアージについて、まとめる。また、その違いについてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/11(月)	4	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-2) 机上訓練 -受援- 第1クール	14,15	【事前学修】 被災した医療機関における受援について、適切な対応とは何かを自分なりに考え、まとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時における関係機関の役割を理解し、現場での医療活動についてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/12(火)	3	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-1) トリアージ 第2クール	8,9	【事前学修】 災害時におけるトリアージについて説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 start法・pat法トリアージについて、まとめる。また、その違いについてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/12(火)	4	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-2) 机上訓練 -受援- 第2クール	14,15	【事前学修】 被災した医療機関における受援について、適切な対応とは何かを自分なりに考え、まとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時における関係機関の役割を理解し、現場での医療活動についてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

実習	5/18(月)	3	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-3) 机上訓練 -避難所- 第1クール	16	【事前学修】 webclassにアップした資料を読み、避難所における医療者としての支援活動についてどのようなことができるかを考え、まとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時における避難所の役割について理解し、支援活動と避難所運営についてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/18(月)	4	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-4) 机上訓練 -情報分析- 第1クール	10,11,12,13	【事前学修】 災害医学総論の資料(webclass)を基に、CSCAについて説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時の方針決定に重要な情報について情報分析し方針決定のプロセスについてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/18(月)	5	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-5) がれきの下の医療(選択) 第1クール	7,8,17	【事前学修】 倒壊家屋などから患者を救う際に、どのような疾患が考えられるか、適切な治療方法は何かを調べ、まとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 がれきの下の医療の特殊性を理解し、適切な治療方法をまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
実習	5/19(火)	3	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-3) 机上訓練 -避難所- 第2クール	16	【事前学修】 webclassにアップした資料を読み、避難所における医療者としての支援活動についてどのようなことができるかを考え、まとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時における避難所の役割について理解し、支援活動と避難所運営についてまとめる。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

実習	5/19(火)	4	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-4) 机上訓練 -情報分析- 第2クール	10,11,1 2,13	【事前学修】 災害医学総論の資料 (webclass)を基に、CSCAに ついて説明文を作成する。 所要時間 30分以上 【事後学修】 災害時の方針決定に重要な 情報について情報分析し方 針決定のプロセスについて まとめる。所要時間 120分 以上 【ICT】 WebClass
実習	5/19(火)	5	救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座 救急・災害医学講座	眞瀬 智彦 教授 藤原 弘之 助教 富永 綾 助教 金子 拓 助教	(実習-5) がれきの 下の医療(選択) 第2クール	7,8,17	【事前学修】 倒壊家屋などから患者を救 う際に、どのような疾患が 考えられるか、適切な治療 方法は何かを調べ、まとめ る。所要時間 30分以上 【事後学修】 がれきの下の医療の特殊性 を理解し、適切な治療方 法をまとめる。所要時間 120 分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	災害歯科医学	槻木恵一、中久木康一編	医歯薬出版	2018年
推薦図書	3.11 Identity	Japanese Unidentified and Missing Persons Response Team	ブックウェイ	2016年
推薦図書	家族のもとへ、あなたを帰す	柳原三佳	WAVE出版	2012年
推薦図書	DMAT標準テキスト 改訂第2版	日本集団災害医学会	へるす出版	2015年

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。								
【形成的評価】 講義毎の振り返りシートで理解度を確認し、フィードバックする。								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～19	1、3、 4、6～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、PC、インターネット環境、トリアージタグ、シミュレーター（レサシアン）、衛星電話、机上シミュレーションセット（HUG等）

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	ライフサポートバッグ（救急バッグ）	2	実習のため

# 感染症学

ナンバリング	M4-S1-D30
--------	-----------

責任者・コーディネーター	臨床検査医学・感染症学講座 仲村 究 教授		
担当講座・学科（分野）	臨床検査医学・感染症学講座、衛生学公衆衛生学講座、消化器内科分野、呼吸器内科分野、小児科学講座		
担当教員	仲村 究 教授、丹野 高三 教授、梁井 俊一 准教授、長島 広相 特任准教授、外館 玄一朗 特任准教授、日比谷 健司 助教、遠藤 史郎 非常勤講師、金光 敬二 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 11コマ 22.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

感染症は全身臓器に関連し、学生が将来的にいずれの診療科に進んでも、基本的な理解が求められる。各講義を通じ、臨床的な感染症に関する知識を身に着けることを期待する。

## ・教育成果（アウトカム）

各教科で学んできた感染症に関連する知識を横断的に整理することで、感染症に関する重要なポイントについて説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,7 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	病原性微生物の種類や特徴を説明できる。
2	基本的な抗菌薬の種類や特徴を説明できる。
3	各感染性疾患の特徴（症状、病態、検査、基本的治療など）の説明ができる。
4	感染症に関連する医療安全の説明ができる。
5	感染症に関連する法規や法令の説明ができる。

## ・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/15(金)	2	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	感染症診療の基本	1,2,3	<p>【事前学修】 βラクタム薬、グラム染色、血液培養の意義について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/22(金)	1	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	HIV感染症、中枢神経感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 日和見感染症を来す疾患群について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/22(金)	5	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	呼吸器系の感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な呼吸器感染症、特に肺炎球菌性肺炎、新型コロナウイルス感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	5/28(木)	4	小児科学講座	外館 玄一朗 特 任准教授	小児感染症学①	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な小児科感染症、特にワクチンで予防可能な小児でよくみられる感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/28(木)	5	小児科学講座	外館 玄一朗 特 任准教授	小児感染症学②	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な小児科感染症、特にワクチンで予防可能な小児でよくみられる感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/29(金)	1	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	真菌感染症、抗酸菌感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 深在性真菌症、および結核について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/4(木)	4	消化器内科分野	梁井 俊一 准教授	消化器の感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な消化管感染症、特に感染性胃腸炎について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	6/5(金)	5	臨床検査医学・感染症学講座	遠藤 史郎 非常勤講師	耐性菌の種類、耐性機序	1,2,4,5	<p>【事前学修】 日常的に病院内で検出される様々な薬剤耐性菌について学ぶ。ESBL産生菌、カルバペネム耐性菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクターなどについて事前に自ら調べてみる。所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/18(木)	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	感染症に関連する法規や法令	4,5	<p>【事前学修】 感染症法を中心とする法規、法令について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/19(金)	5	臨床検査医学・感染症学講座	金光 敬二 非常勤講師	院内感染症、アウトブレイクの制御、周術期感染症	1,4,5	<p>【事前学修】 院内感染を防止するためにはどうすべきか、報道されるアウトブレイク事例などに目を通し考察しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	6/25(木)	3	臨床検査医学・感染症学講座	日比谷 健司 助教	寄生虫感染症および人獣共通感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な寄生虫感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
----	---------	---	---------------	-----------	------------------	-------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版	青木 眞	医学書院	2020
参考書	標準微生物学 第15版	神谷茂	医学書院	2024
参考書	標準小児科学 第15版	原 寿郎	医学書院	2022
参考書	目で見る感染症	原永修作/藤田次郎	羊土社	2015
参考書	感染症診療ゴールデンハンドブック改訂第2版	椎木創一/仲松正司	羊土社	2018
参考書	新型コロナウイルス感染症診療の手引き（第10.1版）	診療の手引き編集委員会	厚生労働省	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

講義内容について、講義終了後に小テストを学生自身でWebclassを用いて行い、その理解度を把握し、解答をフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5	1～5				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

Webシラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

\* 講義資料はWebClassで配信する。

\* 事前、事後学習が義務付けられており、事後学習内容についてもWebClassに提出する。

\* 提出する事後学習内容について、講義時に使用したノート等に追記を行い、自己で講義内容を確認したことが分かれば、それを提出してよい。ただし、枚数はA4 1～3枚程度に要約し、講義スライドをそのまま全て提出したものは不可とするため留意すること。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコンElite Desk 一式	1	講義・試験の資料作成
講義	ガラス両開き保管庫一式	1	配布資料、試験、成績の保存
講義	デジタルフルカラー複合機 一式	1	配布資料の作成、コピー
講義	デスクトップパソコン Pavilion Desktop595-p	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン	1	講義資料作成
講義	デジタルカメラ 一式	1	講義資料作成
講義	A4カラーレーザー複合機	1	講義資料作成

# 統合医学演習

ナンバリング	M4-S1-D31
--------	-----------

責任者・コーディネーター		教育支援システム開発分野 前沢 千早 教授	
担当講座・学科(分野)		教育支援システム開発分野	
担当教員		前沢 千早 教授、安平 進士 講師、柴崎 晶彦 助教	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 10コマ 20.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針(講義概要等)

臨床実習前の基盤知識の整理ならびに問題解決能力育成のために、2・3学年に行われてきた演習講義の総括をwebclassを使って行う。さらに3・4学年で実施されている科目横断的講義に関しても、診断から治療に係る過程をなぞる問題演習によって疑似体験できる。学修者は演習問題に付された解説を読み何度でも演習する事が可能で、不明な点はwebclassの機能を使っていつでも質問することができる。

## ・教育成果(アウトカム)

①病態生理の理解に重きをおいた基礎/臨床医学の垂直統合型の知識と、②症例をベースにした科目横断的知識ならびに問題解決能力をICTを使った修得する。学修者はこの演習を行う事で臨床実習前の基盤知識・問題解決能力を身につける事ができる。

(ディプロマ・ポリシー: 4)

## ・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	基礎生命科学の基盤知識を応用して症例の病態生理を説明出来る。
2	症例ベースの演習を通して、患者の診断・治療に係る適切な選択・判断を説明できる。

## ・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程(各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載)

区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
演習	6/12(金)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	学内模試の解説講義 統合医学演習(1)	1,2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、ふり返りのポートフォリオを作る。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】 WebClassによる演習</p>

演習	6/12(金)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (2)	1.2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/17(水)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (1、2) の解説講義	1.2	<p>【事前学修】 統合医学演習(1, 2)のふり返り学修をする。75分以上</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/17(水)	5	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (3)	1.2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/22(月)	1	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (4)	1.2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>

演習	6/22(月)	2	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (5)	1,2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/24(水)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(3, 4, 5)の解説講義	1,2	<p>【事前学修】 統合医学演習(3, 4, 5)のふり返り学修をする。75分以上</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/24(水)	5	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (6)	1,2	<p>【事前学修】 2, 3学年での演習講義に関する基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
演習	6/25(木)	1	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (7)	1,2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>

演習	6/25(木)	2	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(8)	1,2	<p>【事前学修】 演習講義で扱う問題に関する映像講義を視聴し、基盤知識についてふり返り学修を75分以上する。</p> <p>【事後学修】 理解不足の部分について、自ら調べふり返りを実施する。所定フォーマットに関連学修内容、教材を記載する。所要時間 75分以上</p> <p>【ICT】WebClassによる演習</p>
----	---------	---	--------------	----------------------------------	-----------	-----	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	クエスチョンバンク 医学共用試験CBT		MediLink store	2026

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の68点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 演習の正答率はwebclassを通じて学生自らチェックが可能である。コーディネーターはリアルタイムに全体の正答率を把握し、その結果を学生にフィードバックする。学生には自らの理解不足の領域に係る学修計画の立案を行う能動学習の習慣を身につけてもらう。コーディネーターは適宜webclassのメール機能を使い学生に学修状況に係るフィードバックを行う。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～2	4				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低75分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
---

・教育資源

CBT-QB（演習課題の解説が掲載されている）。webclassを使った演習問題、および過去の学生の演習成績に基づく理解度情報。
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

# 症候学

ナンバリング	M4-S1-D32
--------	-----------

責任者・コーディネーター		総合診療医学講座 下沖 収 教授	
担当講座・学科（分野）		総合診療医学講座	
担当教員		下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、 米田 真也 講師、田鎖 愛理 講師、山田 哲也 助教	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 20コマ 40.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床の場での患者診察では、愁訴を聞いた段階から鑑別診断を想定し、これまでに修得した医療面接、身体診察の手法から鑑別に必要な手法を選択し、実施できる能力が必要となる。これらの能力を駆使して得られた情報を整理し、鑑別すべき疾患を絞り込む能力を身につけ、今後の診療参加型臨床実習で活用できるように、患者の愁訴から鑑別診断までの思考過程を修得する。またチーム医療を行う上で必須である、メンバーと良好なコミュニケーションを取る能力を身につける。

・教育成果（アウトカム）

医療面接、身体診察から、患者に起きている病態を把握し、チーム作業で得られた情報を統合し、鑑別診断を考えることができる。  
(ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,5,6 )

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	各症候の原因と病態生理を説明できる。
2	各症候をきたす疾患を列挙し、医療面接で聞き出すべき情報を整理できる。
3	医療面接で得た情報から鑑別疾患を抽出し、鑑別に必要な身体診察手技を列挙できる。
4	医療面接と身体所見の情報を統合して、鑑別診断ができる。
5	グループ内で、共同作業で成果物を作り上げることができる。
6	グループ内で和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
7	プレゼンテーションソフトを使って、適切に発表できる。
8	本実習での学びについて省察できる。

・講義場所

東1-D講義室、SGL等

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
実習	9/24(木)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	イントロダクション	5,6	【事前学修】 イントロダクション資料、 動画で、各々学修方法を把握する。 【事後学修】 割り当てられた症候に関連する疾患を教科書等で調べる。 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	9/24(木)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5,6,7	【事前学修】 調べた疾患についての鑑別に有用な項目を調べる。 【事後学修】 提出課題のエクセルシートをまとめる。症候に関連する疾患、鑑別項目に漏れがないかを調べる。プレゼンテーションスライドを作成する。 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/24(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/24(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/25(金)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。

実習	9/25(金)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループ ワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/25(金)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループ ワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/25(金)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループ ワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/28(月)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループ ワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 提出課題のエクセルシートをまとめる。症候に関連する疾患、鑑別項目に漏れがないかを調べる。プレゼンテーションスライドを作成する。 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/28(月)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループ ワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/28(月)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	発表と質疑	1,2,3,4,5 ,6,7,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 他のグループからの意見・質問をまとめ、プレゼンテーションに反映させる。 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。

実習	9/28(月)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	発表と質疑	1,2,3,4,5 ,6,7,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 他のグループからの意見・質問をまとめ、プレゼンテーションに反映させる。 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/29(火)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 発表スライド・動画を作成方法を学び、作成する。 【事後学修】 発表スライド・動画を作成方法を学び、作成する。 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/29(火)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5 ,6,7	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/29(火)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5 ,6,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/29(火)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-28 グループワーク	1,2,3,4,5 ,6,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。
実習	9/30(水)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-37 動画視聴と学んだことの記載、振り返り	1,2,3,4,8	【事前学修】 他グループの作成した動画を視聴し、評価・学んだことを記載する。 【事後学修】 学んだことを振り返り、レポートを作成する。 【ICT】学習方法の説明、課題提出、及び教員との質疑はWebClass、google driveを用いて行う。

実習	9/30(水)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-37 動画視聴 と学んだことの記 載、振り返り	1,2,3,4,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】オンラインで動画を 視聴。課題もオンライン提 出。
実習	9/30(水)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-37 動画視聴 と学んだことの記 載、振り返り	1,2,3,4,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】オンラインで動画を 視聴。課題もオンライン提 出。
実習	9/30(水)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教	症候1-37 動画視聴 と学んだことの記 載、振り返り	1,2,3,4,8	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】オンラインで動画を 視聴。課題もオンライン提 出。

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第3版	金城光代ほか	医学書院	2023年
参考書	診察ができる Vol1. 身体診察		MEDIC MEDIA	2023年
参考書	診察ができる Vol2. 鑑別診断		MEDIC MEDIA	2024年
参考書	内科診断学 第4版	福井次男、奈良信雄、松村 正巳	医学書院	2024年

・成績評価方法

【総括評価】

成果物評価5割（エクセル2割、動画2割、プレゼン1割）、レポート評価2割、ピア評価2割、授業態度1割で合算し、100点満点となるようにし、60点以上を合格点とする。なお、成果物とは、症候一覧表のなかで担当する症候の表（エクセル）を完成させたもの、発表スライド・動画の内容および発表を指す。実習4日目に提出、ルーブリックに沿って評価を行う。レポートは本実習で学んだこと、本実習の省察を600-800字以内でwebClassに提出する。実習終了後に提出、ルーブリックに沿って評価を行う。ピア評価はPBLへの積極的参加、チーム内での貢献度を評価する。実習後にGoogle formで提出、観察記録によるリッカート尺度に沿って評価を行う。授業態度は、実習終了後に、発表・ディスカッションでの発言や、グループメンバーへのピア評価記載内容を、ルーブリックに沿って評価を行う。不合格者には別課題を課し、再評価を行う。ルーブリックは到達目標に沿った項目、点数配分をあらかじめ設定しているが、非公表とする。

【形成的評価】

ピア評価が著しく低い者に対し面談を行い、フィードバックする。必要に応じて追加実習・レポート等が課される可能性がある。

到達目標	DP	成果物 (エクセル)	成果物 (動画)	成果物 (プレゼン)	レポート	ピア	授業態度	合計
1-8	1,4,5,6	20	20	10				50
1-8	1,4,5,6				20			20
5,6	2,6					20		20
5-8	1,4,5,6						10	10
合計		20	20	10	20	20	10	100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、SGL、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

## 基本的臨床技能実習

責任者・コーディネーター	OSCE 部門長		
担当講座・学科(分野)	実習担当講座・学科		
担当教員	実習担当講座・学科教員		
対象学年	4学年	期間	前期
区分	実習	時間数	47 時間

### ■ 学習方針(講義概要等)

診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる、知識・態度・技能に関する学修と評価項目に沿って実習を行う。また、臨床実習を行うにあたって必要不可欠な医療安全、手術場のルール、電子カルテの使用方法等について実習を行う。

### ■ 教育成果(アウトカム)

Student Doctor として臨床実習に参加できる知識・態度・技能を身に付ける。また、グループ行動を通じて、医療プロフェッショナルとして必要なコミュニケーション能力を身に付ける。

(ディプロマ・ポリシー: 5.6)

### ■ 実習日程

実習前のガイダンスにおいて提示する。本科目は原則 1 コマ 60 分で行う。

### ■ 成績評価方法

共用試験 OSCE による。試験実施方法は別に定める。

### ■ 特記事項・その他

シラバスに記載されている学修内容(Web シラバス等)および到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修(予習・復習)を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間はそれぞれ最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料や実技動画はWebClass で配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

# 自由科目

## 海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 柳谷 千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担当教員	柳谷 千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期間	後期		

### ・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

### ・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性の涵養の一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。  
(ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9)

### ・到達目標（SBOs）

- (1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
- (2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
- (3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
- (4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

### ・成績評価方法

【総括的評価】 研修レポート: 30%、演習態度\*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

\*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。

\*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間 試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：

「その他」（70％）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研修先：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）

期間：3月（約2週間）の予定

宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各1時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

## (令和8年度) 地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座 下沖 収 教授		
担当講座・学科 (分野)	(医学部) 総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 (歯学部) 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (薬学部) 臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 地域包括ケア講座		
担当教員	(医学部) 下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、前田 哲也 教授、 赤坂 博 助教 (歯学部) 小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 (薬学部) 松浦 誠 教授、白石 博久 特任教授 (看護学部) 岩淵 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年 (全学部)	期 間	通期
区分・時間数	演習 16.0時間 (全8回) (1 コマ 2 時間換算)	単位数	1 単位

### ■ 学習方針 (演習概要等)

患者 (対象者) を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者 (住民) へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

### ■ 教育成果 (アウトカム)

患者 (対象者) や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種 (専門職) 連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。  
(ディプロマ・ポリシー)

医学部 : 1, 2, 4, 6, 8 歯学部 : 1, 2, 3, 5, 9 薬学部 : 1, 2, 3 看護学部 : 1, 2, 3, 7, 8

### ■ 到達目標 (SBOs)

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

### ■ 成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価 (50%)、ルーブリックによるグループワーク等評価 (30%)、成果物評価 (20%) により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1, 2, 3, 4	1, 2, 4, 6, 8	1, 2, 3, 5, 9	1, 2, 3	1, 2, 3, 7, 8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

### ■ 事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後4時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■ 特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定 対 象：全学年（全学部） 会 場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等  
 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30分以上の遅刻は欠席とする。  
 当該科目に関する実務経験の有無 有  
 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

■ 実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第1回 6月 予定	5限 予定	オリエンテーションと概要講義 1. 科目の目標と全体構成を理解し説明できる。 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 前田 哲也 教授 赤坂 博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 教授 白石 博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第2回 6月 予定	5限 予定	グループワーク（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第3回 7月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第4回 8月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第5回 9-10月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第6回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第7回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

<p>第8回 12月 予定</p>	<p>5限 予定</p>	<p>検討発表会・まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。</li> <li>2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。</li> </ol>		<p>矢巾キャンパス</p>
---------------------------	------------------	--	--	----------------

# 諸 規 則

# 岩手医科大学学則

## 第1章 目的及び使命

第1条 本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

2 各学部における教育研究上の目的は別に定める。

3 本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

4 前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

## 第2章 組織及び修業年限

第2条 本学に次の学部学科を置く。

医学部 医学科

歯学部 歯学科

薬学部 薬学科

看護学部 看護学科

2 医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は6年とし、看護学部は4年とする。

3 各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の2倍を超えることができない。

## 第3章 学年・学期及び休業日

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第4条 学年は、前期、後期の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第5条 定期休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春期休業 3月16日から4月15日まで

(4) 夏期休業 7月16日から8月31日まで

(5) 冬期休業 12月23日から1月15日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

2 臨時休業日は、その都度学長が定める。

#### 第4章 授業科目、授業時間数及び単位

第6条 各学部の授業科目等は別表1のとおりとする。

#### 第5章 授業科目の履修及び課程修了の認定

##### 第1節 医学部、歯学部

第7条 医学部、歯学部においては、第6条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。

2 履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。

3 履修した科目に単位を付与する場合は、45時間の学修を必要とする内容を1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

第8条 所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。

2 試験に関する実施規程は別に定める。

第9条 試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

##### 第2節 薬学部、看護学部

第10条 薬学部、看護学部においては、第6条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。

3 単位の計算は、第7条第3項を準用する。

第11条 履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。

第12条 試験の成績は、第9条を準用する。

##### 第3節 全学部共通

第13条 特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。

第14条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを標準とする。

第14条の2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。

第15条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学

における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第16条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第17条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30単位を超えないものとし、かつ、第15条第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）及び前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

## 第6章 卒業及び学位

第18条 医学部、歯学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

- 2 薬学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習20単位以上を含む186単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

- 3 看護学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

## 第7章 入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条 入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条 本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）。
- (3) 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）。
- (7) その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認められた者。

第 21 条 入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願出しなければならない。

第 22 条 本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

- 2 本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条 入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人 2 名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条 保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち 1 名は学費負担者でなければならない。

- 2 保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。
- 3 保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第 1 項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条 学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条 病気、その他やむを得ない事由により 3 ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

- 2 休学の期間は、1 年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に 1 年以内の休学を許可することができる。
- 3 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。
- 4 休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条 休学期間であっても事故止みとなり復学を願出た場合は、教授会の議を経て許可することができる。

第 28 条 他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

2 本学の第 1 学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第 2 学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。

3 転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。

第 29 条 本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

## 第 8 章 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第 30 条 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表 2 に定める。

第 31 条 授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。

(1) 入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。

(2) 入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。

(3) 入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日までとする。

(4) 薬学部第 5 学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。

第 32 条 授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30 日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。

第 33 条 納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。

2 前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

## 第 9 章 職員組織

第 34 条 本学に次の職員を置く。

学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。

2 職員の定員に関しては、別にこれを定める。

## 第 10 章 教授会

第 35 条 本学に教授会を置く。

- 2 教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。
- 3 教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
  - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
  - (2) 学位の授与
  - (3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
- 4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 5 教授会の運営に関する規程は、別に定める。

## 第 11 章 学生収容定員

第 36 条 各学部の学生定員は次のとおりとする。

医学部医学科	入学定員	95 名	収容定員	570 名		
歯学部歯学科	入学定員	73 名	収容定員	438 名		
薬学部薬学科	入学定員	50 名	収容定員	300 名		
看護学部看護学科	入学定員	90 名	3 年次編入学定員	5 名	収容定員	370 名

## 第 12 章 研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条 本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。

- 2 研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。

第 38 条 本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生の規程は、別に定める。

第 38 条の 2 本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

- 2 科目等履修生の規程は、別にこれを定める。

第 38 条の 3 研究生、研修生、研究員、聴講生には、第 8 条、第 9 条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。

第 39 条 外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

## 第 13 章 賞罰

第 40 条 人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第 41 条 学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の 4 種とする。

第 42 条 次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく欠席が多い者
- (4) 本学の秩序を乱す者

#### 第 14 章 附属施設

第 43 条 本学に次の附属施設を置く。

- (1) 附属図書館
- (2) 附属病院
- (3) 附属薬用植物園

2 附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

#### 第 15 章 学生の厚生補導等

第 44 条 学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

2 学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条 本学に学生寮を置くことができる。

#### 第 16 章 学生心得

第 46 条 学生心得は、別に定める。

#### 第 17 章 改廃

第 47 条 この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

この学則は、昭和 22 年 6 月 18 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 29 年 9 月 15 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 40 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 44 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 46 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 48 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 52 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 53 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 54 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 55 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 57 年 1 月 5 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 59 年 1 月 2 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 61 年 1 月 6 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の ( ) 書は昭和 63 年度以降歯学部に入学者に適用する。
- 3 この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第 3 項の規定は適用しない。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定は、平成 2 年 4 月 1 日より適用する。  
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 10 月 19 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 3 年 11 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。  
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成 3 年 5 月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附 則

- 1 この学則は、平成 5 年 11 月 1 日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成7年9月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成10年9月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第2条第3項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成13年10月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成14年10月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年11月30日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～ 29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

3 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

この学則は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

- 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 学生定員の取扱については、平成20年8月5日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成20年4月1日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成21年4月1日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附 則

- この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成37年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 ～29年度	平成30年度
入学定員	125人	125人	125人	125人	125人	125人	110人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人
	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

- 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。
- 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～ 31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附 則

- この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 22 年 6 月 28 日一部改正)
- この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。
- この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 23 年 2 月 28 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 23 年 6 月 1 日から施行する。(平成 23 年 5 月 30 日一部改正)

附 則

- この学則は、平成 24 年 7 月 1 日から施行する。(平成 24 年 6 月 25 日一部改正)
- この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。(平成 24 年 10 月 29 日一部改正)
- 第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123人	123人	123人	123人	108人	108人
編入学定員	7人	7人	7人	7人	7人	7人	7人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人
	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人	
編入学定員	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人	

- 第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～ 31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。(平成 27 年 3 月 23 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 8 月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第 2 条第 3 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（平成 29 年 7 月 31 日一部改正、平成 30 年 3 月 26 日一部改正(別表 1 第 6 条関係の変更)）
- 2 第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人
	平成37年度						
入学定員	95 人						
編入学定員	0 人						
収容定員	570人						

- 3 第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附 則

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。（平成 30 年 4 月 23 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更）、平成 31 年 3 月 25 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更））

附 則

- 1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。（令和元年 7 月 29 日一部改正、令和 2 年 3 月 30 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更））
- 2 第 36 条の規定にかかわらず、令和 2 年度から令和 9 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人
	令和9年度						

入学定員	95人
編入学定員	0人
収容定員	570人

附 則

- この学則は、令和3年4月1日から施行する。（令和2年6月29日一部改正、令和3年3月29日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和3年度から令和8年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附 則

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。（令和3年4月26日一部改正（別表1第6条関係の変更）、令和3年7月26日一部改正、令和4年3月28日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和4年度から令和10年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	126人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
編入学定員	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附 則

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。（令和4年9月6日一部改正、令和5年3月27日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和5年度から令和11年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附 則

- この学則は、令和6年4月1日から施行する。（令和5年10月26日一部改正、令和5年12月18日一部改正、令和6年3月25日一部改正（別表1第6条関係の変更、第7条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和12年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人

収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人
------	------	------	------	------	------	------	------

3 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和11年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	50名	50名	50名	50名	50名	50名
収容定員	530名	460名	390名	360名	330名	300名

附 則

- この学則は、令和7年4月1日から施行する。（令和6年12月16日一部改正、令和7年3月24日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和7年度から令和13年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附 則

- この学則は、令和7年8月1日から施行する。（令和7年6月30日一部改正（別表2第30条関係の変更））

附 則

- この学則は、令和8年4月1日から施行する。（令和7年12月15日一部改正、令和8年3月30日一部改正（第2条第3項関係の変更、別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和8年度から令和14年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1(第6条関係:医学部)

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	8	16.0	2	講義	必修
	医療倫理学	1	8	16.0	1	講義	必修
	法学	1	8	16.0	1	講義	必修
	心理学	1	9	18.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	10	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	7	14.0	1	講義	必修
	情報リテラシー	1	7	14.0	1	演習	必修
	物理学	1	14	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	14	28.0	1	講義	必修
	エッセンシャル生物	1	8	16.0	1	講義	必修
	化学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	生物学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	English Reading & Writing I	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Reading & Writing II	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening I	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening II	1	14	28.0	1	講義	必修
	行動科学	1	9	18.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	8	16.0	1	講義	必修
	ベーシック生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	14	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	14	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療とコミュニケーション	1	14	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	9	18.0	1	講義	選択
	実践英語	1	5	10.0	1	実技	選択
	医療と福祉	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	10	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	10	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	10	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	10	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	10	20.0	1	講義	選択
	科学英語	1	10	20.0	1	講義	選択
	データサイエンスII	2	4	8.0	-	演習	必修
	医学英語入門	2	22	44.0	-	講義	必修
	医学英語	3	14	28.0	-	講義	必修
	医事法学	4	10	20.0	-	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
医学専門科目	医療入門	1	20	40.0	講義	必修	
	(全人的医療基礎講義含む)	1	50	100.0	実習	必修	
	分子細胞生物学I	1	12	24.0	講義	必修	
		1	2	4.0	実習	必修	
	分子細胞生物学II	1	12	24.0	講義	必修	
		1	2	4.0	演習	必修	
	基礎組織学	1	9	18.0	講義	必修	
		1	1	2.0	演習	必修	
		1	9	18.0	実習	必修	
	解剖学総論	1	4	8.0	講義	必修	
		1	10	20.0	実習	必修	
	医化学I	1	14	28.0	講義	必修	
	医科生理学	1	22	44.0	講義	必修	
	初年次ゼミナール	1	8	16.0	講義	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(入門)	1	6	12.0	講義	必修	
	医療安全学	1	21	42.0	実習	必修	
		1	8	16.0	講義	必修	
		2	17	34.0	講義	必修	
	組織学	2	19	38.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	人体生理学	2	14	28.0	講義	必修	
	臨床解剖学	2	20	40.0	講義	必修	
		2	79	158.0	実習	必修	
	器官生理学	2	27	54.0	講義	必修	
		2	20	40.0	実習	必修	
	医化学II	2	21	42.0	講義	必修	
		2	18	36.0	実習	必修	
	神経科学	2	34	68.0	講義	必修	
		2	21	42.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	微生物学	2	35	70.0	講義	必修	
		2	8	16.0	実習	必修	
		2	2	4.0	演習	必修	
	免疫学	2	14	28.0	講義	必修	
		2	4	8.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	病理学総論	2	13	26.0	講義	必修	
		2	2	4.0	演習	必修	
	基礎医学演習	2	14	28.0	演習	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(実践)	2	17	34.0	講義	必修	

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
医学専門科目	薬理学	2	25	50.0	講義	必修	
		2	6	12.0	実習	必修	
	医療プロフェッショナリズムII	2	4	8.0	講義	必修	
		2	9	18.0	実習	必修	
	基本的医療手技I	2	20	40.0	実習	必修	
	器官病理学	3	36	72.0	講義	必修	
		3	12	24.0	実習	必修	
	疫学・環境医学	3	22	44.0	講義	必修	
		3	32	64.0	実習	必修	
	チーム医療リテラシー	3	12	24.0	演習	必修	
	基礎病態・社会医学演習	3	12	24.0	演習	必修	
	消化器病学	3	36	72.0	講義	必修	
	内分泌・代謝病学	3	23	46.0	講義	必修	
	循環器病学	3	27	54.0	講義	必修	
	呼吸器病学	3	29	58.0	講義	必修	
	神経病学	3	36	72.0	講義	必修	
	産婦人科学	3	35	70.0	講義	必修	
	免疫病学	3	13	26.0	講義	必修	
	血液病学	3	20	40.0	講義	必修	
	小児科学	3	14	28.0	講義	必修	
	腎臓病学	3	19	38.0	講義	必修	
	臨床検査医学	3	12	24.0	講義	必修	
	臨床医学演習	3	13	26.0	演習	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(発展)	3	8	16.0	講義	必修	
		3	6	12.0	講義	必修	
	医学研究リテラシーI	3	6	12.0	実習	必修	
		3	2	4.0	実習	必修	
	医学研究リテラシーII(研究室配属)	3	72	144.0	実習	必修	
	地域医療学II	3	20	40.0	実習	必修	
	医療プロフェッショナリズムIII	3	7	14.0	講義	必修	
		3	7	14.0	実習	必修	
	基本的医療手技II	3	20	40.0	実習	必修	
	災害医学	4	4	8.0	講義	必修	
		4	5	10.0	実習	必修	
	老年医学	4	8	16.0	講義	必修	
	整形外科	4	17	34.0	講義	必修	
	リハビリテーション医学	4	8	16.0	講義	必修	
	形成外科	4	11	22.0	講義	必修	
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	4	14	28.0	講義	必修	
	眼科学	4	10	20.0	講義	必修	
	皮膚科学	4	14	28.0	講義	必修	
	泌尿器科学	4	10	20.0	講義	必修	
	神経精神科学	4	14	28.0	講義	必修	
	放射線医学	4	14	28.0	講義	必修	
	麻酔学	4	8	16.0	講義	必修	
	救急医学	4	9	18.0	講義	必修	
	法医学	4	16	32.0	講義	必修	
		4	6	12.0	実習	必修	
	地域総合診療医学	4	8	16.0	講義	必修	
	臨床遺伝学	4	8	16.0	講義	必修	
	感染症学	4	11	22.0	講義	必修	
	臨床腫瘍学	4	8	16.0	講義	必修	
	臨床病理学	4	9	18.0	講義	必修	
	基本的臨床技能実習	4	47	47.0	実習	必修	
	統合医学演習	4	10	20.0	演習	必修	
	医療プロフェッショナリズムIV	4	8	16.0	講義	必修	
	症候学	4	20	40.0	実習	必修	
	総合臨床医学(ベーシック臨床実習)	4・5	20	40.0	演習	必修	
		4・5	540	810.0	実習	必修	
	予防医学	5	19	38.0	講義	必修	
		5	1	2.0	演習	必修	
アドバンスト臨床実習(地域医療臨床実習)	5	80	120.0	実習	必修		
アドバンスト臨床実習	5・6	740	1,110.0	実習	必修		
総合医学	6	126	126.0	講義	必修		
4学部合同セミナー	6	2	4.0	演習	必修		

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
自由科目	海外英語演習	1~6	40	80.0	2	演習	自由
自由科目	地域医療課題解決演習	1~6	8	16.0	1	演習	自由

別表 2 (第30条関係)

1. 入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。(転部入学含む)

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度 (年額)	500,000 円	—	125,000 円
	第2学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円
施設整備費 (年額)	1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	—
	第2学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

2. 再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年 (年額)	500,000 円	—	125,000 円
	第2学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円
施設整備費 (年額)	1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年 (年額)	—	—	—
	第2学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

3. 転入学(歯学部に限る。)に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

4. 編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費 (年額)	500,000 円	—	195,000 円	150,000 円
施設整備費 (年額)	1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	—
	次年度以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

5. 留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1) 第1学年において留年した者

留年年度における第1学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2) 第2学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。

ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考 第1項から第5項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

(趣旨)

第1条 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第2条に則り、学則第1条第2項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

(各学部等の目的と使命)

第2条 医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

(1) 医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

(2) 歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

(3) 薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成す

(4) 看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

(5) 全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う「人としての教養」と、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

(改廃)

第3条 この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 9 月 26 日 から施行し、改正後の規定は、平成 22 年 6 月 15 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 27 年 12 月 1 日から施行する。(薬学部における目的の変更)

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更)

附 則

この規程は、令和 2 年 2 月 12 日から施行する。(教養教育センターの目的の追加)

附 則

この規程は、令和 8 年 2 月 1 日から施行する。(医学部における目的と使命の追記)

# 岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和6年4月1日制定

## (目的)

第1条 この規程は、「障害者基本法(昭和45年法律第84号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

## (定義)

第2条 本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 障害のある学生等 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。
- (2) 合理的配慮 障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないよう必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

## (教職員の責務)

第3条 本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないよう、合理的配慮の提供に努めなければならない。

## (支援体制)

第4条 本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

- 2 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第5条及び第6条の手続きを経ることとする。
- 3 学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。
  - (1) 学生部長
  - (2) 学生副部長
  - (3) 学事課
  - (4) その他学生部長が必要と認めた者

## (面談)

第5条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口で相談後、面談を実施することとする。

- 2 面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

- (1) 学生部長
- (2) 学生副部長
- (3) 教務委員長
- (4) クラス担任
- (5) 当該学部教務課
- (6) 健康管理センター
- (7) 学事課
- (8) その他学生部長が必要と認めた者

3 前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

(申請)

第6条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式1の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

- 2 新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。
- 3 更新申請は、年度ごとに行うものとする。

(合理的配慮の検討)

第7条 学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

2 前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたりと判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

- (1) 本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)
- (2) 実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)
- (3) 費用及び負担の程度
- (4) 本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

(合理的配慮の提供)

第8条 本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

2 合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

(情報保護)

第9条 合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報と共有することができるものとする。

(事務)

第 10 条 本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

学生支援室 御中

### 修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、\_\_\_\_\_年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

申請日	_____年 ____月 ____日		
(ふりがな) 氏名※自筆	( _____ )	入学年度	_____年度
	※自筆 _____	学籍番号	_____
学部学年等	_____学部 _____年 出席番号 _____番		
連絡先・現住所	携帯電話： _____ E-mail： _____ 現住所： _____		
緊急連絡先 (保護者等)	氏名： _____ 住所： _____ 電話番号： _____ 本人との関係： _____		
障がい等の名称	_____		
障がいの種類	※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと		
	障がいの種類(該当箇所にチェックのこと) <input type="checkbox"/> 身体障がい <input type="checkbox"/> 知的障がい <input type="checkbox"/> 精神障がい <input type="checkbox"/> その他心身の機能の障がい		
根拠書類	障害者手帳	診断書	その他
	<input type="checkbox"/> 有( _____ 手帳 種 級) <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 (内容： _____ )
申し出理由 及び 希望する配慮内容	配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など)  希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)		
備 考	<input type="checkbox"/> 規程第9条 関係者間における個人情報の共有に同意します。		

## 岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第1条 この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第2条 欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第3条 学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第4条 次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することができる。

- (1) 近親者の死亡の場合であって、1親等にあつては連続1週間、2親等にあつては連続3日、3親等にあつては1日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）
- (2) 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）第18条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第19条に定める期間の欠席
- (3) 授業中の事故による入院又は加療のための欠席
- (4) 交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席
- (5) 大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席
- (6) 学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席
- (7) その他学部長が特に認める欠席

第5条 前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
(1)	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から2週間以内
(2)	医師の診断書	登校後1週間以内
(3)		
(4)	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から1週間以内
(5)	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から1週間以内
(6)		
(7)	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第6条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第7条 この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第8条 この規程に関する事務は、各教務課が行う。

### 附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

平成 20 年 8 月 18 日一部改正

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する（関係法令の名称変更）。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

# 岩手医科大学医学部試験規程

昭和 27 年 9 月 1 日制定  
昭和 33 年 5 月 27 日改正  
昭和 48 年 4 月 1 日改正  
昭和 48 年 6 月 1 日改正  
昭和 51 年 1 月 26 日改正  
昭和 56 年 9 月 22 日改正  
昭和 57 年 12 月 8 日改正  
昭和 58 年 2 月 16 日改正  
昭和 63 年 10 月 26 日改正  
平成 2 年 3 月 14 日改正  
平成 5 年 11 月 24 日改正  
平成 6 年 4 月 13 日改正  
平成 7 年 4 月 12 日改正  
平成 9 年 5 月 14 日改正  
平成 11 年 3 月 10 日改正  
平成 12 年 4 月 1 日改正  
平成 13 年 4 月 1 日改正  
平成 14 年 6 月 7 日改正  
平成 14 年 12 月 11 日改正  
平成 16 年 2 月 6 日改正  
平成 16 年 12 月 8 日改正  
平成 19 年 2 月 21 日改正  
平成 27 年 2 月 25 日改正  
平成 28 年 2 月 10 日改正  
平成 30 年 4 月 1 日改正  
令和 4 年 4 月 1 日改正  
令和 7 年 4 月 1 日改正

## (趣旨)

第1条 この規程は、岩手医科大学学則第8条に基づき、医学部における授業科目の履修、試験、進級及び卒業に関して、必要な事項を定める。

### (授業科目の履修及び試験科目)

第2条 履修すべき授業科目、試験科目及び認定する単位数については、これを学年毎に教育要項(シラバス)に定める。

2 選択科目又は自由科目を選択しようとする者は、年度始めに履修申請をしなければならない。

3 前項に定める科目以外でも、授業した科目については試験を行うことができる。

### (試験の種類)

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

(1) 本試験 定期に行う進級試験及び卒業試験をいう。

(2) 追試験 病気その他やむを得ない事由で受験できなかった者に事故終了後に行う試験をいう。

(3) 再試験 所定の本試験に不合格の者に対し改めて行う試験をいう。再試験は原則として1回限りとする。

### (追試験料及び再試験料)

第4条 追試験料は、1科目1,000円、再試験料は1科目3,000円とし、その都度前納するものとし、それぞれ所定の用紙に必要事項を記入のうえ医学部教務課を経て学部長に願い出なければならない。

2 共用試験の試験料については、別に定める。

(試験の方法)

第5条 試験の方法は、筆記、口述、レポート、実地等とする。

(試験日程)

第6条 本試験は、前期終了時又は後期終了時に行う。ただし、一部の科目の日程については、別に定める。

2 追試験は、本試験に係る学業成績判定までに行う。

3 再試験は、あらかじめ指定した日程に行う。

4 試験日及びその時間割は、実施2週間前までに発表するものとする。

(受験資格)

第7条 教育要項(シラバス)に定める各科目につき、所定の学習時間の2/3以上聴講し、かつ学習を完了した者でなければ本試験を受ける資格がない。

2 病気又はやむを得ない事由で受験が不可能の場合には、直ちに前者では医師の診断書、後者ではその事由書を添えて医学部教務課を経て学部長に届け出なければならない。

3 前項の手続を経て担当教授の承認を受けた者は、本試験の追試験を受けることができる。

(評点)

第8条 各学年の成績・評価は、学年毎に別に定め、教育要項(シラバス)に記載するものとする。

2 追試験の成績・評価は、その評点より1割を減じたものをもって得点とする。但し、教授会の議を経て減じないことが承認された場合、この限りではない。

3 再試験において、合格した場合の成績・評点は合格最低点とする。

(進級・単位付与)

第9条 各科目の講義及び実習終了後、教育要項(シラバス)に定める各学年の本試験を受け、全科目に合格した者について、教授会の議を経て進級及び単位付与について判定する。

2 進級した者のうち、教養教育センター科目を受講した者については所定の単位を付与する。

3 進級不可と判定された者は、留年とし、当該学年の全科目を再履修するものとする。

4 留年した場合でカリキュラムの変更に伴い当該学年に再履修すべき授業科目がない場合は、教授会の議を経て講座等の責任において補習授業(再履修)を行い、当該年度の進級判定前までに試験を行い、60点を合格とする。

5 前項で再履修により合格した科目については、第3項の規定を適用しない。

(卒業)

第10条 卒業の可否は、別に定める卒業判定基準に基づき、教授会において判定し、学長が認定する。

2 卒業不可と判定された者は、留年とし、第6学年の全科目を再履修するものとする。

(成績評価の開示)

第11条 個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

(成績評価の異議申し立て)

第12条 成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行なう場合には、別に定める「成績評価に関する異議申し立て規則」の手続きに拠り、「成績評価に関する異議申し立て書」(所定の様式による)を、医学部長へ提出するものとする。

(雑則)

第13条 この規程に定めのない事項については、教授会の議を経て学部長が定める。

(規程の改廃)

第14条 この規定の改廃は、教授会の議を経て学部長が行う。

附 則

この規程は昭和27年9月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和33年5月27日から施行する。

附 則

この規程は昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和48年6月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和51年1月26日から施行する。

附 則

この規程は昭和56年10月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和57年12月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和63年10月26日から施行する。

附 則

この規程は平成2年3月14日から施行する。

附 則

この規程は平成5年11月24日から施行する。

附 則

この規程は平成7年4月12日から施行する。

附 則

この規程は平成9年5月14日から施行する。

附 則

この規程は平成11年3月10日から施行する。

附 則

この規程は平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成16年4月1日から施行する。

ただし、4学年の消化器病学、免疫病学、血液病学については平成17年度から適用する。

附 則

この規程は平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

## 成績評価に関する異議申し立て制度について

本学には、学生が成績評価について異議申し立てすることができる「成績評価異議申立制度」があります。

この制度は、自分の成績評価に疑義がある場合に大学・教員側に申し立てすることが可能であり、医学部長がその異議に対して対応し、回答する制度となっています。

異議申立に関する手続き方法及びスケジュールは下記のとおりとなっております。期間外の申し立てや過去の学期の成績については一切受け付けませんので十分注意するようにしてください。

### 【手続き期間】

令和 年 月 日 ( ) 9時00分～17時00分

※再試験結果については申し立てができません。

※本制度を利用したとしても再試験対象となっている学生は再試験手続き・再試験受験を行って下さい。

### 【提出書類】

「成績評価異議申立書」(申し立て期間に医学部教務課窓口に準備します。)

「学生証写し」

### 【提出先】

矢巾キャンパス 医学部教務課窓口

### 【結果通知】

口頭または文書にて本人に通知します。通知方法等は後ほど該当者に連絡いたします。

### 【対象科目】

医学部第 学年全科目

### 【成績開示】

令和 年 月 日 ( ) 教授会終了後に Webclass で公開しますので、各自確認願います。なお、公開時間は準備状況により前後する可能性がありますので、ご了承願います(公開後に WebClass メールにて通知いたします)。

## 医学部第4学年進級試験・進級判定基準

### (実施方法)

- 第1 進級試験・進級判定は、各科目試験、共用試験 CBT 及び共用試験 OSCE について実施する。
- 2 共用試験 CBT 及び共用試験 OSCE の詳細については、別に定める。

### (評価)

- 第2 科目試験は、100 を満点とし、科目毎に評価を行う。
- 2 共用試験 CBT 及び共用試験 OSCE は、別に定める合格基準に従う。

### (判定)

- 第3 進級判定は、教授会の議決による。

### (合否基準)

- 第4 合否基準は、次のとおりとする。
- (1) 合格 次のア及びイのいずれも満たす場合
- ア 科目試験 全科目 60 点以上
- イ 共用試験 CBT 及び共用試験 OSCE 共用試験実施評価機構が定める合格基準以上
- (2) 不合格 前号以外の場合

### (再試験)

- 第5 60 点未満の科目試験が科目試験全体の 1/3 以下の場合、当該試験の再試験を行う。
- 2 60 点未満の科目試験が科目試験全体の 1/3 を超えた場合、又は本試験若しくは追試験をやむを得ない事情無く欠席し不合格となった場合には、申請の上、当該科目試験について再試験を仮受験することができる。
- 但し、かかる仮受験の成績は、いずれの科目もその評点より 1 割を減じたものをもって得点とする。
- 3 共用試験が不合格だった場合、共用試験実施機構の指針に基づいて、当該試験の再試験を行う。

### (その他)

- 第6 大学が企画・実施・費用負担する施策（模擬試験・補講・アンケート回答等）については、原則として全員参加することとし、参加しなかった者は進級判定の対象としない。

## 第4学年共用試験 CBT および共用試験 OSCE に関する取扱規程

### ( 趣 旨 )

第1 学生が臨床実習開始前に必要な知識・態度・技能を有するか否かを総合的に評価することを目的とする。

### ( 受験資格 )

第2 臨床実習前に取得すべき全ての単位を取得見込みであり、共用試験実施評価機構より受験資格が停止されていない者。但し、取得すべき単位が全て取得できなかった場合は、遡って共用試験の受験資格を失い、全ての共用試験の試験結果は取り消される。

2 学校感染症等止むを得ない事由で試験の受験が不可能の場合には、所定の手続きの後、共用試験実施評価機構と協議の上、追試験を実施することができる。但し、共用試験実施評価機構の指針に基づき、原則、追試験に対する追試験及び再試験、再試験に対する追試験は実施しない。

### ( 実施日 )

第3 試験日については別途通知する。

### ( 実施方式 )

第4 共用試験実施評価機構の実施方式に基づき実施する。

### ( 受験料 )

第5 本試験、再試験ともに学生負担とし、金額は共用試験実施評価機構が定める。但し、追試験、延期試験、やり直し試験については免除とする。

### ( 合否基準 )

第6 共用試験 CBT および共用試験 OSCE の両方が、共用試験実施評価機構が定める到達基準に達したことをもって共用試験合格を判定する。

### ( 成 績 )

第7 共用試験 CBT の成績は IRT 標準スコアで表す。再試験において合格した場合の成績は到達基準点とする。

2 共用試験 OSCE の成績は合格、不合格で表す。

# 追 試 験 願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏 名

年度の（前期・後期）（定期・再）試験を下記事由により受験できませんでした。つきましては、下記科目について追試験を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科目名	授業科目責任者	番号	科目名	授業科目責任者
1			5		
2			6		
3			7		
4			8		

合計 科目 ( 円)

※1科目1,000円

事由(具体的に記載のこと)

(注) 1. 理由書(病気等の場合は医師の診断書、その他明確な理由書)を添付すること。

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

# 再 試 験 願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏 名

年度の下記科目について合格できませんでした。  
つきましては、再試験を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科 目 名	授業科目責任者	番号	科 目 名	授業科目責任者
1			8		
2			9		
3			10		
4			11		
5			12		
6			13		
7			14		

合計 科目 ( 円)

※1科目 3,000円

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

# 再 試 験 仮 受 験 願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏 名

年度（ 前期 ・ 後期 ）の下記科目について合格できませんでした。  
つきましては、再試験（仮受験）を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科 目 名	授業科目責任者	番号	科 目 名	授業科目責任者
1			8		
2			9		
3			10		
4			11		
5			12		
6			13		
7			14		

合計 科目（ 円）

※1科目 3,000円

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

## 岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因説明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット(含、Social Network Service)に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報(姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等)を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(マイクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

## 岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。
2. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。
3. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。
4. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。
5. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

平成 26 年 3 月 11 日制定

## G P A (Grade Point Average) 制度について

- 定 義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値であらわしたものである。
- 目 的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。  
また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位数上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

### ● 評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

- 対 象：各年度による

- 単位算出方法：
$$\frac{1 \text{ コマ } 2 \text{ 時間 (1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分)} \times \text{回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

- GPA 計算方法：
$$\frac{(\text{評価「A」単位数} \times 3 \text{ 点}) + (\text{評価「B」単位数} \times 2 \text{ 点}) + (\text{評価「C」単位数} \times 1 \text{ 点})}{\text{総単位数 (不合格科目を含める)}}$$

- GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

- 対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

## CAP 制度について

●目的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が1年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対象：全学部・全学年

●制度内容について

本学医学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必要な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3 単位

## 学生の教育成果物の利用について

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

## 本学医学部学生の大学院授業科目の先行履修に関する取扱い

岩手医科大学（以下「本学」という。）の医学部に在籍する学生に、岩手医科大学大学院（以下「本大学院」という。）の医学研究科（以下「研究科」という。）の授業科目を先行して履修させる場合の取扱いについて、次のとおり定める。

### （先行履修）

- 1 研究科は、本学の医学部に在籍する学生であって、本大学院への入学を希望する者のうち、あらかじめ本大学院の研究科の授業科目を履修させることが教育研究上有益であると認める者については、当該研究科等の授業科目を先行して履修すること（以下「先行履修」という。）を認めることができる。

### （資格）

- 2 先行履修をすることができる者は、本大学院の研究科等への入学を希望する本学の医学部3年次以上に在籍する学生のうち、先行履修をさせることが教育研究上有益であると当該研究科において認める者とする。  
但し、1～2次年生であっても、先行履修をさせることが教育研究上特に有益であると当該研究科において認められる場合は、当該希望者に先行履修を認めることができるものとする。

### （履修範囲）

- 3 先行履修をすることができる授業科目は、本大学院研究科の、博士課程における共通教育科目（必修）「研究方法論」のみとする。

### （単位認定）

- 4 研究科は、先行履修学生として授業科目を履修した者に対し、所定の単位を与えるものとする。  
この場合において、単位認定には、講義全体の3分の2以上の実出席とレポートの提出を要するものとする。

### （単位の取扱い）

- 5 4により先行履修学生が履修した授業科目について修得した単位は、当該先行履修学生が授業科目を履修した研究科に学部卒業後6年以内に入学した場合に限り、2単位を上限として当該研究科において修得した単位とみなす。

### （単位認定の範囲）

- 6 学部は、先行履修学生が履修した研究科の授業科目について、これを学部の単位として認定することはできない。

### （その他）

- 7 1から6までの事項のほか、先行履修に関し必要な事項については、研究科の定めるところによる。

### （改廃）

- 8 この取扱いの改廃は、医学研究科委員会の議を経て行う。

### （適用）

- 9 この取扱いは、平成30年度に本学の医学部に在籍する学生から適用する。

（平成29年12月6日開催：医学研究科委員会）

## 岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

- 1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。
  - (1) 午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報(以下「暴風警報等」という。)が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。
  - (2) 登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
  - (3) 岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
  - (4) 暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
- 2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。
  - (1) 前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。
  - (2) 前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。
  - (3) 前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。
  - (4) 学内外からの照会には各教務課があたる。
- 3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。
- 4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。
- 5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の議を経るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】(i) 警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。  
(ii) 警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。  
(iii) 学外の実習等の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

### 附 則

この要領は令和2年1月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

附 圖

医学部医学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名	
M:医学部	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	01	M1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	
				C:社会医学	01	M1-L1-C01	データサイエンス	
				F:医療プロフェッショナリズム	01	M1-L1-F01	行動科学	
				Z:教養	01	M1-L1-Z01	医療倫理学	
					02	M1-L1-Z02	法学	
					03	M1-L1-Z03	心理学	
					04	M1-L1-Z04	医療面接の基礎	
					05	M1-L1-Z05	情報リテラシー	
					06	M1-L1-Z06	物理学	
					07	M1-L1-Z07	物理学実習	
					08	M1-L1-Z08	専門課程への化学	
					09	M1-L1-Z09	エッセンシャル生物	
					10	M1-L1-Z10	化学実習	
				11	M1-L1-Z11	生物学実習		
				12	M1-L1-Z12	English Reading & Writing I		
				13	M1-L1-Z13	English Reading & Writing II		
		14	M1-L1-Z14	English Speaking & Listening I				
		15	M1-L1-Z15	English Speaking & Listening II				
		L:教養	2:選択必修	Z:教養	16	M1-L1-Z16	健康運動科学	
					17	M1-L2-Z17	ベーシック生物	
					18	M1-L2-Z18	スタンダード生物	
					19	M1-L2-Z19	アドバンスト生物	
					20	M1-L2-Z20	自然・文化人類学	
					21	M1-L2-Z21	ベーシック化学	
					22	M1-L2-Z22	ベーシック物理	
					23	M1-L2-Z23	解析学入門	
					24	M1-L2-Z24	医療とスポーツ	
					25	M1-L2-Z25	医療とコミュニケーション	
					26	M1-L2-Z26	道徳のしくみ	
					27	M1-L2-Z27	ベーシック数学	
					28	M1-L2-Z28	アドバンスト数学	
					29	M1-L2-Z29	アドバンスト化学	
					30	M1-L2-Z30	文学の世界	
					31	M1-L2-Z31	実践英語	
					32	M1-L2-Z32	医療と福祉	
					33	M1-L2-Z33	科学英語	
					34	M1-L2-Z34	医療と物語	
					35	M1-L2-Z35	人間関係論	
36	M1-L2-Z36				パーソナリティ心理学			
37	M1-L2-Z37				哲学の世界			
38	M1-L2-Z38				医療と法律			
S:専門	1:必修	F:医療プロフェッショナリズム	02	M1-S1-F02	医療入門(医療プロフェッショナリズムⅠ、地域医療学Ⅰを含む)			
			B:基礎医学	01	M1-S1-B01	分子細胞生物学Ⅰ		
				02	M1-S1-B02	分子細胞生物学Ⅱ		
				03	M1-S1-B03	医化学Ⅰ		
				04	M1-S1-B04	基礎組織学		
				05	M1-S1-B05	解剖学総論		
				06	M1-S1-B06	医科生理学		
			G:リサーチマインド	01	M1-S1-G01	初年次ゼミナール		
			E:基礎臨床統合医学	01	M1-S1-E01	症例基盤・問題解決型学修(入門)		
			F:医療プロフェッショナリズム	03	M1-S1-F03	医療安全学		
M:医学部	2:2年次 (基礎レベル)	L:教養	C:社会医学	02	M2-L1-C02	データサイエンスⅡ		
			Z:教養	39	M2-L1-Z39	医学英語入門		
			F:医療プロフェッショナリズム	04	M2-S1-F04	医療プロフェッショナリズムⅡ		
			H:臨床実習	01	M2-S1-H01	基本的医療手技Ⅰ		
		S:専門	1:必修	B:基礎医学	07	M2-S1-B07	組織学	
					08	M2-S1-B08	人体発生学	
					E:基礎臨床統合医学	02	M2-S1-E02	臨床解剖学
					B:基礎医学	09	M2-S1-B09	器官生理学
				10		M2-S1-B10	医化学Ⅱ	
				11		M2-S1-B11	神経科学	
				12		M2-S1-B12	微生物学	
				13		M2-S1-B13	免疫学	
				14		M2-S1-B14	病理学総論	
				15		M2-S1-B15	基礎医学演習	
				16		M2-S1-B16	薬理学	
				E:基礎臨床統合医学	03	M2-S1-E03	症例基盤・問題解決型学修(実践)	

医学部医学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名					
M:医学部	3:3年次 (応用/発展レベル)	L:教養	1:必修	Z:教養	40	M3-L1-Z40	医学英語					
		S:専門		A:IPE	02	M3-S1-A02	チーム医療リテラシー					
				E:基礎臨床統合医学	04	M3-S1-E04	器官病理学					
				C:社会医学	03	M3-S1-C03	疫学・環境医学					
				B:基礎医学	17	M3-S1-B17	基礎病態・社会医学演習					
				D:臨床医学	01	M3-S1-D01	消化器病学					
					02	M3-S1-D02	内分泌・代謝病学					
					03	M3-S1-D03	循環器病学					
					04	M3-S1-D04	呼吸器病学					
					05	M3-S1-D05	神経病学					
					06	M3-S1-D06	産婦人科学					
					07	M3-S1-D07	免疫病学					
					08	M3-S1-D08	血液病学					
					09	M3-S1-D09	小児科学					
					10	M3-S1-D10	腎臓病学					
					11	M3-S1-D11	臨床検査医学					
					12	M3-S1-D12	臨床医学演習					
				E:基礎臨床統合医学	05	M3-S1-E05	症例基盤・問題解決型学修(発展)					
				F:医療プロフェッショナリズム	05	M3-S1-F05	医療プロフェッショナリズムⅢ					
				H:臨床実習	02	M3-S1-H02	基本的医療手技Ⅱ					
G:リサーチマインド	02	M3-S1-G02	医学研究リテラシーⅠ									
	03	M3-S1-G03	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)									
F:医療プロフェッショナリズム	06	M3-S1-F06	地域医療学Ⅱ									
M:医学部	4:4年次 (高度レベル)	L:教養	1:必修	C:社会医学	04	M4-L1-C04	医事法学					
		S:専門		C:社会医学	05	M4-S1-C05	法医学					
				F:医療プロフェッショナリズム	07	M4-S1-F07	医療プロフェッショナリズムⅣ					
				D:臨床医学	13	M4-S1-D13	地域総合診療医学					
					14	M4-S1-D14	災害医学					
					15	M4-S1-D15	老年医学					
					16	M4-S1-D16	整形外科学					
					17	M4-S1-D17	リハビリテーション医学					
					18	M4-S1-D18	形成外科学					
					19	M4-S1-D19	耳鼻咽喉科頭頸部外科学					
					20	M4-S1-D20	眼科学					
					21	M4-S1-D21	皮膚科学					
					22	M4-S1-D22	泌尿器科学					
					23	M4-S1-D23	神経精神科学					
					24	M4-S1-D24	放射線医学					
					25	M4-S1-D25	麻酔学					
					26	M4-S1-D26	救急医学					
					27	M4-S1-D27	臨床遺伝学					
					28	M4-S1-D28	臨床腫瘍学					
					29	M4-S1-D29	臨床病理学					
					30	M4-S1-D30	感染症学					
					31	M4-S1-D31	統合医学演習					
					H:臨床実習	03	M4-S1-H03	基本的臨床技能実習				
					D:臨床医学	32	M4-S1-D32	症候学				
					M:医学部	5:5年次 配当レベル	S:専門	1:必修	H:臨床実習	04	M5-S1-H04	ベーシック臨床実習
									C:社会医学	06	M5-S1-C06	予防医学
									I:総合医学	01	M5-S1-I01	総合臨床医学
				M:医学部	6:6年次 配当レベル	S:専門	1:必修	H:臨床実習	05	M6-S1-H05	アドバンスト臨床実習	
								I:総合医学	02	M6-S1-I02	総合医学	
								A:IPE	03	M6-S1-A03	4学部合同セミナー	
				M:医学部	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	3:自由	Z:教養	41	M1-L3-Z41	海外英語演習	
S:専門	A:IPE	04	M1-S3-A04			地域医療課題解決演習						

M1-S1-A01  
①②-③④-⑤⑥

①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル(または入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号(2桁)
D:歯学部	2:2年次配当レベル(または基礎レベル)	S:専門	2:選択必修	B:基礎医学	
P:薬学部	3:3年次配当レベル(または応用/発展レベル)		3:自由	C:社会医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル(または高度レベル)			D:臨床医学	
	5:5年次配当レベル			E:基礎臨床統合医学	
	6:6年次配当レベル			F:医療プロフェッショナリズム	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1~4のレベルで振り分ける。			G:リサーチマインド	
				H:臨床実習	
				I:総合医学	
				Z:教養	

## 学生健康診断規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

(健康診断の実施)

第2条 大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年1回、健康診断を実施しなければならない。

2 健康診断は健康管理センターが実施する。

(健康診断の種類)

第3条 健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

2 定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

3 臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

(受診の義務)

第4条 学生は健康診断を受けなければならない。

2 学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

3 前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

(健康診断の総合評価及び通知)

第5条 健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

(事後措置)

第6条 学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者がいるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

2 学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

3 健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

(復学時の健康診断)

第7条 疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

(証明書の発行)

第8条 第3条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

令和8年度 学生健康診断等実施要領

1. 学生健康診断

\*M: 医学部、D: 歯学部、P: 薬学部、N: 看護学部、DH: 医療専門学校歯科衛生学科

健診日時		対象学生	個人票配付時間・場所		健診会場	健診項目
4月20日(月)	9:30~11:30	3M	9:20	キャンパスモール 階段下 (Yショップ前)  ・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。	<b>&lt;矢巾キャンパス 1階&gt;</b>  <b>■北側入口(胸部検診車)</b> ・胸部X線撮影  <b>■キャンパスモール</b> 正面入口付近 ・視力検査  <b>■キャンパスモール</b> ヤマザキショップ向かい側 ・血圧測定  <b>■東研究棟 SGL</b> ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診  <b>■西講義実習棟</b> キャンパスモール側トイレ ・尿検査  <b>■西研究棟 ラウンジ</b> ・血液検査	<b>■必須項目</b> ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影  <b>■学年別追加項目</b> <b>【1年】</b> ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 <b>【4年】</b> ・血液検査 ・尿検査  <b>■B型肝炎接種前検査</b> (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50			
	13:30~15:30	4P	13:20			
		4N	13:50			
		6M	14:20			
		3DH	14:50			
4月21日(火)	9:30~11:30	1M	9:20			
		1D	10:50			
	13:30~16:00	1P	13:20			
		6P	13:50			
		1N 3N編入生	14:30			
		1DH	15:20			
4月22日(水)	9:30~12:00	4M	9:20			
		2N	10:50			
	13:30~16:00	2M	13:20			
		2D	14:50			
		2P	15:10			
		2DH	15:30			
4月23日(木)	9:30~12:00	5M	9:20			
		3D	10:50			
		3P	11:20			
	13:30~15:30	5D	13:20			
		6D	13:40			
		5P	14:10			
		3N	14:40			

※ 変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

2. 心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日時	会場	内容
1N	4月20日(月)5限 16:20~17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限 14:40~16:10		
1P	4月22日(水)5限 16:20~17:50		
1M	4月24日(金)1限 8:50~10:20		
2~6年(M・D・P) 2~4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

3. 健康講話

対象	日時	会場	内容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限 16:20~17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限 10:30~12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

#### 4. ワクチン接種日程について

(1) B型肝炎ワクチン 対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区 分	日 時		対象学生	会 場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30~11:30	3M、4D	矢巾キャンパス  西研究棟1階 ラウンジ
		13:30~15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30~16:00	1N・1DH・3N編入生	
ワクチン接種 1回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 2回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 3回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

(2) インフルエンザワクチン 対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日 時		対象学生	会 場
内 丸	10月13日(火)	15:30	6D	内丸  創立60周年記念館 8階 研修室
		14:30	1DH	
	10月14日(水)	15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢 巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス  西講義実習棟2階 西2-C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P・3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
		10月23日(金)	13:30	
14:00	2D			
14:30	5M			
15:00	2P			
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

## 教養教育センター オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備考
人間科学科	哲学分野	林 研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦 康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野 研究室
	法学分野	廣瀬 清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野 研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川 由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
体育学分野	佐々木 亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野 研究室	
情報科学科	数学分野	江尻 正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川 大	月～金	16:30～17:30	225数学分野 研究室
	医学統計 情報学分野	高橋 史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野 保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科	奥村 健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室	
	小松 真	月～金	17:00～18:00	254物理学科 研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp	
	小田 泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科 研究室2	
化学科	中島 理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室	
	東尾 浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科 研究室	
	吉田 潤	月・水	16:30～17:30	255化学科 研究室	
生物学科	三枝 聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室	
	菅 孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室	
	内藤 雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科 研究室	
外国語学科	英語分野	柳谷 千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田 竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野 研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野 研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野 研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	高田 亮	月・火・水・金	16:00~18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤 純	月	月：12:00~13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤 智範	月・金	12:00~13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢 千早	月・水	10:00~12:00、13:00~16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平 進士	火・木	17:00~18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴崎 晶彦	月・火	16:00~17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村 英二	火	12:00~13:00	人体発生学分野 スタッフルーム	内線：5831
	中野 真人	月~金	17:00~18:00		
	足立 礼孝	月~金	16:00~18:00		
	勝本 恵一	月~金	16:00~18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野 朝幸	火~金	12:00~13:00、16:00~19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田 啓之	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
	アブタリ サイド シャリフ	月~金	12:00~13:00、16:00~19:00		
	阿久津 仁美	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
	平川 正人	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中階 克己	月~金	16:30~19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村 眞吾	月~金	16:30~19:00		
	鈴木 喜郎	月~金	16:30~18:45		
	望月 圭	月~金	18:00~20:30		
	駒切 洋	月・水・金	16:30~19:00		
	鈴木 享	月~金	16:30~19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子 桐子	月・火・水・木	16:00~18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木 亘	月・火・木	16:00~18:00		
	高橋 隼一郎	月・火・水・木	16:00~18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木 靖	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 教授室（308）	内線：5792
	海部 知則	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 スタッフルーム（307）	
	小田切 崇	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 スタッフルーム（306）	
	石川 静麻	月・火・水・木・金	12:00~13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平 英一	火・水	16:30~17:30	薬理学講座 スタッフルーム（365）	内線：5821
	ハサン アリフ ウル	月・火・水・木・金	16:00~17:00		
	小原 真美	月・水・金	16:00~17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡 竜貴	火・水	12:00~13:00	病理学講座 教授室（455）	内線：5920
	中村 啓哉	木・金	12:00~13:00	研究室	
	伊藤 謙	水・木	12:00~13:00		
	松崎 駿	月・水	12:00~13:00		
法科学講座 法医学分野	高宮 正隆	火	12:00~12:20	医局	内線：5682
	森川 剛	火	12:00~12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三	月~金	16:15~18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂 憲	月~金	16:15~18:00		
	田鎖 愛理	月~金	16:15~18:00		
	事崎 由佳	月~金	16:15~18:00		
	下田 陽樹	月~金	16:15~18:00		
	高梨 信之	月・火・水・金	16:15~18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本 主之	水	17:00~18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田 英克	水	17:30~18:30		
	宮坂 昭生	水	17:30~18:30		
	梁井 俊一	水	17:00~18:00		
	柿坂 啓介	火・木	16:00~18:00		
	鳥谷 洋右	水	17:00~18:00		
	永塚 真	水	17:00~18:00		
	佐々木 裕	水	17:00~18:00		
	遠藤 啓	水	16:30~17:00		
	吉田 雄一	水	16:00~16:30		
	阿部 珠美	水	18:00~18:30		
	鈴木 彰子	水	12:30~13:30		
	星 綾乃	水	17:00~18:00		
	大友 康司	水	17:00~18:00		
	佐々木 登希夫	水	16:30~17:00		
	今成 慧祐	水	16:30~17:30		
本多 俊介	水	16:30~17:30			
藤原 裕大	水	16:30~17:00			
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣 泰	火	15:00~16:00	医局	内線：6271
	高橋 義彦	金	16:00~17:00		
	瀬川 利恵	木	12:00~13:00		
	武部 典子	月	16:00~17:00		
	長谷川 豊	金	9:30~10:30		
	小田 知靖	火	12:00~13:00		
	富樫 弘文	水	16:00~17:00		
	千田 愛	水	12:00~13:00		
	千葉 拓	月	9:00~10:00		
	川島 智美	水	12:00~13:00		
吉田 絵里子	水	15:00~16:00			
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭 浩一	火	12:15~13:15	教授室	内線：6416
	吉川 和寛	火	12:15~13:15	医局	
	河嶋 英里	火	12:15~13:15		
	野田 晴也	火	12:15~13:15		
	岡本 好生	火	12:15~13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野 禎浩	月~金	12:00~13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田 大	月~金	12:00~13:30		
	大和田 真玄	月~金	12:00~13:30		
	房崎 哲也	月~金	12:00~13:30		
	肥田 頼彦	月~金	12:00~13:30		
	二宮 亮	月~金	12:00~13:30		
	芳沢 礼佑	月~金	12:00~13:30		
	芳沢 美知子	月~金	12:00~13:30		
	佐々木 航	月~金	12:00~13:30		
	二宮 開	月~金	12:00~13:30		
	澤 陽平	月~金	12:00~13:30		
	浅野 峻見	月~金	12:00~13:30		
	登坂 憲吾	月~金	12:00~13:30		
佐々木 健太	月~金	12:00~13:30			
内科学講座 呼吸器内科分野	川田 一郎	火・木・金	14:30~17:00	医局	内線：6251
	長島 広相	月・水・金	16:30~17:00		
	秋山 真親	火	16:30~17:00		
	内海 裕	月・水・金	16:30~17:00		
	堀井 洋祐	火・水・木	16:30~17:00		
	片桐 紘	月・木・金	16:30~17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本 稔	木(第4除く)	9:00~12:00	医局	内線：6471
	村田 典則	木	9:00~17:00		
	鈴木 悠地	木	9:00~17:00		
	駒ヶ嶺 正嗣	金	9:00~12:30		
	大河原 知治	水	9:00~12:00		
	舟嶋 英志	金	9:00~17:00		
	昆 康弘	水(第1.3)	14:00~17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹	火	16:30~17:00	教授室	内線：6401
	小宅 達郎	火・木	17:00~18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田 周吾	月・火・木	17:00~18:00		
	岡野 良昭	火・水	17:00~18:00		
	佐藤 剛	火・水	17:00~18:00		
	西谷 真来	月・火・水	12:00~15:00		
	前田 峻大	火・水	17:00~18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田 哲也	木	16:00~17:00	脳神経内科・老年科 医局	内線：6431,6432
	板橋 亮	水	16:00~17:00		
	工藤 雅子	月・火	16:00~17:00		
	石塚 直樹	金	16:00~17:00		
	赤坂 博	水	16:00~17:00		
	鈴木 真紗子	木	16:00~17:00		
	岩岡 和博	水	16:00~17:00		
	高橋 真	水	16:00~17:00		
	高橋 健太	水	16:00~17:00		
	津田 圭介	水	16:00~17:00		
	大井 清貴	水	16:00~17:00		
	田口 啓太	水	16:00~17:00		
	寺内 貴廣	水	16:00~17:00		
外科学講座	佐々木 章	火	15:00~17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田 浩幸	火	14:00~17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木 信	火	14:00~17:00	外科学講座 医局	
	梅邑 晃	火	14:00~17:00		
	井原 欣幸	火	14:00~17:00		
	藤野 順子	火	10:00~11:00		
	馬場 誠朗	水	14:00~17:00		
	石田 和茂	火	14:00~17:00		
	八重樫 瑞典	木	9:00~11:00		
	武田 大樹	火	14:00~17:00		
	二階 春香	水	14:00~17:00		
	安藤 太郎	火	14:00~17:00		
	佐々木 教之	火	14:00~17:00		
	天野 総	火	14:00~17:00		
	瀬川 武紀	火	14:00~17:00		
	天野 怜	火	14:00~17:00		
	川島 到真	火	14:00~17:00		
	熊谷 秀基	水	14:00~17:00		
	棚橋 洋太	火	14:00~17:00		
	菊地 晃司	火	14:00~17:00		
脳神経外科学講座	赤松 洋祐	月~金	17:00~18:00	脳神経外科学講座 医局	会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。 (9:00~16:00) 内線：6422,6421
	別府 高明	火	17:00~18:00		
	石垣 大哉	月~金	17:00~18:00		
	佐藤 雄一	月・水・木	17:00~18:00		
	佐浦 宏明	月~金	17:00~18:00		
	吉田 純	月~金	17:00~18:00		
	大志田 創太郎	月~金	17:00~18:00		
	筒井 肇太	月~金	12:00~13:00		
柳原 普	月~金	17:00~18:00			

心臓血管外科学講座	金 一	水・金	17:00~18:00	西5階心臓血管外科 医局	内線：6411
	小泉 淳一	水・木	17:00~18:00		
	枝木 大治	月~金	17:00~18:00		
	齋藤 大樹	月~金	17:00~18:00		
	塩屋 雅人	月~金	17:00~18:00		
	田林 東	月~金	17:00~18:00		
	正木 直樹	月~金	17:00~18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤 元	月~金	8:30~17:00	呼吸器外科学講座 医局	内線：6505
	出口 博之	月~金	8:30~17:00		
	友安 信	月~金	8:30~17:00		
	重枝 弥	月~金	8:30~17:00		
	兼古 由香	月~金	8:30~17:00		
	岩井 英頌	月~金	8:30~17:00		
整形外科科学講座	田島 吾郎	水	9:00~12:00	整形外科科学講座 医局	内線：6562
	佐藤 光太郎	木	10:00~11:00		
	丸山 盛貴	木	17:00~18:00		
	大竹 伸平	木	16:00~17:00		
	三又 義訓	月	14:00~17:00		
	及川 伸也	金	9:00~10:00		
	及川 龍之介	火	16:00~17:00		
	鈴木 忠	金	9:00~10:00		
	村上 賢也	火	15:00~17:00		
	山部 大輔	水	17:00~18:00		
	楊 寛隆	金	17:00~18:00		
	千葉 佑介	金	9:00~10:00		
	和田 俊太郎	金	16:00~17:00		
	松浦 真典	水	8:30~9:30		
	高橋 裕孝	水	8:30~9:30		
月村 悦子	水	8:30~9:30			
形成外科学講座	櫻庭 実	水・金	17:00~18:00	医局	内線：6571
	本多 孝之	水・金	16:00~17:00		
	小野寺 文	水・金	16:00~17:00		
	三橋 伸行	木・金	16:00~17:00		
	阿部 桃子	月~金	15:00~16:30		
	山崎 友和	月・水	16:00~17:00		
産婦人科学講座	馬場 長	火	16:00~17:00	産婦人科学講座 医局	内線：3750
	小山 理恵	金	16:00~17:00		
	庄子 忠宏	金	16:00~17:00		
	利部 正裕	金	16:00~17:00		
	岩動 ちず子	金	16:00~16:30		
	永沢 崇幸	金	16:00~17:00		
	尾上 洋樹	火	16:00~17:00		
	羽場 巖	金	16:00~17:00		
	川村 花恵	金	16:00~17:00		
	佐々木 佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 翔	講義終了後に受け付ける			
	高取 恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道 善隆	金	16:00~17:00		
	村上 一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木 南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川 絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵 実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田 有加	講義終了後に受け付ける			
高木 駿	講義終了後に受け付ける				

小児科学講座	赤坂 真奈美	月・木	17:00~18:00	医局	内線：3701
	石川 健	火	12:00~13:00		
	齋木 宏文	木	12:00~17:00		
	外館 玄一朗	火・木	13:00~17:00		
	鳥谷 由貴子	火・水・木・金	15:00~17:00		
	中野 智	火	12:00~13:00		
	松本 敦	月・水	17:00~18:00		
	三浦 翔子	水・金	14:00~16:00		
	水間 加奈子	月・火・金	12:00~13:00		
	草野 修司	月・火・金	12:00~13:00		
	朝倉 賀子	月・火・木・金	14:00~18:00		
	八畝 瑛子	火・木	11:00~12:00		
	谷藤 幸子	月・火	12:00~14:00		
	浅見 麻耶	月・火	9:00~17:00		
	佐藤 啓	水・木	12:00~14:00		
	小野寺 千夏	金	12:00~14:00		
	田金 星都	月~木	16:00~17:00		
	滝沢 友里恵	木・金	12:00~14:00		
	千田 悠太郎	火・水	16:00~17:00		
	吉田 太郎	月・木・金	14:00~16:00		
	阿部 志津香	月~金	11:00~17:00		
	齋藤 寛治	月・金	16:00~17:00		
	鈴木 幸之介	月・水・木	9:00~17:00		
	高橋 学	火・木	14:00~16:00		
千葉 智子	月・火・木・金	9:00~11:00			
豊島 浩志	月・水・木	14:00~17:00			
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00~19:00	医局	内線：6302
	片桐 克則	木・金	17:00~19:00		
	及川 伸一	火	10:00~17:00		
	亀井 昌代	火・木	17:00~		
	阿部 俊彦	火・木・金	17:00~		
	桂 彩	火・水	17:00~		
	土田 宏大	月	18:00~18:30		
眼科学講座	黒坂 大次郎	月	17:00~18:00	眼科学講座 医局	内線：6582
	橋爪 公平	月	16:00~17:00		
	新田 順福	月	17:30~18:30		
	及川 誠	月	17:30~18:30		
	清野 太郎	月	17:30~18:30		
	橋浦 哲哉	月	14:00~16:00		
	伊藤 愉一胤	月	17:00~18:00		
	今泉 利康	月	17:00~18:30		
	大島 広之	月	17:00~18:00		
	福田 一央	月	17:00~18:00		
皮膚科学講座	天野 博雄	水	17:00~18:00	皮膚科学講座 医局	内線：6543
	角田 加奈子	月	10:00~12:00		
	渡部 大輔	木	17:00~18:00		
	三浦 慎平	火	17:00~18:00		
	渡辺 彩乃	水	16:00~17:00		
	井上 剛	水	17:00~18:00		

泌尿器科学講座	小原 航	水	9:00~10:00	泌尿器科学講座 医局	内線：6551
	阿部 貴弥	月	9:00~10:00		
	杉村 淳	水	18:00~19:00	内丸MC控室	
	兼平 貴	火	18:00~19:00	泌尿器科学講座 医局	
	加藤 廉平	月	18:00~19:00		
	前川 滋克	火	18:00~19:00		
	五十嵐 大樹	火	18:00~19:00		
	塩見 叡	火	18:00~19:00		
	井藤 綾人	火	18:00~19:00		
	阿部 正和	火	18:00~19:00		
	田村 大地	海外留学中	海外留学中		
	久野 瑞貴	火	18:00~19:00		
神経精神科学講座	大塚 耕太郎	火	16:30~18:00		矢巾附属病院10階 神経精神科学講座 医局
	八木 淳子	金	12:00~13:00		
	三條 克巳	水	17:00~18:00		
	福本 健太郎	火	16:00~17:00		
	山家 健仁	火	16:00~17:00		
	内出 希	金	10:00~12:00		
	三田 俊成	水	16:00~17:00		
	吉岡 靖史	月	16:00~17:00		
	本多 笑奈	木	9:00~10:00		
放射線医学講座	田中 良一	月・金	16:00~16:30	放射線科 医局	内線：6322
	加藤 健一	月・水・木・金	16:00~16:30	放射線科 読影室	内線：2121
	鈴木 智大	火・木	16:00~17:00		
	田村 明生	火~金	16:00~17:00	放射線科 医局	内線：6322
	鈴木 美知子	月・木・金	9:00~10:00	放射線科 読影室	内線：2121
	折居 誠	月・金	16:00~17:00		
	小原 牧子	水	12:00~13:00		
	川島 和哉	月・金	15:00~17:00		
	曾根 美都	月・金	15:00~17:00		
	向井田 瑛佑	水・木	16:00~17:00		
	藤原 純平	月・金	15:00~17:00		
麻酔学講座	熊谷 基	月~金	16:30~	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑 光彦	月~金	16:30~		
	脇本 将寛	月~金	16:30~		
	水間 謙三	月~金	16:30~		
	久慈 昭慶	月~金	16:30~		
	中野 雄介	月~金	16:30~		
	田村 雄一郎	月~金	16:30~		
	畠山 知規	月~金	16:30~		
	富田 美智子	月~金	16:30~		
	小川 祥平	月~金	16:30~		
	高橋 裕也	月~金	16:30~		
	栗原 寛人	月~金	16:30~		
	新居 正季子	月~金	16:30~		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究	火	14:00~17:00	臨床検査医学・感染症学講座 教授室	内線：6331
	藤原 亨	木	12:00~13:00	臨床検査医学・感染症学講座 医局	
	小野寺 直人	木	9:00~10:00		
	熊谷 亜希子	月	12:30~13:30		
	七崎 之利	月	13:00~14:00		
	高橋 敬太	木	11:00~12:00		
	日比谷 健司	火	9:00~12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬 智彦	火・木	14:00~17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	高橋 学	月~金	12:00~13:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
	藤田 友嗣	月~金	12:00~13:00		
	菅 重典	月~木	12:00~13:00		
	佐藤 寿徳	月~金	12:00~13:00		
	吉直 大佑	月~金	12:00~13:00		
	森野 豪太	月~金	12:00~13:00		
	野々口 マリア	月~金	12:00~13:00		
	横藤 壽	月~金	12:00~13:00		
	富永 綾	火・水	14:00~17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	藤原 弘之	火・木	14:00~17:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
	金子 拓	火・木	14:00~17:00		
	寺山 茉莉	月~金	12:00~13:00		
	星 眞太郎	月~金	12:00~13:00		
総合診療医学講座	下沖 収	月	17:00~18:00	医局	内線：#6304
	大間々 真一	月	17:00~18:00		
	高橋 智弘	木	17:00~18:00		
	米田 真也	月・火・水	16:00~17:00		
	山田 哲也	月・火	17:00~18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野 靖久	月~金	12:00~13:00	救急センター 医局	内線：2683
	小鹿 雅博	月~金	12:00~13:00		
	千田 光平	月~金	12:00~13:00		
	三崎 俊斉	月~金	12:00~13:00		
	丹田 実	月~金	12:00~13:00		
	石井 修平	月~金	12:00~13:00		
	佐々木 秀策	月~金	12:00~13:00		
	八鍬 一貴	月~金	12:00~13:00		
	藤本 健太郎	月~金	12:00~13:00		
	石田 馨	月~金	12:00~13:00		
	藤澤 良介	月~金	12:00~13:00		
佐藤 貴紀	月~金	12:00~13:00			
病理診断学講座	柳川 直樹	月~金	17:00~	医局	内線：2393
	刑部 光正	月~金	17:00~		
	杉本 亮	月~金	17:00~		
	伊藤 一洋	月~金	17:00~		
臨床腫瘍学講座	板持 広明	月	15:00~17:00	医局	内線：2083
	岩谷 岳	水・木	17:00~19:00		
	遠藤 史隆	金	15:00~17:00		
医療安全学講座	肥田 圭介	木	12:00~14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島 嗣生	火・水	17:00~19:00	睡眠医療学科 医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川 敬輔	月・火・木	17:00~19:00		
	細川 里絵	水	9:00~12:00		
臨床遺伝学科	鈴森 伸宏	金	16:00~17:00	臨床遺伝学科 医局	内線：#3258
	山本 佳世乃	金	16:00~17:00		
	吉田 明子	水	16:00~17:00		
	小林 有美子	金	16:00~17:00		
	勝部 暢介	月	16:00~17:00		
緩和医療学科	木村 祐輔	月~水	17:00~18:00	緩和医療学科 医局	内線：3364
	鴻巣 正史	月・火・金	17:00~18:00		
	中村 聖華	月・火	17:00~18:00		
放射線腫瘍学科	有賀 久哲	火	17:00~18:30	医局	内線：6322
	菊池 光洋	月	17:00~18:00		
	及川 博文	火	17:00~18:00		
	家子 義朗	月	17:00~18:00		
	瀬川 昂史	月	12:00~13:00		
リハビリテーション医学講座	西村 行秀	月・火	月：14:00~17:00 火：10:00~12:00	教授室	内線：3733
	西山 一成	火・金	火：9:00~12:00 金：10:00~12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平 美津子	火	17:00~18:00	神経精神科学講座 医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク 機構臨床研究・疫学研究部門	永井 雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバンク 機構生体情報解析部門	須藤 洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山崎 弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠 詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

## 医歯薬総合研究所 オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
	世良田 聡	月・木	13:00~17:00	107室	内線：5635
	西塚 哲	火・木	火：16:00~17:00木：12:00~13:00	教授室	内線：5685
	鈴木 悠地	木	9:00~17:00	医局	内線：6471
	阿保 亜紀子	水・木・金	10:00~17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳 平	月~金	16:00~17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開 勇人	火・木・金	10:00~17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	吉岡 芳親	水・木・金	12:00~13:00	超高磁場先端MRI研究所 データ解析室	内線5374 ※事前に連絡をすること
	和田 学	月・木	15:00~17:00	109-2	内線：5634
	寺崎 一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下 典生	月・水	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野 育子	月・火・水	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木 敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井 淳	水	12:00~13:00	動物研究センター	内線：5390
	森 太志	水・木・金	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

## 歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

1. 時 間                    あらかじめ特定の時間帯を示す。
2. 面談方式                オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学 長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ることに
解剖学講座 機能形態学分野	藤原 尚樹	月~金	16:30~17:30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡 望	月~金	16:30~17:30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生生物・再生医学分野	原田 英光	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津 圭史	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎 晶二郎	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬 雅之	月・木	16:30~17:30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤 哲也	火・水	16:30~17:30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎 明	月	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐 直幸	水	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田 聖司	水	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河 太知	月~金	16:00~17:00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦 利貴	月~金	12:00~13:00 16:00~17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303 内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村 正帆	月	16:00~16:30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村 晴希	月	12:00~13:00 16:00~17:00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田 ありさ	月	16:00~17:00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江 太朗	木	16:00~18:00	病理学講座病態解析学分野 教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤 泰生	木	16:00~17:30	病理学講座病態解析学分野 461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子	木	18:00~19:00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム 内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本 真治	木	16:30~17:30	医療工学講座教授室西 317 (内線 5760) takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木 かおり	月・木	16:30~17:30	医療工学講座スタッフルーム西 316 (内線 5763) sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田 守	木	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野 明子	月	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田 弥栄子	火	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東 兼司	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上 雄亮	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚 泰寛	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水 彩恵子	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木 大平	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木 大輔	月	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井 治	火・木	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) osamura@iwate-med.ac.jp
	鈴木 啓太	水	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原 恵子	火	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) kaihora@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林 琢也	金	17:00~18:00	教授室(441号室) 内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤 宏明	木	17:30~18:30	義歯外来、医局、研究室 内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤 悠	木	17:00~18:00	医局、研究室 内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤 紗織	木	17:00~18:00	医局、研究室 内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原 総一郎	火	17:00~18:00	医局、研究室(406号室) 内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田 崇史	木	17:00~18:00	医局、研究室(406号室) 内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤 凌	木	17:00~18:00	医局、研究室(404号室) 内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今 一裕	火	17:00~18:00	医局、研究室 453号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤 翔太	水	17:30~18:30	医局、研究室 447号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田 潤	火	17:00~18:00	医局、研究室 445号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福德 暁宏	水	17:00~18:00	医局、研究室 447号室 内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤 裕美子	月	16:00~17:00	医局、研究室 433号室 内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木 溪斗	水	17:00~18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸 勇樹	水	17:00~18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星 美貴	水	17:30~18:30	医局、研究室 445号室 内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田 浩之	月	18 : 00~19 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野 教授室 内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井 忠	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋 祐生	月・火・ 木・金	18 : 00~20 : 00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城 慎太郎	金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kshint@iwate-med.ac.jp
	平野 大輔	月・木・金	16 : 00~17 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋 美香子	水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮 孝之	月・水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本 祐基	火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又 慎介	月・火・ 木・金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅 絵里加	月・火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤 健一	火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田 真未	月	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤 州	金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上 和奏	水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町 晴香	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤 五月	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤 充	火・木・土	12:00~13:00	歯科放射線学分野・特任教授室(134号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	高橋 徳明	火・木	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤 仁	木	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野 正行	水・金	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星 勲	水	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森 尚城	月・火・水	12:00~13:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野 江美	火・木・金	12:00~13:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤 和朗	木	17:00~18:00	歯科矯正学分野・教授室(456号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島 幸紀	木	17:00~19:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚 康之	月	17:00~19:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池 恵美子	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼 莞奈	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤 慶子	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田 茜	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田 弘法	月	17:00~18:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷 美保	月～木	18:00～19:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71557) mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤 桂子	月～金	18:00～19:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71587) ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部 可奈子	月・水・ 木・金	16:00～17:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71485) kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉 俊美	月～金	16:00～17:00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室 440号室 内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王 挺	月～金	16:00～17:00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室 444号室 内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤 俊郎	火・水・木	17:00～18:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐 美歩	月～金	16:00～17:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) mibi@iwate-med.ac.jp
	大石 泰子	火・木・金	16:00～17:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤 華子	月・金	17:00～18:00	予防歯科学分野 517号室 (内 #4518) satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山 由紀子	月・水・木	17:00～18:00	予防歯科学分野 517号室 (内 #4518) yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

## オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。有効に利用してください。

希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野 富一	月・水・金	12:00~13:00 場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原 哲也	火・木・金	17:00~18:00 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣 祥	火・水・木	17:00~18:00 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦 太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00 場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野 孝	月～金	16:00~18:00 場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中 孝昌	金	16:20~17:00 場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本 泰光	月～金	16:30~17:30 場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
分析化学分野	藤本 康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00 場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。	
生物薬学講座	機能生化学分野	關谷 瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00 場所：機能生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	生体防御学分野	大橋 綾子	月～金	12:05~12:55 場所：生体防御学分野にて(東研究棟3階 352-353) 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		錦織 健児	月～金	16:10~18:00 質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場 博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00 場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原 俊朗	月・火・木 水・金	16:10~18:00 18:00~19:00 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム(西研究棟356) 等 左記以外でも在室時は可
		高橋 巖	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口 拓也	月～金	16:00~19:00 場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
医療薬科学講座	創剤学分野	杉山 育美	月～金	16:10~17:30 場所：創剤学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬物代謝動態学分野	幅野 渉	月～金	16:00~18:00 場所：薬物代謝動態学分野(東研究棟4階 459~461) 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島 潤	月～金	9:00~17:00 場所：薬物代謝動態学分野(東研究棟4階 459~461) 在室時は随時対応
	衛生化学分野	杉山 晶規	月～金	17:00~19:00 場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤 穂波	月～金	17:00~19:00 場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤 賢三	月～金	17:00~19:00 場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀 純一	月～金	17:00~19:00 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋 宏彰	月～金	16:30~18:00 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷 直之	月～金	16:30~18:00 場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京 智子	月～金	16:30~18:00 場所：情報薬科学分野スタッフルーム
		氏家 悠貴	火～金	13:00~17:00 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
	地域医療薬学分野	松浦 誠	月～金	16:10~18:00 場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石 博久	月～金	12:10~12:50 場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部 オフィスアワー 一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属	担当教員	曜日	時間帯	備考	
(マルチメディア教育研究棟4階) 共通基盤看護学講座	基礎	野里 同	火・水・木	16:30~17:30	研究室19 内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木 ゆきえ	水	16:00~17:00	研究室8 内線5401 事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林 由美子	火・水・木	16:00~17:00	研究室15 内線5402 事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田 悠史	火・水・木	16:00~17:00	研究室9 内線5406 メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤 奈美枝	月	16:00~17:00	研究室6 内線5419 事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤 奈央	火・木	16:00~17:00	研究室20 内線5358 事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂 未来	火・金	15:30~16:30	研究室13 内線5404 事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上 邦子	月・金	16:30~17:30	研究室13 内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中 るり子	木	16:00~17:00	研究室9 内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
	(マルチメディア教育研究棟4階) 地域包括ケア講座	地域	岩淵 光子	木	12:00~13:00
藤澤 純子			月・金	12:00~13:00	研究室9 内線5359 事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
赤井 純子			火・木	12:00~13:00	研究室9 内線5426 メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
五日市 瑠美子			水・木	12:00~13:00	研究室9 内線5202 事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
老年		館向 真紀	火・水・木	16:00~17:00	研究室15 内線5407 事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池 佑弥	火・水・木	16:00~17:00	研究室9 内線5405 事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
精神		遠藤 太	木	16:30~18:00	研究室3 内線5417 事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地 美枝	水・木	16:00~17:00	研究室4 内線5201 事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		高崎 邦子	火・木	16:30~17:30	研究室16 内線5418 事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
(マルチメディア教育研究棟4階) 成育看護学講座		小児	高橋 亮	水	16:30~17:00
	伊東 佐由美		月~金	16:00~17:00	研究室14 内線5409 事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛸崎 奈津子	月	15:00~17:00	研究室7 内線5353 事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田 由希子	水・木	12:00~14:00	研究室11 内線5355 事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里 真澄	月・水	15:00~17:00	研究室10 内線5354 事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		高橋 淳美	火・木・金	16:00~17:00	研究室14 内線5427 事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座 (東研究棟2階)	遠藤 龍人	水・木	14:00~16:00	研究室2 内線5420 メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp	
	塚本 恭正	月~金	15:00~17:00	研究室3 内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp	
	一ノ渡 学	水・木	15:00~17:00	研究室4 内線5422 事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp	
看護学部	非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。			

